慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵〔南北朝〕写老子道徳經：本文並びに訓読文・ 附本文校異記(二)
Sub Title	Nanbokucho manuscript copy Lao Tzu-Tao Te Ching in the Shido Bunko Institute: transcription and the Japanese rendering append text collation (2)
Author	山城, 喜憲(Yamashiro, Yoshiharu)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2006
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.41 (2006.) ,p.1- 84
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20060000-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学
附属研究所

斯道文庫蔵〔南北朝〕写 老子道德經

本文並びに訓読文 附本文校異記 (二)

山城喜憲

凡例

一、本翻印並びに訓読文の底本は斯道文庫に所蔵する次の古鈔本である。

老子道德經二巻 漢河上公章句
〔南北朝〕写 康應二年（一三九〇）施入識語本
大二冊（函架番号 〇九一—ト八八—二）

後補黄檗色艶出し古表紙（二三・四×一八・三糎）、左上に「道德經乾（坤）」と墨書。料紙、斐楮交漉紙。裏打ち補修が施さる。

無辺無形、字面高さ約一八・九糎、毎半葉六行行十一字、注小字双行行十一字。柱に「▲ 老子一（二）之（丁付）（丁付下に墨縦線）」と、版本版心の様式で題記さる。首の「老子經序」には朱句点、朱引、墨訓点、人名符を、経注本文には墨筆の句点、返点、送仮名、振仮名、連続符、音訓合符、声点を付し、行間に反切或いは直音注、僅かながら王弼注、明皇注の抄録、「イ」との校異の書入が見られる。墨訓点には希に墨色の異なる後の加筆が認められるが同一人の手によるものと想われる。

書誌事項についての詳細は、本稿(一)（『斯道文庫論集』第40輯）「凡例」を参照されたい。

本稿(二)では、巻上後半の第十七章から三十七章までを収め

た。四巻本で言えば、巻二に相当するところである。

一、上段に「本文」、下段に「訓読文」を配し、各章末に「校異」及び「訓読文補注」を附載した。

一、「本文」と「訓読文」は、各経文句、注文句頭に於いて、上下対照させた。従って、底本書写面の体裁は失われている。

一、「本文」では、各章題頭に原本の巻次、張次数、表裏、行次数を標した。

一、底本の本文は経文を適宜区切ってその下に割注を配してあるが、本翻印では、注文は、経文次行に一格を低し、同大文字で単行に改めた。（訓読文もそれに対応させた）

一、底本の異体字は可能な限りそのままに、ＪＩＳ第一・第二水準、ユニコード外の文字は作字して、翻字した。

一、底本の見消ちを付された字句は、そのままに翻字し、「校異」にその旨注記した。

一、加墨訂正された文字については、その訂正されたところに従って翻字した。その底本の様態について「校異」に言及した場合がある。

一、誤写に因る譌字はそのままに翻字し、「校異」でその様態を注記し、「訓読文」の当該字下〻〻内に正字を示す。

一、「訓読文」では、「本文」中に作字した異体字は原則として現行通用字体に改めている。

一、片仮名の訓の異体字は通用の字体に改めた。

一、句読点は、字の下右側の「。」を「°」、中央の「。」を「・」を以て表記した。但、文脈を勘案して、「°」を「・」、或は「・」を「°」に更めた場合がある。

一、漢音合・訓合・音訓・訓訓の符合は原本のままに従う。

一、不読の置き字は〔　〕で囲む。

一、畳字は下に（　）で囲み原字を示す。

一、再読の字は例えば『當ニー「當」シ』の様に表記した。

一、虫損等で文字が欠損しているところは□で示し、墨痕等から推定できる場合はその文字を□の中に記す。

一、推定で補った送り仮名等は全て（　）内に記す。

一、仮名訓の「云」等補助符合は小字にして表記した。

一、二訓以上の附訓が有る場合は、原則として右旁の一訓を主訓とし、左旁訓は原状のままに左旁に翻記する。但、音合、訓合両用されている場合など、そのままに翻記することの出来ない時は、一方を別訓として主訓の下［　］内に示した。

一、「為」の訓のうち、「ス」「ナス」を識別することは、特に

附訓がない場合困難である。右下傍に「ス」と明記されていればすべて送り仮名と看做して「ナス」と訓み「為ス」と翻記した。附訓が無ければ適宜「為」「為（ス）」と表記して一応「ス」「ナス」と訓み分けている。しかし、弁別しかねるところが殆どで失考も多いと思われる。後攷を期したい。

一、「自」の訓についても、「ミヅカラ」を、「自（ラ）」、「オノヅカラ」を「自（ツカラ）」と表記して区別したが、失考を瞿れる。

一、行間の音義注は原形の通り、訓読文の当該字に傍記した。その他の書入れ注記も該当位置行間に翻記している。

一、四声点の圏発は、当該字のしたに〈　〉で囲み、例えば「母〈平〉」「唯〈上〉」「稱〈去〉」「朴〈入〉」の様に翻記した。

一、「校異」では、各条頭に数字を冠し、「本文」字句右旁の数字と対応させた。

一、対校に用いた諸本及びその略称は次の通りである。

活Ⅰ　〔慶長〕刊古活字版

活Ⅱ　〔慶長〕刊古活字版　異植字版

陽Ⅰ　陽明文庫蔵〔室町末近世初〕写本二冊

書陵　宮内庁書陵部蔵〔室町〕写至徳三年（一三八六）識語本二冊

龍門　阪本龍門文庫蔵〔室町中期〕写本存首一巻一冊

無窮　無窮会図書館蔵（井上頼圀旧蔵）〔近世初〕伝写天文五年（一五三六）書写清家本一冊

足利　足利学校遺蹟図書館蔵〔室町〕写本二冊

筑波　筑波大学附属図書館蔵天文二十一年（一五五二）写本一冊

弘文　戸川濱男旧蔵〔室町末〕写元和五年（一六一九）付与識語本合一冊

斯Ⅱ　斯道文庫蔵（伊藤有不為斎・戸川濱男旧蔵）天文十五年（一五四六）写本二冊

梅沢　梅沢記念館蔵（戸川濱男旧蔵）應安六年（一三七三）写本二冊

慶Ⅰ　慶應義塾図書館蔵（戸川濱男旧蔵）天正六年（一五七八）足利学校南春写本一冊

大東　大東文化大学図書館蔵天正六年（一五七八）足利学校真瑞写本一冊宝素堂旧蔵経籍訪古志著録本

慶Ⅱ　慶應義塾図書館蔵大永五年（一五二五）写本存巻上道経一冊

武内　瀧川君山・武内義雄旧蔵〔室町〕写本一冊
東大　東京大学総合図書館蔵（南葵文庫旧蔵）〔室町末〕写本一冊
東洋　東洋文庫蔵〔室町末〕写本一冊
東急　大東急記念文庫蔵〔室町〕写本二冊
杏Ⅰ　杏雨書屋蔵（内藤湖南旧蔵）〔鎌倉末南北朝初〕写存巻上道経零巻一軸
　左藤道生氏蔵　断簡（第二十三章尾二十四章首計三行）
京都・観音寺蔵　断簡（第二十六章尾三行）
　左藤道生氏蔵　断簡（第三十一章中間三行）
六地　六地蔵寺蔵〔室町末〕写単経本一冊
陽Ⅱ　陽明文庫蔵〔近世初〕写単経本一冊
宋版　北京図書館蔵（常熟瞿氏鐵琴銅劍樓旧蔵）〔南宋〕建安虞氏家塾刊本
世徳　〔明嘉靖十二年（一五三二）〕世徳堂顧春刊本
道蔵　明正統刊道蔵本（道徳眞經註四巻）道蔵洞神部玉訣類知字号
敦Ⅰ　大英図書館蔵〔唐〕写零巻（存第三章～二十章、首尾欠）敦煌出土スタイン蒐集本（S四七七）
治要　羣書治要巻卅四所収本　宮内庁書陵部蔵〔鎌倉〕写金沢文庫本
天理　天理図書館蔵『老子道徳經河上公解〔抄〕』寛永四年（一六一八）写本存道経三十七章掲出経注文

尚、以上の諸本のうち、点本についてはその訓点を適宜参照し、書入本については、特にその校異の書入れに注目し、「校異」記中に取り入れた。特に「東洋」の藍筆書入れ、東洋文庫蔵「活Ⅰ」一本の書入れに言及することが多い。「東洋（青）」「東活」の標記はそれを意味するものである。

一、各本の書誌事項等詳細については拙著『河上公章句『老子道徳経』の研究』（東京　汲古書院　平成十八・二）緒論の七「対校諸本略解題」を参照されたい。

一、「校異」記中、同類本の略称を　一　で括って表記した。

一、「校異」で諸本と言うのは底本を除く対校した全ての本を指す。

一、「校異」及び「訓読文補注」において引載例示する文句の振仮名は、該字直下〈　〉内に小字で記す。

河上公章句第二[1][2][3]

上29オ5 淳風第十七[4]

太上下知有之[5]

太上謂太古無名号之君也[6][7][8][9][10][11][12][13]下知有之者下知上有君而不臣事質朴也[14][15][16][17][18]

其次親譽之[19]

其徳可見恩惠可稱故親愛而譽之[20][21]

其次畏之

設刑法以治之[22][23]

其次侮之

禁多令煩[24][25]不可皈誠[26][27]故欺侮之[28]

信不足焉[29]

君信不足於下則[32][33]有巧詐民也[34]

有[35]不信焉[36]

君信不足於下下[37]則應之以不信而欺其君也[38][39]

河上公章句第二

淳風第十七

太上ハ・下有(シモ)(ル)コトヲ知(ル)〔之〕

太上ト云ハ・太古ノ名号無キ〔之〕君ヲ謂(フ)〔也〕・下有(ル)コトヲ知(ル)ト因ハ〔之者〕・下上ノ君有(ル)コトノミヲ知(リ)テ・〔而〕臣トシ事ヘ不・質朴ナルソ〔也〕

其ノ次ハ・親ノ譽ス〔之〕

其ノ徳見(ル)可(ク)・恩惠稱〈去〉(ス)可(シ)・故ニ親愛ソ〔而〕譽(ホ)ム〔之〕

其ノ次ハ・畏(オ)ツ〔之〕

刑法ヲ設ケテ・以(テ)治(ム)ルソ〔之〕

其ノ次(ハ)・侮(アナト)ル〔之〕

禁多ク令(イタツカハ)シクソ・誠ニ皈(カラ)ス可(カラ)不・故ニ欺キ侮ル〔之〕

信足(ラ)不(ル)トキハ〔焉〕

君ノ信・〔於〕下ニ足(ラ)不(ル)トキハ・〔則〕巧詐ノ民有(リ)〔也〕

不信有(リ)〔焉〕

君ノ信・〔於〕下ニ足(ラ)不(ル)トキハ・下〔則〕應(ヒ)ス[ル]ニ

猶兮其貴言[40][41]

説太上之君舉事猶〻貴重於言恐離道失自然[42][43][44][45][46]

功成事遂[47]

謂天下太平也[48]

百姓皆謂我自然[49]

百姓不知君上之德淳厚反以為自當然也[50][51][52][53][54][55]

〔之〕・不-信ヲ以テ・〔而〕其ノ-君ヲ欺ク〔也〕

猶[1]トソ〔兮〕・其ノ言ヲ貴フトキハ

太-上ノ〔之〕君ヲ説(フ)・事ヲ舉(ル)ニ猶々トソ・〔於〕言ヲ貴ヒ-重ス。道ヲ離レテ自-然ヲ失ハンコトヲ恐ル

功-成(シ)事-遂(ケ)テ

天-下太-平ヲ謂(フ)〔也〕

百姓・皆謂(オモ)ヘラク我ヲ自-然ナリト「謂」(ヘリ)

百-姓・君-上ノ〔之〕德ノ淳-厚ナルコトヲ知(ラ)不・反(ヘ)(リ)テ以-為ヘラク自(ツカラ)當ニ然(ル)「當(ヘ)」シト「以-為」ヘリ

〔也〕

校異

1 「河上公章句第二」、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理] 此の小題無し、但、[梅沢] は章題右の行間に「老子道經　河上公章句弟二イ」の書入れが有る

2 [道蔵] 「第二」二字無し

3 [敦Ⅰ] [二] 字下に「品」字有り

4 [無窮・書陵・龍門・足利・斯Ⅱ・東急・敦Ⅰ・六地・陽Ⅱ] 章題無し、[筑波・武内・東大・東洋] 「風」字下「章」字有り、[弘文・慶Ⅰ・大東] は「太上章第十七」に、[慶Ⅱ] は「大上章第十七」に作る

5 [龍門・梅沢・六地・陽Ⅱ] 「大」字に作る

6 [梅沢] 「大」字に作る

7 [東急] 「大」字に作る、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・無窮・龍門・書陵・東洋・梅沢・天理] 「上」に作る

8 [活Ⅱ] 「占」字に誤る

9 [陽Ⅰ・筑波・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・斯Ⅱ・龍門・東洋・宋版・治要] 「无」字に作る

10 [活Ⅰ・陽Ⅰ・書陵・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・斯Ⅱ・弘文・足利・梅沢・東急・治要・宋版・世德] 「号」字無し、但、[慶Ⅱ] は「名之」字間に小圏を施し右旁に「号」字を加筆する

11 「無名号之」、[敦Ⅰ] 「无為之」に作る

12 [陽Ⅰ] 「若」字に誤る

13 [敦Ⅰ・治要] 「也」字無し

14 「知有之」、[慶Ⅰ・大東] 此の三字無し

15 「有」字上、[無窮] 「上」字有り

16 「事」字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・天理]

17 「之」字有り、但、［梅沢］は「事質」の字間に加筆
18 ［斯Ⅱ］［利］に誤る、［朴］字下、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・龍門・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東洋・東急・敦Ⅰ・道蔵・治要・天理］には「淳」字、［武内］には「烹」字が有る
19 ［書陵・敦Ⅰ・道蔵］「也」字無し、［梅沢］「也之」二字に作る、［東急］字下、又「也」字有り衍
20 ［親］字下、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・六地・陽Ⅱ・敦Ⅰ・東急・宋版・世徳・治要・天理］は「之」字、［道蔵］は「而」字有り
21 ［斯Ⅱ］［德］に作る
22 ［梅沢］［也］字に作る、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・天理］「之也」二字に作る
23 ［足利・梅沢］［形］に作る
24 ［道蔵］は「也」字に、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理］は「之也」二字に作る
25 ［道蔵］「命」字に作る
26 ［宋版］「須」字に誤る
27 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・足利・梅沢・東急・敦Ⅰ・宋版・世徳・道蔵・治要］「歸」字に作る
28 ［足利］［識］字に誤る、但、見消ちを付す
［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・治要］「之也」に、［東洋］は「之者也」に作る、尚、［東活］の「也」字傍に「才」
29 ［道蔵］［有］に作る、尚、［東洋（青）・東活］の「信」字左旁に「故才」の校異書入れ有り
30 ［斯Ⅱ］［焉］字無し
31 ［君信不足於下］、［宋版・世徳・治要］此の六字無し
32 ［下］字下、［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・東大・慶Ⅰ・大東・東洋・天理］は［也］字、［梅沢］は「之也」二字有り
33 ［則有巧詐民］、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・慶Ⅰ・大東・足利・東洋・梅沢・宋版・世徳・治要・天理］此の五字無し、尚、［東洋］は地脚に此の五字を加筆補入する、［道蔵］［下則欺詐於上］に作る
34 ［東大・敦Ⅰ］［也］字無し
35 ［有不信焉］、［宋版］此の四字無し、恐らくは譌脱
36 ［東急・敦Ⅰ・世徳］「焉」字無し
37 ［君信不足於下］、［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・天理］此の六字無し
38 ［下則］、［東洋］［則下］に作る
39 ［敦Ⅰ・道蔵］［也］字無し
40 ［東洋］［猶］字左旁に［或作悠］の校異書入れ有り
41 ［龍門・書陵・六地］［其］字無し
42 ［龍門］［大］字に作る
43 ［道蔵］［古］に作る
44 ［東大］［之］字無し
45 ［猶々］、［宋版・世徳］［猶］一字に、［敦Ⅰ］［猶々然］に作る
46 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・天理］「也」字有り
47 ［功成事遂］、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・六地・陽Ⅱ・敦Ⅰ・東急・天理］「成功遂事」に作る
48 ［龍門・書陵・慶Ⅱ・敦Ⅰ・道蔵］［也］字無し
49 ［東活］［謂］字左旁に［曰才］の校異書入れ有り
50 ［敦Ⅰ］［上］字無し
51 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東洋・東急・敦Ⅰ・天理］「淳」字無し、但、［梅沢］は「徳厚」字間に小圏を付し右旁に［淳］字を加筆
52 ［敦Ⅰ］［乃］字に作る
53 ［自］字上、［宋版・世徳］に「只」字、［道蔵］に「已」字有り
54 ［道蔵］［如］に作る
55 ［東大・敦Ⅰ・道蔵］［也］字無し

上31オ4

俗薄第十八[1]

大道廢焉[2]有仁義

大道之時家[3]有孝子戸[4]有忠信[5]仁義不見也[6][7]大道廢不用[8]惡逆生乃有[9]仁義可傳[10]道也[11][12]

智[13]惠出焉[14]有大偽

智惠之君賤德[15]而貴言賤質[16]而貴文下則應之以為[17]大偽[18]奸詐也

六親不和[19]有[20]孝慈

六紀[21]廢紀[22]親戚[23]不和乃有孝慈相収[24]養也[25]

國家昏乱焉[26]有忠臣

政[27]令不行上下相怨邪僻[28]争權[29]乃有忠臣匡[30]救[31]其君也[32]

此[33]言天下太[34]平不知仁人[35]盡無[36]欲不知廉各自[37]潔巳不知貞大道之世[39]君[40]仁[41]義没孝慈滅猶日中盛明[42]衆[43]星[44]失光者[45]也

俗ー薄第十八

大ー道廢(スタ)レテ〔焉〕・仁ー義有(リ)

大ー道ノ〔之〕時ハ・家(イエ)ニ孝ー子有(リ)。戸(ヘ)ニ忠ー信有(リ)。

仁ー義見(アラ)〈去〉ハレ不〔也〕。大ー道廢レテ用(ヰ)ラレ不ヽ・惡ー逆生(ス)・乃(チ)仁ー義ノ傳ヘ_道(フ)可(キコト)有(リ)〔也〕

智ー惠出(テ)テ〔焉〕・大ー偽有(リ)

智ー惠ノ〔之〕君ハ德ヲ賤(シク)シテ〔而〕言ヲ貴フ・質ヲ賤(シク)シテ〔而〕文ヲ貴(フ)。下〔則〕應〈去〉シテ〔之〕・以テ大ー偽奸ー詐ヲ為(ス)〔也〕

六ー親和セ不ヽ・孝ー慈有(リ)

六ー記廢レ紀(ヤハラカ)〔絶〕(タヘ)ヘ・親ー戚不ー和ニヽ・乃(チ)孝ー慈有(リ)テ・相収メ_養フ〔也〕

國ー家昏ー乱ヽ〔焉〕・忠ー臣有(リ)

政ー令行ハレ不・上ー下相_怨ム。邪ー僻ニヽ權ヲ争(ヒ)テ・乃(チ)忠ー臣有(リ)テ・其ノ_君ヲ匡シ_救フ〔也〕。此ハ言ハ天ー下太ー平ナルトキハ・仁ヲ知(ラ)不・人_盡ク無ー欲ナルトキハ・廉ヲ知(ラ)不・各_自(ラ)己ヲ潔ヽ・貞(テイ)ヲ知(ラ)不・大ー道ノ〔之〕世ニハ・君ノ仁ー義没(カク)レテ・孝ー慈ノ滅(キ)ユルコト猶(ホ)日ー中ノ盛ー明ナルトキニ・衆ー星ノ光ヲ失フカ「猶」シ〔者

校異

1 〔無窮〕・書陵・龍門・足利・斯Ⅱ・東急・敦Ⅰ・六地・陽Ⅱ〕章題無し、〔筑波・武内・東大・東洋〕「薄」字下「章」字有り、〔慶Ⅰ・大東〕〔大道章第二〕、〔弘文・慶Ⅱ〕〔大道廢章第十八〕に作る

2 〔敦Ⅰ・宋版・世德・道蔵〕〔焉〕字無し

3 〔家〕字下、〔無窮〕畳字〔ミ〕有り

4 〔道蔵〕〔國〕に作る

5 〔天理〕〔臣〕字に作る

6 〔道蔵〕〔不〕字無し

7 〔梅沢・武内・東大・筑波・東洋・敦Ⅰ・東急・道蔵〕〔也〕字無し、但、〔梅沢〕は〔見大〕字間に加筆

8 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理〕

9 〔不用〕二字無し

10 〔用〕字下、〔道蔵〕〔而〕而有り

11 〔無窮〕〔在〕に作る

12 〔弘文〕〔得〕字に作る

13 〔宋版・世德・道蔵〕〔也〕字無し、〔敦Ⅰ〕〔耳〕字に作る

14 〔梅沢〕は〔智〕字右旁に〔知イ〕の校異書入れ有り

15 〔敦Ⅰ・宋版・世德・道蔵〕〔焉〕字無し

16 〔道蔵〕〔而〕字無し

17 〔道蔵〕〔而〕字無し

18 〔道蔵〕〔為〕字無し

19 〔敦Ⅰ・宋版・世德・道蔵〕〔也〕字無し

20 〔弘文・東洋〕〔知〕字に作る

21 〔有〕字上、〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・筑波・足利・斯Ⅱ・東洋・六地・天理〕〔焉〕字有り

22 〔書陵・梅沢・世德・道蔵〕〔親〕字に作る、尚、〔足利〕は〔紀〕字右旁に〔親〕字を加筆する、〔宋版〕は〔絶〕字に誤る

23 〔東急・敦Ⅰ・宋版・世德・道蔵〕〔廢〕字無し

諸本〔絶〕字に作る、此の本恐らくは誤写

24 〔東大・宋版・世德・道蔵〕は〔牧〕字に、〔筑波〕は〔救〕に、〔慶Ⅱ〕は〔収救〕二字に作る、尚、〔武内〕は〔収〕字右旁に〔牧イ〕の校異書入れ有り

25 〔敦Ⅰ・道蔵〕〔也〕字無し、〔書陵〕は〔之〕に作る

26 〔梅沢・六地・陽Ⅱ・東急・敦Ⅰ・宋版・世德・道蔵〕〔焉〕字無し、但、〔梅沢〕は〔乱有〕字間に加筆、〔六地〕は挿入符を施し地脚に〔焉〕字加筆し補入

27 〔敦Ⅰ〕〔正〕に作る

28 〔世德・道蔵〕〔辟〕字に作る

29 〔慶Ⅱ〕〔樅〕字に誤る

30 〔筑波・慶Ⅰ・大東〕〔信〕字に作る

31 〔宋版・世德〕〔正〕字に作る

32 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・敦Ⅰ・東急・天理〕〔也〕字無し

33 〔弘文〕〔此〕字無し

34 〔東急〕〔大〕字に作る

35 〔世德〕〔義〕に作る

36 〔陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・足利・斯Ⅱ・東洋・敦Ⅰ〕〔无〕に作る

37 〔宋版・世德・道蔵〕〔自〕字無し

38 〔大〕字上、〔道蔵〕〔故〕字有り

39 〔宋版・世德〕〔世〕字無し

40 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・敦Ⅰ・東急・道蔵・天理〕〔君〕字無し

41 〔仁義没孝慈滅〕、〔道蔵〕〔孝慈滅仁義没〕に作る

42 〔道蔵〕〔月〕に作る

43 〔宋版・世德〕〔時〕字に作る

44 〔衆〕字上、〔東洋〕〔而〕字有り

45 〔敦Ⅰ・宋版・世德・道蔵〕〔者也〕二字無し、〔東大・東洋・東急〕〔者〕字無し、〔慶Ⅱ・斯Ⅱ・梅沢〕〔者也矣〕に作る

也〕

上31オ3

還淳第十九[1]

絶聖

絶聖制作反初守元五帝畫像蒼頡作書不如三皇結[2][3][4][5][6][7][8][9]

繩無文也[10][11][12]

棄智[13]

棄智惠反無為也[14][15][16]

民利百倍[17][18]

農事修公無私也[19][20][21]

絶仁棄義

絶仁之見恩惠棄義之尚華言也[22][23][24][25][26]

民復孝慈

德化淳也[27][28]

絶巧棄利

絶巧者詐偽乱眞也棄利者塞貪路閉權門也[29][30][31][32][33][34]

盗賊無有[35]

上化公正無邪私[36][37][38][39][40]

還ニ淳第十九

聖ヲ絶チ[1]

聖ノ制ニ作ヲ絶(チ)テ・初ニ反リ元ヲ守ルハ・五ニ帝ノ畫ニ像モ・蒼ニ頡カ作ニ書モ・三ニ皇ノ繩ヲ結(ヒ)テ文無カシニハ如(カ)不〔也〕

智ヲ棄(ツ)レハ

智ニ惠ヲ棄テ・無ニ為ル反ラン〔也〕

民ノ利百ニ倍シナン

農ニ事修(マ)リテ・公ニ私無シ〔也〕

仁ヲ絶(チ)義ヲ棄(ツレ)ハ

仁ノ〔之〕恩ニ惠(ヲ)見〈去〉スルヲ絶(チ)・義ノ〔之〕華ニ言ヲ尚フコトヲ棄(ツ)〔也〕

民孝ニ慈ニ復ンナン

德ニ化淳シ〔也〕

巧ヲ絶(チ)利ヲ棄(ツレ)ハ

巧ヲ絶(ツ)ト云ハ〔者〕・詐ニ偽ハ眞ヲ乱(ス)〔也〕。利ヲ棄(ツル)ト云ハ〔者〕・貪ニ路ヲ塞キ・權ニ門ヲ閉ツルソ〔也〕

盗賊有(ル)コト無(ケ)ン

上ノ化公ニ正ナルトキハ・邪ニ私無(ケ)ン

此三者
謂上三事所棄絶也[41][42]
以為文不足
以為文不足者文不足以教民也[43][44][45]

故令有所属
當如下句[46]
見素抱朴[47][48]
見素者當見素守眞不尚文飾也抱朴者當抱其質朴[49][50][51][52][53][54][55][56][57][58]
以示下故下法則[59][60][61][62][63]
小私寡欲[64][65]
當知足也[66][67]

此ノ三ノ者ハ
上ノ三事ノ棄(テ)絶ツ所ヲ謂(フ)〔也〕
以為(オモ)ヘラク文足(ラ)不ト「以為」ヘリ
以為(ヘ)ラク文足(ラ)不ト「以為」ヘリト云ハ〔者〕・文以テ
民ヲ教フルニ足(ラ)不〔也〕
故ニ属(一)スル所有(ラ)令(ム)
之欲反　力征反
當ニ下ノ句(ノ)如(ク)ナル「當」シ
素(ヲ)見(ア)〈去〉(シ)朴(一)〈入〉ヲ抱(イテ)リ
賢遍反　普角反
素ヲ見スト云ハ〔者〕・當ニ素ヲ見〈去〉(シ)眞ヲ守(リ)テ・
文ノ飾を尚(タ)(ハ)不(ル)ソ〔也〕。朴ヲ抱(リ)下云ハ〔者〕・當ニ
其ノ質朴(一)〈入〉ヲ抱(リ)テ・以テ下ニ示ス。故ニ下法リ則ル
私小(ナ)ク欲寡(一)ナシ
當ニ足ルコトヲ知(ル)「當」シ〔也〕

校異

1 〔書陵・龍門・無窮・足利・斯Ⅱ・東急・敦Ⅰ・六地・陽Ⅱ〕章題無し、〔筑波・武内・東大・東洋〕「淳」字下「章」字有り、〔慶Ⅰ・大東〕は「絶聖章第十九」に、〔弘文・慶Ⅱ〕は「絶聖棄智章第十九」に作る
2 〔筑波・慶Ⅱ〕「復」字に作る
3 〔活Ⅰ〕は「無」字に、〔陽Ⅰ〕は「无」字に作る、尚、〔梅沢〕は重書きされ「元」「无」の判別が困難、ただ「モト」の振り仮名を付す
4 「五」字下、〔東急〕「常」字有り、但見消ちを付す
5 〔筑波〕「章」に誤る
6 〔宋版・世徳〕「垂」字に作る
7 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・東急・道蔵・天理〕「象」に作る
8 〔武内・東大・東洋・梅沢・敦Ⅰ・東急・道蔵〕「倉」字に作る
9 〔無窮・活Ⅱ・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・天理〕「造」字に作る
10 〔陽Ⅰ・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・足利・東洋・敦Ⅰ〕「无」に作る

11 「文」字下、[道蔵]「而治」二字有り
12 [東急・敦Ⅰ・宋版・世徳]「也」字無し、[梅沢]は「者也」二字に作る
13 「棄智」、[東急]は「弃知」に作る
14 「反」字下、[敦Ⅰ]「不」字有り
15 [陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・足利・斯Ⅱ・東洋・敦Ⅰ・宋版]「无」に作る
16 [東急・敦Ⅰ・宋版・世徳・道蔵]「也」字無し、[東洋]は「也矣」二字に作る
17 [六地]「昏」に誤る、但、見消ちを付し右旁に「民」字を加筆
18 [書陵]「陪」字に作る
19 [陽Ⅰ・龍門・筑波・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・足利・斯Ⅱ・東洋・敦Ⅰ]「无」字に作る
20 [筑波]「和」に誤る
21 [敦Ⅰ・宋版・世徳・道蔵]「也」字無し、[東洋]「者也」に作り、[梅沢]は「也之」二字に作り「之」字を墨斜線で抹消
22 [慶Ⅰ・大東]「之」字無し、[敦Ⅰ]「之」字下又「之」字有り、衍
23 [道蔵]「恩惠」二字無し
24 「惠」字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・天理]「也」字有り、また、[梅沢]は「惠弃」の字間に「也」字を加筆
25 [道蔵]「言」字無し、[宋版・世徳]は「信」字に作る
26 [敦Ⅰ・宋版・世徳・道蔵]「也」字無し、[梅沢]は「也之」二字に作る
27 [道蔵]「純」字に作る
28 [敦Ⅰ]「也」字無し
29 [書陵]「功」字に作る、但、見消ちを付し、左旁に「巧」字を加筆して墨合点を施す
30 「絶巧者詐偽乱真也」、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・敦Ⅰ・東急・道蔵・治要・天理]は、経文「絶巧」句下に在り、但、[活Ⅰ・陽Ⅰ・龍門・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・敦Ⅰ・東急]には「者」字無く、[活Ⅱ・無窮・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・東洋・梅沢・天理]は「言」に作っている、但、[無窮]は「言」字に見消ちを付し右旁に「イ无」と校異の書入れが有り、[慶Ⅱ]は「詐」字を塗抹し右旁に「言」字を、下の字間余白に「詐」字を再度加筆する、また、[敦Ⅰ・道蔵]には「也」字無く、[治要]は「絶巧詐也」の四字に作っている
31 「棄利者、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・敦Ⅰ・東急・道蔵・治要・天理]は此の三字無し
32 [活Ⅰ・活Ⅱ]「貧」字に作る
33 「閉權門」、[治要]此の三字無し
34 [東急・敦Ⅰ・道蔵]「也」字無し、[梅沢]は「之也」二字に作り、「之」字を墨斜線で抹消する
35 [龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・六地・敦Ⅰ・治要]「无」字に作る
36 「公正」、[宋版・世徳]「公政」に作る
37 「正」字下、[武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・慶Ⅱ・宋版・世徳・道蔵]は「下」一字、[東洋]「而下」二字有り
38 [陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・斯Ⅱ・東洋・敦Ⅰ]「无」字に作る
39 「邪私」、[道蔵]は「私邪」に、[無窮]は「耶心」に作る、[足利・敦Ⅰ]「邪」を「耶」に作る、但、[足利]は此の字を消し眉上に「邪」字を加筆、[筑波]は「私」を「和」に誤る
40 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・龍門・弘文・筑波・足利・梅沢・東急・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・斯Ⅱ・東洋・治要・天理]「也」字有り
41 「棄絶」、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・敦Ⅰ・天理]は「絶棄」に、[東急]は「絶奇」に、[道蔵]は「私弃」に作る
42 [敦Ⅰ・道蔵]「也」字無し
43 [治要]「以為文不足者」六字無し
44 [道蔵]「化」に作る
45 [敦Ⅰ・宋版・世徳・道蔵]「也」字無し
46 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・天理]「也」字有り
47 「大東」字左旁に「本乍見」と、[慶Ⅰ]は眉上に「抱字本作見」と校異書入れ有り
48 [梅沢・陽Ⅱ・敦Ⅰ・東急・道蔵・治要]「樸」に作る、尚、[梅沢]は同字左旁に「朴イ」の書入れ有り
49 [治要]「見素者當」四字無し、尚、[梅沢]は「見素者」三字は

50 本行に無く挿入符の小圏を施し左旁に加筆補入
51 〔敦Ⅰ〕「素」字無し
52 〔武内・東大・東洋・宋版・世徳・道蔵・治要〕「抱」字に作る
53 〔無窮・武内・筑波・慶Ⅱ・東洋・天理〕「貞」に作る、但、〔慶Ⅱ〕はもと「真」字か、加墨して「貞」字に訂正されたるが如し、右旁の振り仮名は「テイ」とある
54 〔治要〕「抱朴者當」四字無し
55 〔梅沢・東急・敦Ⅰ・道蔵〕「樸」に作る
56 「者」字上、〔慶Ⅱ〕「則」字有り
57 〔活Ⅰ・陽Ⅰ・龍門・書陵・宋版・世徳・道蔵・治要〕「見」字に作る、尚、〔梅沢〕は「當抱」の字間に「見」字を加筆する
58 〔宋版・世徳〕「篤」に作る
59 〔梅沢・東急・敦Ⅰ・天理〕「樸」字に作る
60 〔治要〕「以示下故下法則」七字無し
61 「示」字下、〔書陵・梅沢・道蔵〕「天」字有り
62 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・東大・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・武内・東洋・梅沢・東急・天理〕「下」字無し、〔敦Ⅰ・宋版・世徳・道蔵〕は「可」字に作る
63 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・東大・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理〕「也」字有り、但、〔梅沢〕は墨斜線で抹消
64 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・六地・陽Ⅱ・敦Ⅰ・東急・宋版・世徳・道蔵・治要・天理〕「少」字に作る
65 経文「少私」句下、〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・龍門・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・武内・東大・慶Ⅰ・大東・東洋・東急・敦Ⅰ・天理〕注文「正無私也」有り、但、〔龍門・筑波・武内・東大・慶Ⅰ・大東・東洋・敦Ⅰ〕は「無」を「无」に、〔筑波〕は「私」を「和」に作り、〔敦Ⅰ〕には「也」字が無い
66 〔當〕字上、〔宋版・世徳・道蔵〕「少私者正無私也寡欲者」の注文十字有り
67 「當知足也」、〔治要〕此の四字無し、〔敦Ⅰ〕「也」字無し

上32オ3 異俗第二十[1][2][3]

絶學

絶學不眞[4]不合道文[5]

無憂[6]

除浮華則无[8]憂[9]患也[10]

唯之與何[11]相去幾何

同為應對[12]而相去幾何疾時賤[13]質[14]而貴文[15]

異俗第二十

學ヲ絶(テ)ハ

學ノ眞ナラ不ヲ・道ノ文ニ合(ハ)不(ル)ヲ絶(ツ)

憂ヘ無(ケ)ン

浮華ヲ除クトキハ・〔則〕憂患无(ケ)ン〔也〕

唯〈上〉ト〔之〕何與・相去レルコト幾何ソ

同ク應〈去〉對ヲ為ス・而ヲ相去レルコト幾何ソ。時ノ質

善之与悪相去何若
善者稱[16]譽悪者諫諍[17]能[18]相去何如疾時[19]悪忠直用邪[20]佞[21]

人之所畏
人謂道人[22]人[23]所畏者畏不絶學之君也[24][25]

不可不畏
近[26]令[27]色[28]敦[29]仁[30]賢也[31]

荒兮其未央哉
言世俗[32]人荒乱欲進學文[33]未央止也[34][35]

衆人凞〻
凞〻[36]淫[37]放多情欲也[38]

如享[39]太牢[40]
如飢思太牢[41]之具[42]意无[43]足時也[44]

如春[45]登臺[46]

（ヲ）賤ソ〔而〕文ヲ貴フコトヲ疾ム
善ト〔之〕悪与（ト）・相_去（レル）コト何_若ン
善ハ_〔者〕稱-譽シ・悪ハ_〔者〕諫-諍ス。能（ク）相_去（レル）コト何_如ソ。時ノ忠-直ヲ悪〈去〉ムテ・邪-佞ヲ用（ヰ）ルコトヲ疾ム

人ノ〔之〕畏ル丶所ヲハ
人ト云ハ・道-人ヲ謂（ヒ）・人ノ畏（ル丶）所ト云ハ〔者〕・學ヲ絶（タ）不（ルノ）〔之〕君ヲ畏ル〔也〕

畏レ不（ン）ハアル可（カラ）不
令-色ヲ近〈去〉（ツ）ケ・仁-賢ヲ煞ス〔也〕

荒[1]トソ〔兮〕・其（レ）未タ央ナラ「未」（ル）哉
言ハ世-俗ノ人ノ荒-乱ソ・進（ミ）テ文ヲ學（ハ）マク欲（ス）レトモ・未タ央ナラ「未」シテ止（ム）〔也〕

衆-人ハ凞-タタリ
凞-〻ハ・淫-放ニソ情-欲多（キ）ソ〔也〕

太-牢ヲ享（ウ）クルカ如（シ）
飢ヘテ太-牢ノ〔之〕具（ソナヘ）ヲ思フカ・意ニ足（ル）_時无（キカ）如（シ）〔也〕

春臺ニ登レルカ如（シ）

春陰陽交通万物感動登臺觀之意志淫淫然[47][48][49]

我獨怕兮其未兆

我独怕然安静未有情欲之形[50][51][52]兆也[53][54]

如嬰[55]兒[56]之未咳[57]

如小兒未能荅偶人時也[58][59]

儡[60]儡[61]兮若[62]无所歸[63][64]

我儡[65]儡[66]如窮鄙[67]无所皈[68]就[69]

衆人皆有餘

衆人[70]餘[71]財[72]以為奢餘[73]智以為詐也[74]

而[75]我独若遺

我独如遺[76]棄似於[77]不足[78]也[79]

我愚人之心也[80]哉

不与俗人相隨守一不移如愚人之心也

沌[81]沌[82]兮[83]

春ハ・陰-陽交-通ヲ・万-物感-動ス・臺ニ登(リ)テ觀レハ

〔之〕・意-志淫-淫-然タリ

我獨(レ)リ怕(ー)トヲ〔兮〕・其(レ)未タ兆(キサ)ヽ「未」

我独リ怕-然安-静ニヲ・未タ情-欲ノ〔之〕形-兆有(ラ)「未」

〔也〕

嬰-兒ノ〔之〕未タ咳(アキト)ハ「未」ルカ如(シ)

小-兒ノ未タ人ニ荅-偶スルコト能(ハ)「未」(ル)時ノ如シ〔也〕

儡(ライ)-タトヲ〔兮〕・歸(ー)スル所无(キ)カ若シ

我-儡タトヲ・窮-鄙ニヲ皈-就(スル)所无(キ)カ如(シ)

衆-人ハ皆餘有(リ)

衆-人ハ・財ヲ餘ヲ以テ奢(オコリ)ヲ為(シ)・智ヲ餘ヲ以テ詐ヲ為(ス)

〔也〕

而ヲ我独リ遺(ワス)レタルカ若シ

我-独リ遺(レ)-棄(テ)タルカ如シ。〔於〕足(ラ)不(ルニ)似

(タリ)〔也〕

我ハ愚-人ノ〔之〕心アル也-哉(カナ)

俗-人与(ト)相-隨ハ不。一ヲ守リテ移ラ不・愚-人ノ〔之〕心ノ如

シ〔也〕

沌(トン)-タタリ〔兮〕

无所分別[84]
俗人昭[86]く
明且達也[87]
我獨若昏[88]
如闇昧也[89]
俗人察[90]く
察[91]く急且疾也[92]
我独悶[93]く
悶[94]く无所割截[95]
忽[96]兮其若海[97]
我独忽[98]く如江海之流莫知其所窮極也[99]

澍[100]兮若無所止[101]
我獨澍[102]く若飛揚[103]无所止也[104]志意在神域也[105]

衆人皆有以[106]
以有為也[107]
而我独頑[108]
我独无為[109]

分-別〈入〉スル所无(シ)
俗-人ハ昭-タタリ
明[1]ニヲ且達(タツ)ナリ〔也〕
我-獨リ昏キカ若(シ)
闇-昧ナルカ如(シ)〔也〕
俗-人ハ察-タタリ
察-タハ・急ニヲ且疾(タト)キソ〔也〕
我-独(リ)悶-くタリ
悶-タハ・割-截スル所无(キ)ソ
忽[1]トヲ〔兮〕・其(レ)海ノ若(シ)
我-独(リ)忽-タトヲ・江-海ノ〔之〕流レテ・其ノ窮(マリ)-極(マ)ル所ヲ知(ル)コト莫(キ)カ如(シ)〔也〕
澍[1]タルコト〔兮〕・止マル所無(キ)カ若シ
我-獨(リ)澍-タトヲ・飛-揚ヲ・止(マ)ル所无(キ)カ若(シ)〔也〕。志-意・神-域ニ在(リ)〔也〕
衆-人ハ皆以(テ)スルコト有(リ)
以ハ・為(ル)コト有(ル)ソ〔也〕
而ヲ我-独(リ)頑(スルコトナシ カタクナ、ルソ)
我-独(リ)為(ル)コト无(シ)

似鄙
似鄙[122]若不遠[123]也
我獨異於人
我独[124]与人異[125]也[126]
而貴食母
食用[127]也母道也[128]我独[129]貴用道也[130]
[131]

鄙(シ)キニ似(タリ)
鄙ニノ遠(オヨ)ハ不(ル)カ若キニ似(タリ)〔也〕
我獨(リ)〔於〕人ニ異ナリ
我_独(リ)人与(ト)異ナリ〔也〕
而ノ母(ミチ)〈平〉(ヲ)食(モチ)ルコトヲ貴フ
食ハ・用〔也〕。母(ハ)・道〔也〕。我_独(リ)道ヲ用(ヰ)ルコトヲ貴フ〔也〕

校異

1 ［無窮・書陵・龍門・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ・敦Ⅰ］章題無し、［武内・東大・東洋］「俗」字下「章」字有り、［慶Ⅰ・大東］は「絶學章第二十」に、［弘文・慶Ⅱ］は「絶學無憂章第二十」に作る
2 ［筑波］「偽」字に作る
3 ［二十］、［梅沢］「廿」に作る
4 ［眞］字下、［東洋］「而」字有り
5 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・東急・天理］「也」字有り
6 ［龍門・六地・敦Ⅰ］「无」字に作る
7 ［浮華］、［弘文］「花浮」に作る
8 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理］「無」に作る
9 ［足利］「憂」字無し
10 ［敦Ⅰ・道蔵］「也」字無し
11 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・敦Ⅰ・宋版・世徳・道蔵・天理・梅沢？］「阿」字に作る、但、［大東］の「阿」字右旁に「河イ」の校異書入れ有り、尚、［東洋］は「何」字左旁に見消ちを付し右旁に「阿」字を加筆（青筆）する、また、［足利］は「何」字を墨消し眉上に「阿」字を加筆する
12 ［而］字上、［書陵］「化」字有り
13 ［時］字下、［道蔵］「君」字有り
14 ［慶Ⅱ］「賊」字に作る
15 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・東急・天理］は「也」字有り、［梅沢］は「之也」の二字が有って「之」字に墨斜線を付けて抹消
16 ［宋版・世徳］「和」字に作る
17 ［東洋］は「静」字（但、左旁に「諍」字を加筆）に、［宋版・世徳・道蔵］は「爭」字に作る
18 ［能］字上、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・天理］「也」字有り、尚、［梅沢］は「能」字上の字間に「也」字を加筆する
19 ［時］字下、［道蔵］「君」字有り
20 ［邪佞］、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・筑波・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・敦Ⅰ・天理］「佞邪」に作る
21 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理］は「也」

一字、［筑波］は「者也」二字有り、尚、［慶Ⅱ］「也」字上字間に小圏を施し右旁に「者」字を加筆する

22 ［人］字下、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理］「也」字有り、但、［慶Ⅱ］は「人」字下の字間に加筆する

23 ［慶Ⅱ・弘文］「人」一字を脱す、「人」字下、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・足利・斯Ⅱ・東洋・天理］「之」字有り

24 ［陽Ⅰ］「若」に誤る

25 ［敦Ⅰ・道蔵］「也」字無し

26 ［近］字上、［宋版・世徳］「不可不畏」四字有り

27 ［斯Ⅱ］「合」に作る、尚、［梅沢］は「令危」右旁に「令ㄅ色イ」と校異の書入れ有り

28 ［梅沢・東急］「危」字に作る、尚、［慶Ⅰ］の眉上に「令色述乍危或本乍色也」と、また［大東・武内］にもほぼ同文同義の書入れが見える

29 ［龍門・慶Ⅱ・武内・東大・大東・筑波・斯Ⅱ・梅沢・東洋・東急・宋版・世徳・道蔵・天理］「殺」字に作り、［無窮］は「移」字に作る

30 「仁賢」、［道蔵］「賢人」に作る

31 ［慶Ⅱ・東急・敦Ⅰ・宋版・世徳・道蔵］「也」字無し、但、［慶Ⅱ］は「賢」下の字間にに「也」字を加筆する、［梅沢］は「也之」二字に作り「之」字に抹消符墨斜線を加える

32 「言」字上、［宋版・世徳］「或」字有り

33 「俗」字下、［道蔵］「之」字有り

34 「文」字上、［宋版・世徳］は「爲」字、［道蔵］は「邪」字有り

35 ［敦Ⅰ］「也」字無し

36 ［無窮］「多」に作る

37 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・敦Ⅰ・天理］「淫放」二字無し

38 ［東急・敦Ⅰ］「也」字無し

39 ［梅沢・陽Ⅱ・東急］「若」字に作る、尚、［梅沢］「若」字右旁に「如イ」の校異書入れがある

40 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・梅沢・六地・陽Ⅱ・東急・天理］「大」字に作る

41 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・梅沢・敦Ⅰ・天理］「大」字に作る

42 ［東急］「且」字に作り、［武内・東大・東洋］は「食」字に作り、［梅沢］は挿入符を以て「具」字下に「食」字を補入

43 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・足利・梅沢・敦Ⅰ・東急・宋版・世徳・道蔵・天理・弘文？］「無」字に作る

44 ［梅沢・敦Ⅰ］「也」字無し

45 ［梅沢・陽Ⅱ・東急］「若」に作る、［梅沢］は右旁に「如」字を加筆

46 「春登」、［世徳］「登春」に作る

47 「足利」、「咸」に作る

48 「意志」、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東洋・東急・天理］「志意」に作る

49 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・東急・天理］は「也」字、［梅沢］は「也之」二字に作る

50 ［道蔵］「兮」に作る

51 「未有」、［道蔵］「無」に作る

52 ［道蔵］「之」字無し

53 ［東急］「刑」字に作る

54 ［道蔵］「也」字無し

55 ［梅沢・陽Ⅱ・東急］「若」字に作る、但、［梅沢］は右旁に「如」字を加筆

56 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・東洋・斯Ⅱ・梅沢・東急・陽Ⅱ・六地・道蔵・天理］「罢」字に作る

57 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・天理］は「殗」字に、［宋版・世徳・道蔵］は「孩」字に作る

58 ［人］字下、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・天理］「之」字有り、尚、［梅沢］は「人」下字間に「之」字を加筆

59 ［道蔵］「也」字無し、［東洋］は「者也」二字に作る

60 ［儡々］、［宋版・世徳・道蔵］「乗乗」に作る、尚、［弘文］の眉上に「儡王弼註作乘」との書入れ有り

61 ［東急］畳字無し

62 ［若］字上、［活Ⅰ・活Ⅱ・筑波・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・

63 東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・六地・陽Ⅱ・天理「其」字有り

64 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・弘文・筑波・慶Ⅱ・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理「無」に作る

65 筑波・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・天理「皈」字に作る

66 「我」字下、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理「獨」字有り

67 「儡々」、宋版・世徳・道蔵「乗乗」に作る

68 活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理「無」字に作る

69 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵「歸」字に作る

70 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・龍門・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・東洋・道蔵・天理「也」字有り

71 「人」字下、道蔵「皆有」二字有り

72 弘文「余」字に作る

73 武内・慶Ⅱ「賊」字に作る

74 弘文「余」字に作る

75 弘文・東急・宋版・世徳・道蔵「也」字無し、梅沢「之也」、東洋「者也」二字に作る

76 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・東大・東洋・東急・天理「而」字無し、但、東洋「我」字上辺に小圏を施し、「而」字を加筆（青筆）する、また「大東」「而」字左旁に「異无」の校異書入れが有る

77 龍門「貫」字に誤る

78 活Ⅰ・活Ⅱ「以」字に作る

79 足利「我」に作る

80 東洋「者」字に作る

81 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・六地・陽Ⅱ・東急・天理「也」字無し

82 「沌」字上、「武内・東大・筑波「我獨」二字有り、尚「大東」は右旁に「我独」二字加筆し「沌」字上に挿入符の小圏を施す「沌く」、「道蔵」「純純」に、「足利」は「范々」に作る、但、「足利」は「范」を墨消し、地脚に「沌」字を加筆する、尚、「武内・慶Ⅱ・大東・慶Ⅰ」に「沌才乍純」の校異書入れを認める

83 「梅沢・陽Ⅱ」「乎」字に作る、但、「梅沢」は右旁に「兮」字を加筆する

84 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道蔵・天理「無」字に作る

85 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・龍門・弘文・足利・東急・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・斯Ⅱ・東洋・天理」は「也」字、「梅沢」は「也之」二字有り、但、「梅沢」は「之」字に抹消符墨斜線を加える

86 道蔵「衆」字に作る

87 書陵・筑波・斯Ⅱ「照」字に作る、但、「書陵」の「照」字左旁に「或本昭」の校異書入れ有り

88 「武内・東大・筑波・東洋「如」字に作る、尚、「梅沢」は「若」字に重ねて墨点を加え右旁に「如」字を加筆

89 道蔵「暗」字に作る

90 道蔵「衆」字に作る

91 「察く」、「東急・道蔵」此の二字無し

92 龍門「是」字に作る

93 慶Ⅰ・大東「也」字無し

94 「悶」、「武内・慶Ⅱ・大東・慶Ⅰ」の眉上に「或乍閔」の校異書入れを認める

95 「悶く」、「東急」此の二字無し

96 活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道蔵・天理「無」字に作る

97 「割截」、「道蔵」「截割」に作る

98 活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・龍門・弘文・足利・梅沢・東急・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・斯Ⅱ・東洋・天理「也」字有り

99 「弘文」「忽」字下、畳字「々」有り、尚、「武内」の眉上に「才乍澹本乍忽若晦非是」と、また「慶Ⅰ・大東」眉上にも殆ど同文の校異書入れが有る

100 梅沢・陽Ⅱ「乎」字に作る

101 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・陽Ⅱ・東急・宋版・世徳・道蔵・天理「其」字無し、但、「梅沢」は「分若」字間に小圏を施し右旁に「其」字を加筆

102 「忽く」下、「道蔵」「兮」字有り

103 筑波・東大・武内・東洋・梅沢・東急「若」に作る

104 「江海」、「東大・筑波・東洋」「海江」に作る、尚、「梅沢」の「江海」右旁に「海江ィ」の校異書入れを認める
105 「斯Ⅱ」「洗」字に誤る
106 「慶Ⅱ」「其」字無し
107 「道蔵」「也」字無し
108 「活Ⅰ・活Ⅱ・武内・東大・筑波・東洋・宋版・世徳・道蔵・天理」は「漂」字に、「慶Ⅰ・大東」は「瀏」字に作る、尚、「書陵」に「又乍漂」、「東洋（青）・東活」に「述乍漂」の校異書入れを認める
109 「東大」「無」字無し、「慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・六地」「无」字に作る
110 「世徳」「所」字無し
111 「活Ⅰ・活Ⅱ・武内・東大・筑波・東洋・宋版・世徳・道蔵・天理」「漂」に、「慶Ⅰ・大東」「瀏」に作る
112 「飛」字下、「宋版・世徳・道蔵」「若」字有り
113 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・武内・大東・足利・梅沢」「楊」字に作る
114 「活Ⅰ・活Ⅱ・書陵・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理」「無」字に作る
115 「東急」「也」字無し
116 「足利」「城」字に作る
117 「筑波・梅沢・道蔵」「也」字無し
118 「以」字下、「弘文」「似」字有り

上34オ6　1 虚心第二十一 2

孔徳之容

孔大也有3大徳之人无4所不容能受垢濁処謙卑5也6 7

唯道是從

唯独也太徳之人不隨世俗8所行9独10從於道也11

119 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・六地・天理」「而」字無し、尚、「梅沢」は同字右旁に「或无」との書入れ有り
120 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理」「無」字に作る
121 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・斯Ⅱ・筑波・弘文・足利・東急・天理」は「也」字、「東洋」は「也矣」、「梅沢」は「之也」の二字有り
122 「似鄙」、「宋版・世徳・道蔵」「鄙似」に作る
123 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・宋版・世徳・道蔵・天理」は「逮」字に、「東急」は「建」字に作る、此の本の「逮」字は伝写の誤か
124 「我独」、「道蔵」此の二字無し
125 「龍門」「異」字無し
126 「道蔵」「也」字無し
127 「無窮」「貧」字に誤る
128 「東急」「也」字無し
129 「東急」「也」字無し
130 「我」字上、「道蔵」「唯」字有り
131 「道蔵」「也」字無し

虚心第二十一

孔イナル（オホ）徳ノ〔之〕容ル（イ）ヽコト

孔ハ・大〔也〕。大徳有（ル）〔之〕人ハ・容（イ）レ不ト云所无（ク）・能（ク）垢濁ヲ受（ケ）・謙卑ニ処〈上〉（ル）〔也〕

唯（ヒトリ）道ニ是ニ從フ

唯ハ・独〔也〕。太徳ノ〔之〕人ハ・世俗ノ・行フ所ニ隨ハ不。

道之為物唯恍[13]唯忽[14]
道之於万物独恍[15]忽[16]往[17]来於其中[18]无所定[19]
忽兮恍[21]兮其中有像[22]
道[23]唯[24]忽[25]恍[26]无形[27]无形[28]之[29]中独為[30]万物設法像[31][32][33]
恍[34]兮忽兮[35]其中有物[36]
道唯恍[37]忽其中有一經營主化因氣立質也[38]
窈兮冥兮其中有精
道唯窈冥[39]无[40]形[41]其中有精實神明相薄陰陽交會也[42]
其精甚眞[43]
言道[44]精氣道[45]神妙[46]是眞[47]非有飾也
其中有信
道匿[48]切名[49]其信[50]在中[51]也[52]
自古及今其名[53]不去

独リ〔於〕道ニ從フ〔也〕
道ノ〔之〕物為(ル)コト・唯恍(ヒトリクワウ)タリ唯忽タリ
況往反又呼廣反
道ノ〔之〕万-物ニ於(ケル)・独(リ)恍-忽トメ・〔於〕其ノ-中ニ往-来ヲ・定ル所无(シ)
忽タリ-〔兮〕恍タリ-〔兮〕・其ノ-中ニ像(カタチ)有(リ)
道-唯忽-恍ニヲ形无(ク)・无-形ノ〔之〕中ニ・独リ万-物ノ為〈去〉(ニ)・法-像ヲ設ク
恍タリ-〔兮〕・忽タリ-〔兮〕・其ノ-中ニ物有(リ)
道-唯恍-忽ニヲ・其ノ-中ニ一有(リ)。經-營ヲ化ヲ主(ツカサト)リ・氣ニ因(リ)テ質ヲ立(ツル)〔也〕
窈タリ〔兮〕冥タリ-〔兮〕・其ノ-中ニ精有(リ)
道-唯窈-冥ニヲ形无(ク)・其ノ-中ニ精-實有(リ)。神-明相-薄(セ)メ・陰-陽交-會ス〔也〕
其ノ-精-甚(タ)-眞ナリ
言ハ道ノ精-氣・道ノ神-妙・是眞ニヲ・飾(ル)コト有(ル)ニ非ス〔也〕
其ノ-中ニ信有(リ)
道ハ・功-名ヲ匿(カク)ヲ・其ノ-信中ニ在(リ)〔也〕
古(ヘ)自(リ)今(マ)ニ及(フ)マテニ・其ノ-名去ラ不

自從也自古至今道常在不去[55]

以閱[56]衆甫

閱稟也甫始也言道稟与万物始[57]生[58]從道受氣[59]

吾何以知衆甫之然哉

我何以知從道受氣也[60]

以此

此今[61]也以今[62]万物皆得道精氣而生人[63]動作起居非道

不然也[64]

自ハ・從〔也〕。古(ヘ)自(リ)今ニ至(ル)マテニ・道常ニ_在(リ)テ去ラ不

以テ衆ニ甫ヲ閱ケシム

閱ハ・稟〔也〕。甫ハ・始〔也〕。言ハ道万-物ニ稟(ケ)_与フ・始メテ生スルコト・道(ニ)從(リテ)氣ヲ受(ク)

吾何ヲ_以テカ・衆ノ_甫ノ〔之〕然ルコトヲ知(ラ)ン哉

我何ヲ_以テカ・道(ニ)從(リテ)氣ヲ受(ク)ルコトヲ知(ラン)ヤ〔也〕

此ヲ以テナリ

此ハ・今〔也〕。今ノ万-物ノ・皆道ノ精-氣ヲ得テ〔而〕生(スル)ヲ以テナリ。人ノ動-作起-居。道ニ非(スン)ハ然(ラ)不〔也〕

校異

1 ―無窮・書陵・龍門・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ― 章題無し、―武内・東大・東洋― 「心」字下「章」字有り、―慶Ⅰ・大東― は「孔徳章第二十一」に、―慶Ⅱ― は「孔徳容章第廿一」に、―弘文― は「孔徳之章第二十一」に、―筑波― は「孔徳之容章第二十一」に作る

2 ―二十―、―梅沢・慶Ⅱ・武内・東大・東洋― 「廿」字に作る

3 ―活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅱ・筑波・東洋・梅沢・東急・天理― 「有」字無し、但、―慶Ⅱ― は「也大」字間右旁に「有」字を加筆

4 ―活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理― 「無」字に作る

5 ―活Ⅱ― 「客」字に誤る

6 ―道蔵― 「沖」に作る

7 ―道蔵― 「也」字無し

8 諸本「大」字に作る

9 「俗」字下、―武内・東大・東洋・天理― 「之」字有り

10 ―斯Ⅱ― 「行」字無し

11 ―筑波― 「矣」字有り

12 ―之― 字下、―筑波・弘文・足利・斯Ⅱ― 「於」字有り、尚、―梅沢― は「之」字下に小圏を施し右旁に「於」字を加筆

13 ―龍門・慶Ⅱ・六地― 「恍」字に作る、尚、―東洋― は「況」字右

14 旁に「恍下同」と校字書入れ（青筆）有り
15 「忽」、「武内」は眉上に「忽或乍惚或作怳忽」と、また［慶Ⅰ・
16 大東］眉上にも殆ど同文の校語書入れ有り
17 ［陽Ⅰ・書陵・龍門］「独」字無し
18 ［龍門］「恍」字に作る、［慶Ⅱ］は「恍」の旁を墨を以て塗抹し
19 左下に「祝（ママ）」字を加筆する
20 ［慶Ⅱ］「急」字に誤る
21 「其中无所定」、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・
22 東大・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・
23 天理］「其所」二字に作る、［慶Ⅱ］は「中无所定」の各字に見消ち
24 を付し「中」字の右旁に「所」字を加筆している、［道蔵］は「而
25 無所定」に作る、［宋版・世徳］は「中」字無し、［慶Ⅱ・世徳］は
26 「无」を「無」に作る
27 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・無窮・武内・東大・慶Ⅰ・大
28 東・筑波・弘文・慶Ⅱ・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・宋版・世
29 徳・天理］「也」字有り
30 ［忽兮怳兮］、［道蔵］「怳兮忽兮」に作る
31 ［龍門・慶Ⅱ・六地］「恍」字に作る
32 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大
東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・六地・陽Ⅱ・東
急・天理］「象」字に作る、［道蔵］は「物」字に作る、尚、［武内・
慶Ⅰ］は眉上に「像一乍象」の書入れ有り
23 「道」字下、「弘文」「独」字有り
24 ［忽怳］、［道蔵］「窈冥」に作る
25 ［龍門・慶Ⅱ］「恍」字に作る
26 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・世
27 徳・道蔵・天理］「無」字に作る
28 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天
29 理］「無」字に作る
30 ［宋版・世徳・道蔵］「无形」二字無し
31 ［道蔵］「其」字に作る
32 ［道蔵］「有」字に作る
33 ［宋版・世徳・道蔵］「設」字無し、［筑波］「説」字に誤る
34 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・筑波・弘文・武内・東
35 大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・天
36 理］「象」字に作る、尚、［大東］の地脚に「一乍像也」の校異書入
37 れ有り
38 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・筑波・武内・東大・慶
39 Ⅰ・大東・慶Ⅱ・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理］「也」字
40 有り
41 ［龍門・慶Ⅱ・六地］「恍」字に作る
42 ［怳兮忽兮］、［道蔵］「忽兮怳兮」に作る
43 ［道蔵］「象」に作る
44 「怳忽」、［陽Ⅰ・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・
45 斯Ⅱ］「忽怳」に、［慶Ⅱ］は「忽恍」に作る、尚、［梅沢］は右旁
46 に「忽怳ィ」の校異書入れ有り
47 ［宋版・世徳・道蔵］「也」字無し、［梅沢］は「之也」二字に作
48 る
49 ［冥］、［大東］は右旁に「才乍寘也」の校異書入れ有り
50 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・慶Ⅱ・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・天
51 理］「無」字に作る
52 ［道蔵］「形」二字無し
53 ［道蔵］「真」、［武内］の眉上に「［真才乍寘］と、［慶Ⅰ］眉上の書入れ
54 も本来同意と思われるが「寘」を「實」に作り見消ちを付して右旁
55 に「寘（ハク）也」と訂正されている
44 ［宋版・世徳・道蔵］「存」に作る
45 諸本「道」字無し
46 ［宋版・世徳］「其」字に作る
47 諸本「甚」字に作る
48 「名」字上、［足利・宋版・世徳・道蔵］「藏」字有り
49 ［慶Ⅱ・道蔵］「其」字無し
50 ［慶Ⅰ・大東］「神」字に作る
51 「中」字上、［道蔵］「其」字有り
52 ［道蔵］「也」字無し、［梅沢］は「之也」二字に作り、「之」字に
53 朱の消し線を加えている
54 ［慶Ⅰ・大東］「其名」二字無し、但、両本ともに「今不」字間に
55 小圏を施し右旁に此の二字を加筆し、眉上に「異本今字之下ニ有」
／其名ノ字、无者猶勝ッ也」の書入れが有る、尚、［武内］の眉上には
「異本ニハ其名ト云字無者」との書入れが見られる
［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大
東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・天
理］「從」に作る
［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大

東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理」は「也」字、「東洋」は「者也」二字有り

56 「閲」、「梅沢」は左旁に「悦」の校字書入れ有り、尚、「武内・慶Ⅰ・大東」の眉上に「閲慶也或乍説兵錦反」との書入れが有る

57 「道蔵」「与」字無し

58 「梅沢」「物始」字間に畳字「々々（万物）」を加筆

59 「始生従道受氣」、「斯Ⅱ」「生従道受氣也始也」に作る

60 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・東急・天理」「也」字有り、「梅沢」は「之也」二字に作り両字に重ねて朱消し線を加える

61 「我何以知従道受気也」、此の注文、「道蔵」に無し

62 「書陵・宋版・世徳」「也」字無し

63 「此今也以今萬物皆得道精気而生人動作起居非道不然也」、「道蔵」此の注文無し

64 「今」字、「梅沢」「以万」字間に加筆

65 「慶Ⅱ」「而」字無し

66 「宋版・世徳」「人」字無し

67 「宋版・世徳」「也」字無し、「斯Ⅱ」は「也矣」二字に、「梅沢」は「之也矣」三字に作り「之」「矣」の両字に重ねて朱消し線を加える

上35ウ5 益謙第二十二[1][2]

曲則全

曲巳従衆不自専則全身也[3][4][5]

枉則直[6][7]

枉屈巳而申人久く自得直也[8][9][10][11][12][13]

窪則盈[14]

地窪下水流之人謙下徳帰之也[15][16][17][18][19][20][21]

弊則新

益謙第二十二

曲レルトキハ〔則〕全シ

己ヲ曲ケテ衆ニ従(フ)。自(ラ)専ナラ不(ル)トキハ・〔則〕身ヲ全ス〔也〕

枉（六佳）レルトキハ〔則〕直シ

己ヲ枉（マ）ケ屈（カヽメ）ノ〔而〕人ヲ申（ノ）フルトキハ・久々ニノ自(ラ)直キコトヲ得〔也〕

窪（クホ）（烏瓜反）メルトキハ〔則〕盈（ミ）ツ

地窪ミ下〈去〉レルトキハ・水流ル〔之〕。人謙下〈去〉ナルトキハ・徳帰ス〔之也〕

弊（ツイ）ユルトキハ〔則〕新ナリ

自受弊薄後已先人天下敬之久〻自新也[22][23][24]

少則得

自得[25]少則得多[26]天[27]道祐謙神明託虛[28][29]

多則惑

財多者惑於守身[30]奉多者惑於所聞[31][32]

是以聖人抱一爲天下式[33]

抱守式[34]法也[35]聖人守一乃知万事故能[36]為天下[37]法式也[38]

不自見故明

聖人不以其目視千里之外[39]乃因天下之目[40]以視故能明達[41][42][43]

不自伐故有功[44]

伐取也[45]聖人德化流行不自取其美[46]故有功於天下[47][48]

不自矜故長

矜大也[49]聖人不自貴[50]大故能[51]長久不危也[52][53]

自(ラ)弊-薄ヲ受(ケ)テ・己ヲ後〈去〉(ニ)ノ・人ヲ先(ニ)スルトキハ・天-下敬ス[1]〔之〕。久-タニノ自(ツカラ)_新ナリ〔也〕

少(ナキ)トキハ〔則〕得

自(ラ)少(ナキ)ヲ得(ル)トキハ〔則〕多(キ)ヲ得。天-道ハ謙ニ祐(サイハ)ヒシ・神-明ハ虛[1]ニ託(ツ)ク

多(キ)トキハ〔則〕惑フ

財多キ_者(ノ)ハ・〔於〕身ヲ守ルニ惑フ・奉[1]多キ_者(ノ)ハ・〔於〕聞(ク)所ニ惑フ

是(ヲ)_以テ・聖-人ハ一ヲ抱(マホ)リテ・天-下ノ式爲(ノリ)(リ)

抱ハ・守。式(ハ)・法〔也〕。聖-人ハ一ヲ守リテ・乃(チ)万-事ヲ知(ル)。故ニ能(ク)天-下ノ法-式為(リ)〔也〕

自(ラ)_見(ミ)不・故ニ明ナリ

聖-人・其ノ_目ヲ以(テ)千-里ノ〔之〕外ヲ視不。乃(チ)天-下ノ〔之〕目ニ因(リ)テ以テ視(ル)。故ニ能(ク)明-達ス

自(ラ)伐(ト)ラ不・故ニ功有(リ)

伐ハ・取〔也〕。聖-人ハ德-化流-行(ス)レトモ・自(ラ)其ノ_美[1]ヲ取(ラ)不・故ニ〔於〕天-下ニ功有(リ)

自(ラ)矜(オホ)キナリトセ不・故ニ長シ

矜ハ・大〔也〕。聖-人ハ・自(ラ)貴-大ナラ不・故ニ・能(ク)

夫唯不争故天下莫能与之争[54][55][56]

此言天下賢与不肖无能与不争者争也[57][58][59]

古之所謂曲則全者豈虚言哉

傳古言曲[60]從[61]則全身正言非虚空也[62][63]

誠全而帰之[64][65][66]

誠實也能行曲從者實全其肌躰皈之於父母无有傷害也[67][68][69][70][71][72][73]

長-久ニッ・危カラ不〔也〕

夫〈平〉-唯争ハ不・故ニ天-下・能(ク)之与争(フ)コト莫(シ)

此ハ言ハ天-下ノ・賢ト不-肖与(ト)・能(ク)争(ハ)不(ル)者与(ノト)争フコト无(キソ)〔也〕

古ノ〔之〕所-謂(ユル)・曲レルトキ〔則〕全シト云ルハ〔者〕。豈ニ虚-言ナラン哉(ヤ)

古ノ-言ニ傳(フ)。曲(ケ)テ-從(フ)トキハ〔則〕身ヲ全(ウス)ト云ルハ・正-言ナリ・虚-空ニ非ス〔也〕

誠ニ全ッ〔而〕歸(カヘ)ス〔之〕

誠ニ(ハ)・實〔也〕。能(ク)曲(ケ)テ從フコトヲ行フトキハ〔者〕・實ニ其ノ肌-躰ヲ全(ウ)シテ・之ヲ〔於〕父-母ニ皈ス・傷-害スルコト有(ル)コト无(シ)〔也〕

校異

1 〔無窮・書陵・龍門・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ〕章題無し、〔武内・東大・東洋〕は〔謙〕字下に〔章〕字有り、〔慶Ⅰ・大東〕は〔曲則章〕に、〔筑波・弘文・慶Ⅱ〕は〔曲則全章〕に作る、但、〔筑波〕は〔全〕を〔金〕字に誤る、尚、〔梅沢〕の〔益〕字右旁に「盡イ」との校異書入れが有る

2 〔二十〕〔梅沢・武内・東大・東洋・慶Ⅱ・弘文〕「廿」に作る

3 〔全〕字下、〔宋版・世德〕「其」字有り

4 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・梅沢・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・斯Ⅱ・足利・東洋・東急・治要・道蔵・天理〕「身」字無し、但、〔梅沢〕は〔全也〕字間に挿入符小圏を施し「其身」二字を加筆

5 〔足利・道蔵〕「也」字無し

6 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・武内・筑波・足利・東急・天理〕「枉」字に、〔無窮・東洋〕は「狂」字に作る

7 〔活Ⅱ〕「真」に作る

8 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・武内・慶Ⅱ・筑波・足利・東急・天理〕「枉」字に、〔無窮・東洋〕は「狂」字に作る

9 〔屈〕字上、〔道蔵〕「屈也」二字有り

10 〔而〕、〔東活〕左旁に「才ナ」の校異書入れ有り

11 〔道蔵〕「伸」字に作る

12 〔自〕字上、〔道蔵〕〔而〕字有り

13 ［道蔵］「巳」字に作る、［治要］「枉屈」より「直也」までの注文十一字無し
14 ［武内］は「窪」字に、［龍門・書陵・慶Ⅱ・六地］は「窪」に、［無窮・弘文・斯Ⅱ・治要］は「窪」に、［足利］は「窪」に、［道蔵］は「窋」字に作る、尚、［東洋］は「窪」字右旁に「窪」の校字書入れ（青筆）有り
15 ［武内］は「窪」字に、［龍門・書陵・慶Ⅱ］は「窪」に、［無窮・弘文・斯Ⅱ・治要］は「窪」に、［足利］は「窪」に、［道蔵］は「窋」字に作る
16 ［道蔵］「歸」に作る
17 ［之］字下、［東洋］「也」字有り
18 ［宋版］「則」字に作る
19 ［無窮・慶Ⅱ・筑波・弘文・東洋・天理］「皈」字に作る
20 ［梅沢］「之」字、［歸也］字間に補筆
21 ［東急・道蔵・治要］「也」字無し
22 ［慶Ⅱ］「后」字に作る
23 ［筑波］「反」に作る
24 ［梅沢］「也」字無し、但、「新」下字間余白に補筆、［道蔵］は「之也」二字に作る
25 ［武内・東大・東洋・梅沢・東急・道蔵・治要］「受」字に、［宋版・世徳］は「受取」二字に作る
26 ［多］字下、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理］「也」字有り
27 ［天道祐謙神明託虚］、［治要］此の注文八字無し
28 ［神明託虚］、［道蔵］「鬼神益虚」に作る
29 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理］「也」字有り
30 ［財］字上、［足利］「則」字有り（但、見消を施す）
31 ［守身］、［宋版・世徳・道蔵］「所守」に作る
32 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・治要・天理］は「也」字、［梅沢］は「之也」二字あり、尚、［東洋］は「聞」字下に校字「也」（青筆）、［東活］は「也」字旁「才ナ」の校異書入れ有り
33 ［爲］字上、［無窮・弘文］「以」字有り
34 ［守］字下、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・道蔵・治要・天理］「也」字有り、［筑波］は「也也」とあり一字衍
35 ［武法］［東急・宋版・世徳］「法式」に作る
36 ［弘文］「能」字無し
37 ［下］字下、［道蔵］「之」字有り
38 ［道蔵］は「也」一字無し
39 ［治要］「不以其目視千里之外乃」の注文十字無し
40 ［外］字下、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・宋版・世徳・天理］「也」字有り、［梅沢］は「外」字下字間余白に「也」字を加筆
41 ［慶Ⅰ］「自」字に誤る
42 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・天理］「也」字有り
43 諸本、経文「不自是故彰」五字及び注文「聖人不自以為是而非故彰顕於世也」十五字（［治要］は「以」無し、［無窮・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・治要］は「故」字下に「能」字有り、［宋版・世徳・治要］は「也」字無く、［道蔵］は「矣」に、［武内・東大・慶Ⅱ・東洋・梅沢］は「者也」二字に作る）が有る、此の本の誤脱か
44 ［足利］「巧」字に作る、但、右旁に校字「功」有り
45 ［筑波］「代」字に誤る
46 ［治要］「伐取也」三字無し
47 ［書陵・龍門］「義」字に作る、尚、［東活］は「美」字右旁に「義イ」の校異書入れ有り
48 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・治要・天理］は「也」、［慶Ⅱ］は「之」字有り、［梅沢］は「也之」二字が有り各字右上角に朱斜線を加える
49 ［治要］「矜大也」三字無し
50 ［慶Ⅱ］「貴」字無し、誤脱か
51 ［能］字下、［慶Ⅱ］「危」字有り
52 ［宋版・世徳］「長」字無し
53 ［陽Ⅰ・宋版・世徳・道蔵］「也」字無し
54 ［無窮・慶Ⅰ・大東・弘文・斯Ⅱ］「惟」字に作る、尚、［六地］は「唯」字右旁に「惟イ」の書入れ有り
55 ［道蔵］「矜」字に作る
56 ［活Ⅰ・活Ⅱ・慶Ⅱ・世徳・天理］「能」字無し、但、［慶Ⅱ］は

57 「莫与」字間に小圏を施し右旁に「能」字を加筆
活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・慶Ⅱ・弘文・梅沢・東急・世徳・道蔵・天理「無」字に作る
58 東急「能」字無し
59 道蔵・治要「也」字無し
60 慶Ⅱ「曲」字無し
61 筑波「後」字に作る
62 道蔵「身」字無し
63 「虚空」、慶Ⅱ「空虚」に作り、武内・東大・大東・筑波・弘文・東洋・天理は「虚言」に、宋版・世徳は「虚妄」に、道蔵は「虚」一字に作る
64 「誠」字上、「道蔵」「故」字有り
65 「梅沢」「而」字、「全歸」字間に補筆
66 無窮・慶Ⅱ・大東・筑波・天理「皈」字に作る
67 慶Ⅱ「之」字に作る
68 「能」字上、慶Ⅰ・大東「已」字有り
69 宋版・世徳・道蔵「全」字無し
70 斯Ⅱ・宋版・天理「飢」字に作る、尚、梅沢は「肌」字右旁に「肥イ」と校異書入れが有る
71 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・足利・斯Ⅱ・無窮・龍門・書陵・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵「歸」に作る
72 活Ⅰ・活Ⅱ・書陵・無窮・弘文・大東・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理「無」字に作る
73 東急「之者」に、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・無窮・龍門・書陵・東洋・天理は「之也」に、梅沢「之者也」に作る

上37オ5　虚無第二十三[1][2]

希言自然

希言謂愛言也愛言者自然之道[3][4]

飄風不終朝驟雨不終日

飄風疾風也驟雨暴雨也言疾不能長暴不能久也[6][7][8]

孰為此者天地[9]

誰為此飄風暴雨乎[10][11]天地所為[12][13]

天地尚不能久

虚無第二十三

言(ヲ)希ニスルハ自然ナリ

言ヲ希(ニ)スト云ハ・言ヲ愛(オシ)ムヲ謂(フ)〔也〕。言ヲ愛(ム)ハ〔者〕・自然ノ〔之〕道ナリ

飄風・朝(ヲ)終(ヘ)不。驟雨ハ・日ヲ終(ヘ)不

飄風ハ・疾風〔也〕。驟雨ハ・暴雨〔也〕。言ハ疾キハ・長キコト能(ハ)不。暴ナルハ・久(シ)キコト能(ハ)不〔也〕

孰(タレ)カ此ヲ為(ス)ルトナレハ〔者〕・天地ナリ

誰カ此ノ飄風暴雨ヲ為(ル)乎(ヤ)・天地ノ為(ル)所ナリ

天地モ・尚久(シキ)コト能(ハ)不

不終於朝暮[14][15]也

而況於人乎

天地至神合為飄風暴雨尚不能使終朝至暮[16][17]何況人[18][19]欲為暴卒乎[20][21]

故從事於道者[22]

從為也人為事當如道安静不當如飄風驟雨也[23][24]

道者同於道

道者謂好道人也[25]同於道者所為与道同[26]

德者同於德

德者謂好德人也[27]同於德者所為与德同也[28]

失者同於失

失者謂任已失人也[29]同於失者所為与失同也[30]

同於道者道亦樂得之[31]

〔於〕朝-暮ヲ終(ヘ)不〔也〕

而(ル)ヲ_況ヤ人ニ於テ(ヲ)乎ヤ

天-地ハ至(リ)テ神ナリ・合(フ)テ飄-風暴-雨ヲ為(ルモ)・尚朝ヲ終(ヘ)テ暮ニ至ラ使ムルコト能(ハ)不・何(ゾ)_況ヤ・人ノ暴-卒ヲ為セント欲スルヲ乎ヤ

故ニ事ヲ従スルコト道ニ於テスル者ハ

従ハ・為〔也〕。人ノ事ヲ為(ルコト)・當ニ道ノ安-静ナルカ如(ク)ナル「當」シ。當ニ飄-風驟-雨ノ如(ク)ニス「當ヘ」カラ不〔也〕

道アル-者ハ〔於〕道㊀同シ

道アル_者ト云ハ・道ヲ好(ム)人ヲ謂(フ)〔也〕。〔於〕道ニ同シト云ハ〔者〕・為(ル)所道与ト同(シ)キソ

德アル-者ハ〔於〕德ニ同シ

德ト云ハ_〔者〕・德ヲ好(ム)人ヲ謂(フ)〔也〕。〔於〕德ニ同(シ)ト云ハ〔者〕・為(ル)所德与ト同(シキ)ソ〔也〕

失アル-者ハ〔於〕失ニ同(シ)

失ト云ハ_〔者〕・已オノレニ任セテ人ヲ失フヲ謂(フ)〔也〕。〔於〕失ニ同(シ)ト云ハ〔者〕・為(ル)所失与ト同(シキ)ソ〔也〕

〔於〕道ニ同(シ)キ者ハ・道亦得ルコトヲ樂〈入〉フ〔之〕

与道同者道[48]亦樂得之也[49][50][51]

同於德者德亦樂得之

与德[52]同者德[53]亦樂得之也[54][55]

同於失者失[56]亦樂得之[57][58]

与失同者失亦樂得之也[59][60][61]

信不足焉

君信不足於下下則應君以不信也[62][63][64]

有不信[65]

下即[66]應君以不信[67]此言物類相歸[68]同声相應雲從龍風

從虎水流濕火就燥之也[69][70][71][72][73]

道与同(シ)キ者ヲハ・道亦得ンコトヲ樂〈入〉フ〔之也〕

〔於〕德ニ同(シキ)者ヲハ・德亦得(ン)コトヲ樂〈入〉(フ)〔之〕

德与同(シ)キ者ヲハ・德亦得ンコトヲ樂〈入〉フ〔之也〕

〔於〕失ニ同(シキ)者ヲハ・失亦得ンコトヲ樂〈入〉(フ)〔之〕

失与同(シ)キ者ヲハ・失亦得ンコトヲ樂〈入〉フ〔之也〕

信足(ラ)不ヶ〔焉〕

君ノ信・〔於〕下ニ足(ラ)不(ル)トキハ・下〔則〕君ニ應〈去〉

スルニ・不信ヲ以(テ)ス〔也〕

不信有(リ)

下即(チ)君ニ應〈去〉スルニ不信ヲ以テス・此ハ言ハ物類

相歸(ヨ)ル。同声相應〈去〉ス。雲ハ龍ニ從ヒ。風ハ虎ニ從(ヒ)。

水ハ濕(ウル)ヘルニ流レ。火ハ燥(カハ)ケルニ就ク〔之也〕

校異

1 〔無窮・書陵・龍門・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ〕章題無し、〔武内・東大・東洋〕は〔無〕字下に〔章〕字有り、〔慶Ⅰ・大東〕は〔希言章第二十三〕に作る、〔筑波・弘文・慶Ⅱ〕は〔希言自然章第二十三〕に作る（但、〔筑波〕は〔二十〕を〔廿〕に作る）

2 〔二十〕、〔梅沢・武内・東大・東洋〕は〔廿〕字に作る

3 〔東急〕〔謂〕字無し、〔宋版・世德〕は〔者是〕二字に作る

4 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理〕〔也〕字有り

5 〔縣〕、〔書陵〕は左旁に〔或本乍暴〕の校異書入れ有り

6 〔道蔵〕〔言〕字無し

7 〔疾〕字下、〔天理〕〔則〕字有り

8 〔梅沢〕〔也〕字無し

9 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・六地・陽Ⅱ・東急・治要・天理〕〔也〕字有り、尚、〔梅沢〕は〔地〕字下字間に〔也〕字を加筆

10 〔誰為〕上に〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・宋版・世德・治要・天理〕〔孰誰也〕三字有り、〔治要〕〔誰為此飄風暴雨乎天地所為〕の注文十二字無し、尚、〔東洋（青）・東活〕は

11 「孰誰也」の右旁に「三字本ナ」との校異書入れが有る
12 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・天理」「者乎」二字に、「道蔵」は「者」一字に作る
13 「地」字下、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・天理」「之」字有り
14 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・東大・東急・道蔵・天理」は「也」一字、「梅沢」は「之也」二字有り
15 「治要」「不終於朝暮也」の注文六字無し
16 「終」字上、「道蔵」「能」字有り
17 「暮也」、「道蔵」「至夕」に作る
18 「筑波」「尚」字無し
19 「道蔵」「從」字に作る
20 「暮」字下、「弘文」「也」字有り
21 「治要」「何」字無し
22 「人」字上、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・天理」「於」字有り
23 「欲」字上、「道蔵」「而」字有り
24 「道蔵」「為」字無し
25 「道蔵」「慕」字に誤る
26 「武内・東大・東洋」「疾」字に作る
27 「弘文」は「也」字に、「梅沢」は「之也」に、「東洋」は「者也」に、「治要」は「者乎」に作る、但、「梅沢」は「之也」二字に墨消線を加える、尚、「東洋」は「疾者也」の左旁に見消ちを付し右旁に「卒乎」と加筆（ともに青筆）
28 「東急・治要」「者」字無し
29 「治要」「従為也」の注文三字無し
30 「道蔵」「暴」に作る
31 「斯Ⅱ・宋版・世徳・道蔵」「也」字無し、「無窮」は「者也」に、「梅沢」は「也之」に作る、但、「梅沢」は「之」字に朱の消線を加える
32 「道」字下、「道蔵」「之」字有り
33 「道蔵」「也」字無し
34 「宋版・世徳」「謂」字に作る
35 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・道蔵・天理」「也」字有り
36 「武内・東大・梅沢・東急・宋版・世徳」「者」字無し、但、「梅沢」は「徳謂」字間に「者」字を加筆
37 「道蔵」「謂」字無し
38 「徳」字下、「道蔵」「之」字有り
39 「道蔵」「有」字に作る
40 「宋版・世徳」「謂」字に作る
41 「梅沢」「之也」二字に作り、「之」字に朱の消線を施す
42 「武内・東大・弘文・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵」「者」字無し、但、「梅沢」は「失謂」字間に「者」字を加筆
43 「謂」字下、「道蔵」「自」字有り
44 「失」字上、「道蔵」「而」字有り
45 「者」字下、「道蔵」「謂」字有り
46 「宋版・世徳」「謂」字に作る
47 「道蔵」「也」字無し
48 「斯Ⅱ・六地」「道」字無し
49 「道蔵」「与道同者道亦樂得之也」の注文十字無し、「梅沢」は「与道」二字無し、但、「同」字上に挿入符の小圏を施し右旁に「与し道」を加筆
50 「慶Ⅱ」「道亦」二字無し
51 「弘文」「之」字無し
52 「斯Ⅱ・天理」「也」字無し
53 「道蔵」「与徳同者徳亦樂得之也」の注文十字無し
54 「慶Ⅰ・大東」「得」に作り、「龍門」は「道」字に誤る
55 「東大」「徳」字無し
56 「天理」「也」字無し
57 「六地」「同於失者失亦樂得之」の経文九字無し
58 「東洋」「失」字無し、譌脱であろう
59 「宋版・世徳」「失」字に作る
60 「道蔵」「与失同者失亦樂得之也」の注文十字無し
61 「宋版・世徳」「失」字に作る
62 「天理」「也」字無し
63 「道蔵」「之」字に作る
64 「宋版・世徳」「足」字に作る
65 「道蔵」「也」字無し
「宋版・世徳・道蔵」「焉」字有り

66 「下即應君以不信」、[活Ⅰ・活Ⅱ・宋版・世德・道蔵・天理] 此の注文七字無し

67 [東急]「即」字無し、[武内・東大・東洋]「則」字に作る、尚、[梅沢] は「即」字右旁に「則〈チ・イ〉」と、[杏Ⅰ] は同字左旁に「述則」との校異書入れが有る

68 「信」字下、[陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・武内・東大・東洋・梅沢・杏Ⅰ]「也」字有り

69 [無窮・東大・大東・慶Ⅱ・筑波・東洋]「皈」字に作る

70 「同」字上、[道蔵]「也」字有り

71 「水」字上、[梅沢]「風」字有り、但、墨線を以て抹消

72 [宋版・世德・道蔵]「之也」二字無し、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・杏Ⅰ・天理] は「也」一字に作る

73 [武内・慶Ⅰ・東洋・宋版・世德] は「自然之類也」、[道蔵] は「自然之數也」、[東大] は「自然之類虚也」の注文句有り、尚、[梅沢] は「也」字下の余白に「自然之類也五字イ本」との書入れが有る

上39オ1 苦恩第二十四

跂者不立

跂進也謂貪權慕名進取切榮也則如此不可久立身行道也

跨者不行

身以為貴而跨於人衆共蔽之使不得行之也

自見者不明

人自見其形容以為好自見所行以為應道殊不自知其形醜操行之鄙

苦恩第二十四

跂ム(ス)者ハ立テラ(レ)不

跂ハ・進[也]。權ヲ貪リ名ヲ慕(ネカ)フテ・功榮ヲ進ミ取(ル)ヲ謂(フ)[也]・[則]此ノ如(ク)ナルトキハ・久(シ)ク身ヲ立(テ)道ヲ行フ可(カラ)不[也]

跨フル(アトコ〔補注1〕)者ハ行(カ)不

身[以]ヲモテ貴ト為テ・[而][於]人ニ跨フルトキハ・衆共ニ蔽フ[之]・行(ク)コトヲ得不(ラ)使ム[之也]

自(ラ)見〈去〉(アラ)ハス者(ノ)ハ明ナラ不

人自(ラ)其ノ形容ヲ見〈去〉〈ハ〉シテ・以テ好(ヨ)シト為・自(ラ)行(フ)所ヲ見(ハシ)テ・以テ道ニ應〈去〉スト為。殊ニ自(ラ)其ノ形ノ醜(ミニク)、[形醜]・操行〈去〉ノ[之]鄙(シ)キコト

自是者不彰
自以為是而非人衆共敵之使不得彰明也[27][28][29][30][31][32][33]

自伐者無功[34][35]
所為輙自伐取其功美則失功於人也[36][37][38][39][40][41][42][43]

自矜者不長[44]
好自矜大者不可以久長[45][46][47][48][49]

其於道也日餘食贅行[50][51]
贅貪也使此自矜伐之人在治國之道日賦斂餘禄食為貪行[52][53][54][55][56][57]

物或惡之[58]
此人在位動欲傷害故物无有不畏惡也[59][60][61][62]

故有道者不處[63]
言有道之人不居其國也[64][65][66]

ヲ知(ラ)不
自(ラ)是(ト)スル者ハ彰ハレ不
自(ラ)以テ是ナリトメ〔而〕人ヲ非ナリト為(ル)トキハ・衆共ニ蔽フ〔之〕。彰ー明ナルコトヲ得不(ラ)使ム〔也〕
自(ラ)伐(ホコ)ル者ハ功無(シ)
為(ル)所輙(スナハ)チ自(ラ)伐(リ)テ・其ノ功ー美ヲ取(ル)トキハ・〔則〕功ヲ〔於〕人ニ失(フ)〔也〕
自(ラ)矜(ケウ)ル者ハ長(ナカ)ラ不
好〈去〉(ミ)テ自(ラ)矜ー大ナル者ハ・以テ久ー長ナル可(カラ)不
其(レ)道ニ於テ〔也〕。日(ヒ)ニ食ヲ餘ノ贅(ムサホ)ル行(ヒ)〈去〉アリ 専税反 下去反
贅(セイ)ハ・貪〔也〕。此ノ自(ラ)矜ー伐スル〔之〕人ヲノ(使)・國ヲ治(ム)ル〔之〕道ニ在(ラ)「使」(ム)ルトキ・日(ヒ)ニ賦ー斂ノ・禄ー食ヲ餘ノ・貪レル行ヲ為(ス)
物惡〈去〉烏路反(ム)コト或リ〔之〕
此ノ人位ニ在(ル)トキハ・動(ヤ)モスレハ傷ー害セマク欲(ス)。
故ニ物畏リ惡マ不ト云コト有(ル)コト无(シ)〔也〕
故ニ有ー道ノ者ハ・處(オ)ラ不
言ハ有ー道ノ〔之〕人ハ・其ノ國ニ居(ラ)不〔也〕

校異

1 〔無窮・書陵・龍門・足利・斯Ⅱ・東急・杏Ⅰ・六地・陽Ⅱ〕章題無し、〔梅沢〕は「善思第廿四」に、〔武内・東大・東洋〕は「善思章第廿四」に、〔慶Ⅰ・大東〕は「跂者章第二十四」に、〔慶Ⅱ・筑波・弘文〕は「跂者不立章第廿四」に作る（但、〔筑波〕は「廿」を「二十」に作る）

2 〔足利〕「跋」字に誤る

3 〔足利〕「跋」字に誤る、「跂」字下、〔東洋〕「者」字有り

4 〔道蔵〕「冒」字に作る

5 〔東洋〕「名」字に作る

6 〔武内・東大・東洋・梅沢・東急・道蔵〕「也」字無し、但、〔梅沢〕は「榮則」字間に「也」字を加筆

7 「則如此」、〔東急〕「如此則」に作る、〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・杏Ⅰ・宋版・世徳・道蔵・天理〕は「如此」二字無し

8 「不可」、〔武内・東大・筑波・東洋・斯Ⅱ〕は「不可以」に、〔東急〕は「不能以」に作る、〔梅沢〕は「可」字下字間に「以」字を加筆、また〔杏Ⅰ（佐藤道生氏蔵佐保切断簡）・大東〕は「可久」両字の間左旁に「以」字を加筆する

9 〔東急〕「久」字無し

10 〔斯Ⅱ・道蔵〕「也」字無し、〔東洋〕は「者也」二字に作る

11 〔武内〕「跂」字に誤る、尚、〔東洋〕は「跨」字左旁に「或作夸」の校異書入れ有り

12 諸本「自」字に作る

13 「以」字下、〔東大〕は「貴」字有り

14 「於」字上、〔道蔵〕「之」字有り

15 〔武内〕「其」字に誤る

16 〔活Ⅰ・活Ⅱ・武内・東大・東洋・梅沢・東急・天理〕「之」字無し、〔宋版・世徳・道蔵〕は「之也」二字無し

17 「人」字上、〔道蔵〕「凡」字有り

18 「見其形容」、〔斯Ⅱ〕「其形形容」に作る

19 〔武内〕「害」字に作る（但、右旁に「容」字加筆）

20 「見」字下、〔活Ⅱ・無窮・道蔵・天理〕「其」字有り、尚、〔梅沢〕は「見所」の字間に「其」字を加筆

21 〔道蔵〕「人」字に作る

22 〔治要〕「殊」字無し

23 此の本本行には「形」字無し、「其醜」字間に挿入符の小圏を施し右旁に「形」と加筆

24 「世徳」「貌」字に作る

25 「操」字上、〔道蔵〕「而」字有り

26 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・治要・天理〕は「也」字、〔東洋〕は「者也」二字有り

27 「非」字下、〔無窮〕「於」字有り

28 「人」字下、〔道蔵〕「者」字有り

29 「衆」字下、〔活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・武内・東大・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・治要・天理〕「人」字有り

30 〔梅沢〕「使不」の字間に「其」字を加筆

31 〔道蔵〕「得」字無し

32 〔道蔵〕「顯」字に作る

33 〔宋版・世徳・道蔵〕「也」字無し

34 〔筑波〕「代」字に誤る

35 〔陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・六地・陽Ⅱ・治要〕「无」字に作る

36 〔宋版・世徳〕「謂」字に作る

37 〔治要〕「取其功美」四字無し

38 〔梅沢・東急〕「功」字無し、但、〔梅沢〕は「美」字の上字間に「功」字を加筆する

39 〔武内・東大・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・治要〕「即」字に作る

40 「失」字上、〔足利〕は「又」、〔道蔵〕は「自」字有り

41 「功」字上、〔宋版・世徳・道蔵・治要〕「有」字有り

42 〔足利〕「於」一字無し、〔治要〕は「於人」二字無し

43 〔道蔵〕「也」字無し、〔東洋〕「者也」二字に作る、尚、〔東活〕は「也」字旁に「才ナ」の校異書入れが有る

44 〔六地〕「務」に誤る、但、見消ちを付し地脚に「矜」字を加筆する

45 〔治要〕「大」字無し

46 〔治要〕「可」字無し

47 〔筑波〕「以」字無し

48 〔久長〕、〔宋版・世徳〕「長久」に作る

49 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・天理〕「也」字

有り

50 慶Ⅰ・大東「也」字無し

51 宋版・世徳・道蔵は「曰」字に作る、「六地」は「自」字に作り見消ちを付し、右旁に「日（ヒヽ）」と加筆

52 大東「務」字に誤る

53 道蔵「任」字に作る

54 宋版・世徳「曰」字に作る

55 宋版・世徳「然」に作る

56 弘文「禄」字無し

57 活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・武内・東大・筑波・東急・天理は「也」一字、陽Ⅰ・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢は「者也」二字有り、尚、東活は「也」字左旁に「オナ」の書入れ有り

58 梅沢は「悪」字の下字間余白に加筆

59 弘文「欲」字無し

60 活Ⅰ・活Ⅱ・書陵・無窮・慶Ⅱ・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理「無」字に作る

61 弘文「有」一字無し

上40オ2　象元第二十五[1][2]

有物混成先天地生[3]

謂道无形混沌而成万物乃在天地之前[7][8]

寂兮寥兮独立而不改[9]

寂者無音声寥者空無形独立者無雙不改者化有常也[16]

62 道蔵は「之」字に、活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・東急・天理は「之也」二字、陽Ⅰ・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢は「之者也」三字に作る、宋版は「地」字に誤る、尚、東活は「之」字下字間余白に小圏を付し右旁に「者」字を加筆し、「也」字下旁に「オナ」の書入れ有り、また、東洋は「者」字左旁に「才无」の校記（青筆）有り

63 宋版・世徳「也」字有り

64 沿要「言有道之人不居其國也」の注文句十字無し

65 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理「處」字に作る、尚、梅沢は「處」字右旁に「居ィ」の校異書入れ有り

66 道蔵「也」字無し

訓読文補注

1 振り仮名「アトコ」各字左旁に墨点を施す

象元第二十五

物有(リ)テ混成(故本反)ス・天地ニ先(サキ)〈去〉タテ生(ナ)レリ

道ノ无形ニメ混沌トメ・〔而〕万物ヲ成メ・乃(チ)天地ノ〔之〕前ニ在(ル)ヲ謂(フ)

寂タリ[1]〔兮〕寥タリ〔兮〕・独(リ)_立(チ)テ〔而〕改メ不

寂ハ_〔者〕・音声無(キ)ソ・寥ハ_〔者〕・空ニメ形無(キ)ソ。

独(リ)_立(チテ)ト云ハ_〔者〕・雙無(シ)。改メ_不ト云ハ〔者〕・

周行而不殆[17]
道通行天地無所不入在陽不焦託陰不腐无不貫穿[18][19][20][21][22]
不怠殆[23][24]

可以為天下母[25]
道育養万物精氣如母之養子[26][27]

吾不知其名字之曰道[28][29]
我不見道形容不知當何以名之見万物皆從道所生[30][31][32][33]
故字之曰道也[34]

強為之名曰大[35]
不知其名強曰大〈者高而无上羅而无外无不包容[36][37][38][39][40][41][42][43][44]
故曰大也[45]

大曰逝
其為大非若天常在上非若地常在下乃復逝去无常[46][47][48]
処所[49]

化ノ常有(ル)ソ〔也〕
周-行ソ〔而〕殆(アヤウ)カラ不(田報反)
道天-地(ニ)通-行ソ・入(ラ)不(ト云)所無(シ)。陽ニ在(リテ)モ焦(コカ)レ不。陰ニ託(イテ)モ腐(ク)チ不。貫-穿セ不ト云コト无(ク)ソ・危-殆ナラ不
以テ天-下ノ母為(ル)可(シ)
道ハ・万-物ノ精-氣ヲ育-養スルコト・母ノ〔之〕子ヲ養フカ如(シ)
吾其ノ-名ヲ知(ラ)不・字(ナツ)ケテ-〔之〕道ト曰(フ)
我道ノ形-容ヲ見不・當ニ何ヲ-以テカ名ク〔當〕(シ)ト云コトヲ知(ラ)不〔之〕・万-物ヲ見ルニ・皆道從(ヨ)リソ生(ナル)スル所ナリ。
故ニ字ケテ-〔之〕道ト曰(フ)〔也〕
強(シ)〈上〉ヒテ(其丈反)〔之〕名ヲ為(ツク)リテ大ト曰(フ)
其ノ-名ヲ知(ラ)不・強〈上〉(ヒ)テ大ト曰(フ)々(大)ハ-〔者〕・高(ク)ソ-〔而〕上无(ク)・羅(ツラ)ナリテ-〔而〕外无(ク)・包(カ)ネ(イ)-容レ不ト云コト无(シ)。故ニ大ト曰(フ)〔也〕
大ヲ逝ト曰(フ)
其(ノ)大為(ル)コト・天ノ常ニ上ニ在ルカ若クニハ非ス・地ノ常ニ下ニ在ルカ若クニハ非ス。乃(チ)復〈去〉逝(キ)-去

逝曰遠
言遠者窮乎[50][51]無窮布氣天地无所不通[53][54]也
遠曰反[55]
言其遠不越絶乃復反[56]在人身中[57]也[58][59][60]
故道大天大地大王亦大
道大者包羅諸天地[61]無所[62]不容[63]也[64]天大者無[65]不蓋[66]也[67]地
大者无[68]不載[69]也[70]王大者无[71]不制[72]也[73][74][75]
域中有四大[76]而王居其一焉[77]
八極之内[78]有四大王居其一也[79]
人法地
人當法地安静和柔[80]也[81]種[82]之得五穀掘[83]之[84]得甘[85]泉[86]勞[87]而
不怨[88]有切而不制[89]者[90]也
地法天

（リ）テ・常ノ処ニ所无（シ）
逝ヲ遠ト曰（フ）
遠ト言（フ）ト云ハ_〔者〕・〔乎〕無ニ窮ヲ窮メテ・氣ヲ天ニ地ニ
布（キ）テ・通セ不ト云所无（シ）〔也〕
遠ヲ反ト曰（フ）
言ハ其レ_遠（ク）ソ・越ニ絶セ不・乃（チ）復（去）リ_反（リ）テ
人ノ身ニ中ニ在（リ）〔也〕
故ニ道_大ナリ・天_大ナリ・地_大ナリ・王亦大ナリ
道大ナレハ_〔者〕・諸天ニ地ヲ包ニ羅ソ・容（レ）不ト云所無（シ）
〔也〕。天大ナレハ_〔者〕・蓋ハ不ト云コト無（シ）〔也〕。地大
ナレハ_〔者〕・載セ不ト云コト无（シ）〔也〕。王大ナレハ_〔者〕・
制セ不ト云コト无（シ）〔也〕
域ニ中ニ・四ニ大有（リ）テ・〔而〕王其ノ_一ニ居（レリ）〔焉〕
八ニ極ノ〔之〕内ニ・四ニ大有（リ）・王其ノ_一ニ居（レリ）〔也〕
人ハ地ニ法（ノト）ル
人當ニ地ノ安ニ静和ニ柔ニソ〔也〕・種（ウ）ルトキハ〔之〕五ニ穀
ヲ得・掘（ホ）ルトキハ〔之〕甘ニ泉ヲ得。勞ソ〔而〕怨（ミ）不・功有
（リ）テ〔而〕制（セ）不（ル）ニ法ル「當」（シ）〔者也〕
地ハ天ニ法ル

天憺怕不動施不求報生長万物無所収取[98]

天法道

道清静不言陰行精氣万物自成也

道法自然

道性自然無所可法也

天ハ・憺-怕ニヿ動(カ)不・施ヿ報ヲ求メ不・万-物ヲ生-長ヿ・収メ-取(ル)所無(シ)

天ハ道ニ法ル

道ハ・清-静ニヿ言(ハ)不・陰(ヒツ)カニ精-氣ヲ行(ヒ)テ・万物自(ツカラ)-成(ル)〔也〕

道ハ自-然ニ法ル

道ノ-性自-然ナリ・法ル可キ所無(シ)〔也〕

校異

1 [無窮・書陵・龍門・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ]章題無し、[梅沢]は「象元弟廿五」に、[武内・東大・東洋]は「象元章第廿五」に、[慶Ⅰ]は「有物章第二十五」に、[天東]は「有物章第廿五」に、[筑波]は「有物混成章第二十五」に、[慶Ⅱ・弘文]は「有物混成章第廿五」に作る

2 [陽Ⅰ]「無」字に作る、尚、[梅沢]「元」字右旁に「无イ」の書入れを見る、此の章題の異同については拙著第二章第一節三(176頁)参照

3 [龍門]「光」字に誤る

4 「道」字下、[道蔵]「也道」二字有り

5 [活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理]「無」字に作る

6 [無窮]「純」字に作る

7 [武内]「之」字無し

8 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢]「也」字有り

9 [無窮]「猶」字に作る

10 [陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・斯Ⅱ・東洋]「无」字に作る

11 [慶Ⅰ]「寂」字に誤る

12 [陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・東洋]「无」字に作る

13 [無窮]「猶」字に作る

14 [陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・慶Ⅱ・筑波・斯Ⅱ・東洋]「无」字に作る

15 諸本「雙」字下に「匹」(〔東急〕は「疋」)字有り

16 [宋版・世徳・道蔵]「也」字無し、尚、[東洋(青)・東活]は「也」字旁に「才ナ」の校異書入れ有り

17 [無窮・龍門・書陵・六地]「同」字に作る、尚、[慶Ⅱ・筑波]の「周」字旁、[六地]の「同」字旁に「同イ」と校異書入れ有り

18 [陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・東洋・宋版]「无」字に作る

19 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・天理]「燋」字に作る

20 [活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道蔵・天理]「無」字に作る

21 [道蔵]「由」字に作る

22 [穿]字下、[道蔵]「而」字有り

23 「不危殆」、[陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・東大・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急]は「不危不殆」に、[武内・慶Ⅰ・大東・筑波]は「不殆不危」に作る

24 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・東大・慶Ⅱ・弘文・足

25 利・斯Ⅱ・武内・慶Ⅰ・大東・筑波・東洋・梅沢・東急・道蔵・天理「也」字有り
26 「無窮」「地」字に作る
27 「龍門」「情」字に誤る
28 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理」は「也」字、「東洋」は「者也」二字有り
29 「筑波」「五」字に作る
30 「字」字上、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・武内・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・六地・天理」「故」字有り、尚、「梅沢」は「名字」の字間に「故」字を加筆する
31 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・東洋・天理」「知」字に作る、「梅沢」は右旁に「知イ」と校異の書入れ有り
32 「道」字下、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理」「之」字有り
33 「道」字下、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・天理」「之」字有り
34 「道蔵」「而」字に作る
35 「道蔵」「也」字無し
36 「為之名」、「道蔵」「名之」二字に作る
37 「名」字下、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理」「之」字有り
38 「強」字下、「道蔵」「名」字有り
39 「く者」、「道蔵」は此の二字無し、「宋版・世徳」は「く（大）」一字無し
40 「東急」「而」字無し
41 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・世徳・道蔵・天理」「無」字に作る
42 「東急」「而」字無し
43 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・慶Ⅱ・梅沢・世徳・道蔵・天理」は「無」字に、「東急」は「不」字に作る
44 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・龍門・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・世徳・道蔵・天理」「無」字に作る
45 「龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急」「苞」字に作る
46 「道蔵」「也」字無し
47 「上非若地常在、「東急」此の六字脱
48 「地」字下、「龍門」又「地」一字有り、衍
49 「活Ⅰ・活Ⅱ・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・無窮・書陵・梅沢・東急・世徳・道蔵・天理」「無」字に作る
50 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・龍門・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・武内・東大・慶Ⅰ・筑波・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・天理」「也」字有り
51 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・龍門・弘文・足利・斯Ⅱ・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・東洋・梅沢・東急・道蔵・天理」「於」字に作る
52 「陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・東洋」「无」字に作る
53 「無窮」の間、「東急」「常」字有り、但、見消ちを付す
54 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・大東・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理」「無」に作る
55 「斯Ⅱ」「通」一字未写、空格とす
56 「六地」「返」字に作る
57 「弘文」「其」字無し
58 「活Ⅰ・活Ⅱ・武内・筑波・東洋・天理」は「超」字に、「陽Ⅰ・書陵・龍門・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ」は「起」字に作る
59 「宋版・世徳」「反」一字無し
60 「活Ⅰ・活Ⅱ・龍門・書陵・陽Ⅰ・武内・東大・慶Ⅱ・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理」「中」字無し
61 「慶Ⅱ・道蔵」「也」字無し、「東洋」は「者也」二字に作る
62 「道大者包羅諸天地」、「沿要」此の注文句八字無し、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理」は「包羅諸天地」の五字無し
63 「道蔵」「諸」一字無し
64 「陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・東洋・治要」「无」に作る
「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・龍門・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・東洋・梅沢・東急・治要・天理」「所」字無し

65 ［武内・東大・東洋・梅沢・東急・道蔵］「也」字無し、但、［梅沢］は「容天」字間に「也」字の加筆有り
66 ［陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・東洋・治要］「无」に作る
67 「不」字上、［宋版・世徳・道蔵］「所」字有り
68 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・治要・天理］「也」字無し
69 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理］「無」字に作る
70 「不」字上、［宋版・世徳・道蔵］「所」字有り
71 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・治要・天理］「也」字無し
72 「王」字下、［活Ⅱ］「亦」字有り
73 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理］「無」字に作る
74 「不」字上、［宋版・世徳・道蔵］「所」字有り
75 ［東急・道蔵・治要］「也」字無し
76 ［宋版・世徳］は、経文「域中有四大」下に「四大道天地王也凡有稱有名則非其極也言道則有所由有所由然後謂之爲道然則是道稱中之大也不若無稱之大也無稱不可得而名曰域也天地王皆在乎无稱之内也故曰域中有四大者也」なる王弼注文七十八字を竄入
77 ［道蔵］「而」字無し
78 ［世徳］「功」に作る
79 ［道蔵］「也」字無し、［東急］「者也」二字に作る
80 ［和柔］、［宋版・世徳］「柔和」に作る
81 ［書陵・東大・弘文・東洋・梅沢・東急］「也」字無し、但、［梅沢］は「柔種」字間に「也」字の加筆有り
82 「種之得五穀掘之得甘泉」、［治要］此の十字無し
83 ［書陵・龍門・陽Ⅰ・慶Ⅱ・梅沢］「堀」字に作る
84 「之」字下、［大東］又「之」一字有り、衍
85 ［書陵］「耳」字に誤る、但、右旁に「甘」字を朱書し訂正
86 ［筑波］「衆」字に誤る、「泉」字下、［慶Ⅱ］「湛泊静形」四字有り（但、右旁見消ちを付す）
87 ［活Ⅱ］「榮」に誤る、「勞」字上、［武内・東大・東洋］「有」字有り、尚、［大東］は「泉労」字間に小圏を施し右旁に「有」字を加筆する
88 ［怨］字下、［宋版・世徳］「也」字有り
89 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理］は「宣」字に、［道蔵］は「置」字に作る
90 ［者也］、［宋版・世徳］「者」一字無し、［治要・道蔵］「者也」二字無し
91 ［天憺怕不動］、［治要］此の五字無し
92 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・宋版・世徳・道蔵・天理］「湛」字に作る
93 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・東急・宋版・世徳・道蔵・天理］「泊」字に作る、［梅沢］は右旁に「泊」の校字あり
94 ［武内］「於」字に作る
95 「不」字上、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・足利・斯Ⅱ・武内・東急・宋版・世徳・治要・天理］は「而」字、［道蔵］は「之」字、［弘文］は「無而所」三字有り、尚、［東洋］は青筆で「施不」字間に小圏を施し右旁に「而」字を加筆する
96 「生長」、［東大］「長生」に作る
97 ［陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・斯Ⅱ・東洋・治要］「无」字に作る
98 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・筑波・弘文・足利・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・斯Ⅱ・東洋・梅沢・道蔵・天理］「也」字有り
99 ［筑波］「天法道」以下、経文二句並びに注文脱
100 ［道］、［治要］此の字無し、［陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・道蔵］字下、［法］一字有り、「梅沢」は「道」字上下の字間に挿入符の小圏を施し右旁に「天□」「法」を加筆する、［活Ⅰ・活Ⅱ・天理］は「天當法道以」の五字に作る
101 ［武内・東大・斯Ⅱ・宋版・世徳・道蔵］「浄」に作る
102 ［陰行精氣］、［治要］此の四字無し
103 ［自成也］、［道蔵］「自然生長」四字に作る
104 ［治要］「也」字無し
105 ［陽Ⅰ・無窮・龍門・東大・慶Ⅱ・東洋・武内・慶Ⅰ・大東・治

106 要［「无」字に作る］［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・梅沢・東急・東大・慶Ⅱ・東洋・宋版・世徳・道蔵・治要・天理］「可」字無し、但、［梅沢］は「所法」字間に挿入符の小圏を施し右旁に「可（キ）」を加筆

上42オ1　重德第二十六

重為輕根

人君不重則不尊治身不重則失神草本之華輕故零落根重故長存也

重德第二十六

重キハ輕（カロ〳〵）〈去〉シキカ_根為（リ）

人_君重カラ不（ル）トキハ・〔則〕尊カラ不。身ヲ治（ム）ルニ重（カラ）不（ル）トキハ・〔則〕神（ヲ）失フ。草_本ノ〔之〕華ハ・輕〈去〉キカ_故ニ零_落ス・根ハ重キカ_故ニ・長ク_存（リ）ス〔也〕

静為躁君

人君不静則失威治身不静則身危龍静故能變化虎躁故夭虧也

静ナルハ躁（サワカ）シキカ（早報反）_君為（リ）

人_君静ナラ不（ル）トキハ・〔則〕威ヲ失フ。身ヲ治（ム）ルニ静ナラ不（ル）トキハ・〔則〕身_危シ・龍ハ静ナルカ_故ニ能（ク）變_化ス・虎ハ躁シキカ_故ニ夭_虧ス〔也〕

是以君子終日行不離輜重

輜静也君子終日行道不離其静与重也

是（ヲ）_以テ・君_子ハ・終_日ニ行（ケ）トモ輜（補注1）_重（シ）（直用反）ヲ離（ハナ）レ不輜ハ・静〔也〕。君_子ハ・終_日ニ道ヲ行（ケ）トモ其ノ静ト重与（ト）ヲ離レ不〔也〕

雖有榮觀燕處超然

榮觀謂宮闕燕處后妃所居也超然遠避而不処也

榮_觀（古亂反）〈去〉燕_處有（リ）ト雖・超然タリ

榮_觀〈去〉ト云ハ・宮_闕ヲ謂（フ）・燕_處ハ・后妃（ヒ）ノ居（ル）所ナリ〔也〕。超_然タリト云ハ・遠（ク）（補注2）_避（リ）テ〔而〕処〈上〉

奈何萬乘之主

奈何者疾[29]時主[30]傷痛之万[31]乘之主謂王者[32][33][34]

而以身輕[35]天下

王者至尊而以其身行輕躁兮[38]疾時王奢恣輕淫也[39]

輕則失臣

王者輕淫[40]則失其臣治身輕淫[41]則失其精[42]

躁[43]則失君

王者[44]躁疾[45]則失其君位治身躁疾則[46]失其精神也[47]

（ラ）不（ル）ソ〔也〕

奈_何ソ・萬_乘〈去〉ノ〔之〕主ニ（縄證反）ノ

奈_何（ソ）ト云ハ_〔者〕・時ノ_主ノ傷リ_痛（マ）シムルコトヲ疾ム〔之〕。万_乘ノ〔之〕主ト云ハ・王_者ヲ謂（フ）

而ノ身ヲ以（テ）天_下ニ輕〈去〉（ン）セン（カロ〜シクセ）

王_者ハ・至（リ）テ_尊（ク）ノ〔而〕其ノ_身ヲ以（テ）輕_躁ヲ行（フ）〔兮〕・時ノ_王ノ奢恣輕_淫ナルコトヲ疾ム〔也〕

輕（シキ）トキハ〔則〕臣ヲ失フ

王_者・輕_淫ナルトキハ・〔則〕其ノ_臣ヲ失フ。身ヲ治（ム）ルニ輕_淫ナルトキハ・〔則〕其（ノ）_精ヲ失フ

躁（シキ）トキハ〔則〕君ヲ失フ

王_者・躁_疾ナルトキハ・〔則〕其ノ君ノ_位ニ失（フ）・身ヲ治（ム）ルニ躁_疾ナルトキハ・〔則〕其ノ_精_神ヲ失（フ）〔也〕

校異

1 ［無窮・龍門・書陵・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ］章題無し、［梅沢］は［重徳弟廿五］に、［武内・東大・東洋］は［重徳章第廿四］に、［慶Ⅰ・大東］は［重為章第二十五］に、［筑波］は［重為輕根章第二十五］に、［弘文］は［重為輕根章第廿五］に、［慶Ⅱ］は［重為輕根章廿五］に作る

2 ［天理］［去］字に作る

3 ［治要］［草本之華輕故零落根重故長存也］十四字無し

4 諸本［木］字に作る

5 ［道蔵］［之］字無し

6 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・天理］［花葉］二字に作る

7 ［根］字下、［武内・東大・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・東洋］［其］字有り、尚、［梅沢］は［根重］字間に［其］字を加筆

8 ［故］字下、［道蔵］［能］字有り

9 ［龍門］［在］字に作る

10 ［梅沢］［也］字無し、但、［存］字下余白に加筆さる、［東急］

「也矣」二字に作る
11 治要「龍静故能變化虎躁故夭虧也」十二字無し
12 斯Ⅱ「虚」字に誤る
13 「躁」字下、慶Ⅱ「静」字有り、但、見消ちを付す
14 「故」字下、梅沢「能」字が有り、右旁に「イ无」の校記を付す
15 「夭虧」、道蔵「虧夭」に、足利「与虧」に、武内「天虚」に作る
16 「君子」、宋版・世徳・道蔵「聖人」に作る
17 梅沢・東急「轄」字に作る
18 「君子」、宋版・世徳「聖人」に作る
19 天理「道」字無し
20 天理「其」字無し、武内・東大・東洋・梅沢・東急「於」字に作る
21 足利「輻」字に作る、但、字下に「静ィ」の書入れ有り
22 道蔵「与」字無し
23 龍門・書陵・慶Ⅱ・道蔵「也」字無し、尚、東洋「也」字左旁に青筆の見消ちを付す
24 足利「官」字に、慶Ⅱ「営」字に作る、但、足利「は眉上に校字「宮」の書入れ有り
25 世徳「觀」字に作る
26 道蔵「也」字無し
27 道蔵「也」字無し
28 疾」字下、道蔵「其」字有り
29 道蔵「主」字無し、慶Ⅰ「王」字に作る
30 「之」字下、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・東急「也」字、東洋・宋版・世徳・道蔵・天理「辞」字、筑波「辞也」二字有り、尚、東洋は青筆で「辞」字左旁に見消ちを付し右旁に「也才无」と、東活は「也」字左旁に「才无」との校異書入れが有る、また、慶Ⅱは「之」下字間余白に「辞」字を加筆する
31 道蔵・治要「万乗之主謂王者」七字無し
32 宋版・世徳「者」字無し
33 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理「也」字有り
34 「輕」字下、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・六地・陽Ⅱ・道蔵・治要・天理「於」字有り
35 沿要「王者至尊而以其身行輕躁兮」十二字無し
36 道蔵「於」字に作る
37 諸本「乎」字に作る
38 「淫」字下、道蔵「失其精」三字有り
39 宋版「滔」字に作る
40 道蔵「躁」字に作る、字下、足利「也」字有り
41 「精」字下、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・道蔵・天理は「也」字、東洋は「者也」二字有り
42
43 斯Ⅱ「躁則失君」の経文及び注文並びに脱
44 「者」字下、宋版・世徳・道蔵・治要「行」字有り
45 天理「失」字に誤る
46 足利「則」字無し
47 弘文・道蔵「也」字無し

訓読文補注

1 眉上に「輻（ハ）ー側飢切」の書入れ有り
2 「遠（ク）避（リ）テ［而］」、「遠（ク）避（サ）ケテ」（武内）、「遠ク避（サ）ケテ」（慶Ⅰ別訓）、「遠避ノ［而］」（慶Ⅰ・大東）等の訓読が認められるが、今、梅沢の「遠（トヲ）ク避（サ）リて」に従う

善行者無轍跡

善行道者求之於身不下堂不出門故无轍跡

善言者無瑕謫

善言謂擇言而出則无瑕疵謫過於天下

善計者不用籌策

善以道計事者則守一不移所計不多則不用籌策而可知也

善閉者無關楗而不可開

善以道閉情欲守精神者不如門戸有關楗可得開

善結者無繩約而不可解

善以道結事者乃可結其心不如繩索可得解也

是以聖人常善救人

聖人所以常教人忠孝者欲以救人性命

善(ク)ー行(ユ)〈去〉ク(下孟反)ー者(ノ)ハ轍ー跡無(シ)

善(ク)道ヲ行(ク)者(ノ)ハ・之ヲ〔於〕(補注1)身ニ求メテ・堂ヲ下(オ)〈去〉リ不・門ヲ出(テ)不。故ニ轍ー跡无(シ)

善(ク)ー言(フ)ー者(ノ)ハ・瑕ー謫(下家反)無(シ)

善(ク)ー言(フ)ト云ハ・言ヲ擇(エラ)ンテ〔而〕出(ス)トキハ・〔則〕〔於〕天ー下ニ瑕ー疵謫ー過无(キ)ヲ謂(フ)

善(ク)ー計フル(直由反)ー者(ノ)ハ・籌ー策ヲ用井不

善(ク)道ヲ以テ事ヲ計(フ)ル者(ノ)ハ・〔則〕一ヲ守リテ移ラ不・計(フ)ル所多カラ不ルトキハ・〔則〕籌ー策ヲ用(井)不ソ・〔而〕知ヌ可(シ)〔也〕

善(ク)ー閉(ト)ツル(直革反)ー者(ノ)ハ・關ー(ケン)楗無(ク)シテ・〔而〕開(ク)可(カラ)不

善(ク)道ヲ以テ情ー欲ヲ閉(ト)チ・精ー神ヲ守ル者(ノ)ハ・門ー戸ノ・關ー楗有(リ)テ開(ク)コトヲ得可(キ)カ如(ク)ニハ不(ス)

善(ク)ー結(カタム)ス(ト)ー者(ノ)ハ・繩ー約(エウ)(ヤク)無(ク)シテ・〔而〕解(ト)ク可(カラ)不

善(ク)道ヲ以テ事ヲ結スル者(ノ)ハ・乃(チ)其ノ心ニ結ス可(シ)・繩ー索解(ク)コトヲ得可(キ)カ如(ク)ニハ不(ス)〔也〕

是(ヲ)ー以テ聖ー人ハ・常ニ善(ク)人ヲ救フ

聖ー人ノ・常ニ人ニ忠ー孝ヲ教(フ)ル所ー以ハ〔者〕・以テ人ノ

故無棄人[48]
使貴賤各得其所也
常善救物
聖人所以常教民順四時以救万物之殘傷[49][50][51][52][53][54]
故無棄物[55]
聖人不賤石而貴玉視如一[56][57][58]
是謂襲明[59]
聖人善救人物是謂襲明大道也[60][61]
故善人者不善人之師[62][63][64]
人之行善者聖人即以為人師[65][66][67]
不善人者善人資[68][69]
資用也人行不善聖人猶教道使為善得以為給用也[70][71][72][73][74][75]

性-命ヲ救(ハン)ト欲(シ)テナリ
故ニ人ヲ棄(ツ)ルコト無(シ)
貴-賤ヲメ(使)・各其ノ-所ヲ得[使(シ)]ム〔也〕
常ニ善(ク)物ヲ救フ
聖-人ハ・常[二]民ニ四-時ニ順フコトヲ教(フ)ル所-以ハ・以(コレ)ヲモテ万-物ノ〔之〕殘-傷ヲ救フ
故ニ物ヲ棄(ツ)ルコト無(シ)
聖-人ハ・石ヲ賤(シク)シテ〔而〕玉ヲ貴ハ不・-視(ル)コト一ノ如(シ)
是ヲ襲(シフ)-明ト謂(フ)
聖-人ハ・善(ク)人-物ヲ救フ・是ヲ大-道ニ襲-明スト謂(フ)〔也〕
故ニ善-人ハ-〔者〕・不-善-人ノ〔之〕師ナリ
人ノ〔之〕善ヲ行フ-者(ノ)ヲハ・聖-人・即(キ)テ以テ人ノ-師ト為(ス)
不-善-人ハ-〔者〕・善-人ノ資(ヒ)ナリ
資ハ・用〔也〕。人ノ-行〈去〉ノ善カラ不(ル)ヲハ・聖-人・猶(ナヲ)教ヘ-道(ヒ)イテ善ヲ為メ以(テ)給-用(ト)為(ル)コトヲ得使(ム)〔也〕

不貴其師[76]
独無輔[77][78]也
不愛其資
無所使[79]也
雖智[80]大迷
雖自以為智言此人乃大迷惑[81][82][83]
是謂要妙
能通此意[84]是謂知微妙要道也[85][86]

其ノ_師ヲ貴ヒ不
独ニ_ノ輔ケ無(シ)〔也〕
其ノ_資ヲ愛セ不
使フ所無(キ)ソ〔也〕
智アリト雖・大ニ_迷フ
自(ラ)以テ智ト為ト雖・言ハ此ノ_人乃(チ)大ニ迷_惑ス
是ヲ要_妙ト謂(フ)
能(ク)此ノ_意ニ通スル・是ヲ微_妙ノ要_道ヲ知(ル)ト謂(フ)
〔也〕

校異

1 [無窮・書陵・龍門・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ]章題無し、[梅沢]は「巧用弟廿七」に、[武内・東大・東洋]は「巧用章第廿七」に、[慶Ⅰ・筑波]は「善行章第二十七」に、[天東・慶Ⅱ・弘文]は「善行章第廿七」に作る
2 [宋版・世徳]「者」字無し
3 [龍門・慶Ⅰ・大東・武内・東大・六地]「无」字に作る
4 [梅沢・東急・陽Ⅱ]は「徹」に、[武内・東大]は「蹴」に作る
5 [武内・東大・宋版・世徳]「迹」字に作る
6 [東急]「道」字無し
7 [活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・慶Ⅱ・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理]「無」字に作る
8 [梅沢・東急]は「徹」字に、[東大]は「蹴」字に作る
9 [武内・東洋・東大・宋版・世徳]「迹」字に作る
10 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅱ・弘文・足利・慶Ⅰ・大東・筑波・斯Ⅱ・武内・東大・東洋・梅沢・東急・天理]「也」字有り
11 [宋版・世徳・道蔵]「者」字無し
12 [陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・東洋・六地・陽Ⅱ]「无」に作る
13 [道蔵]「謫」字に作る
14 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・天理]「者」字有り、[梅沢]は「言」字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・天理]は「之」字有り
15 [活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道蔵・天理]「無」字に作る
16 [道蔵]「疵」字無し
17 [斯Ⅱ・道蔵]は「謫」字、[東洋]は「適」字に作る
18 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・天理]「也」字有り
19

20 「宋版・世德・道蔵」「者」字無し
21 「筑波」「討」字に作る
22 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理」「則」字無し
23 「筑波」「討」字に作る
24 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理」「則」字無し
25 「道蔵」「可」字無し、「書陵」は「不」字に作る、但、朱筆で左旁に見消ちを付し右旁に「可」字を加筆している
26 「宋版・世德」「者」字無し
27 「龍門・慶Ⅰ・大東・東大・慶Ⅱ・六地・陽Ⅱ」「无」に作る
28 「無窮」「開」字に作る（但、右旁「閑」字加筆）
29 「無窮・書陵・武内・弘文・斯Ⅱ・東大・慶Ⅱ・梅沢・宋版・世德」は「揵」、「東急・道蔵」は「鍵」字に作る
30 「世德」「精」字に作る、誤刻であろう
31 「斯Ⅱ」「閉」字に作る
32 「梅沢」「開」字に誤る
33 「道蔵」此の字無し、「無窮・書陵・武内・東大・筑波・慶Ⅱ・慶Ⅰ・弘文・斯Ⅱ・梅沢・宋版・世德」は「揵」に、「東急」は「鍵」字に作る
34 「可」字上、「慶Ⅱ」「不」字有り
35 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅱ・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・天理」「也」字有り
36 「宋版・世德」「者」字無し
37 「陽Ⅰ・龍門・慶Ⅰ・大東・東大」「无」字に作る
38 「斯Ⅱ・梅沢」は「幼」に、「龍門・無窮・六地」は「紉」字に作る
39 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・天理」「可」字無し
40 「大東・斯Ⅱ」「素」字に作る
41 「道蔵」「也」字無し、「梅沢」は「也之」、「筑波」は「之也」二字に作る、但、「梅沢」は「之」字に抹消符朱線を施す
42 「聖人」下、「慶Ⅱ」は「々々（聖人）」二字有り、但、右旁見消ちを付す
43 「善救人」、「世德」「救善人」に作る
44 「東洋」「常」字無し
45 「慶Ⅱ・道蔵」「者」字無し
46 「宋版・世德」「在」字に作る
47 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・治要・天理」「也」字有り、「梅沢」は「也之」二字有り、但、「之」字に抹消符墨線を施す
48 「六地・陽Ⅱ・治要」「无」字に作る
49 「宋版・世德・道蔵・治要」「常」字無し
50 「教民」、「無窮」「民教」に作る
51 「時」字下、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理」「者」字有り
52 「龍門」「也」字に作る、「慶Ⅰ」は「之」字下に又「之」字有り
53 「残傷」、「道蔵」「傷残」に作る
54 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・治要・天理」「也」字有り
55 「陽Ⅰ・東大・慶Ⅰ・大東・六地・治要」「无」字に作る
56 「治要」「聖人」二字無し
57 「視如一」「治要」は此の句無し、「視」字下、諸本「之」字有り
58 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理」は「也」一字、「東洋」は「者也」二字有り
59 「宋版・世德」「是」字無し
60 「龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢」「天」字に作る
61 「道蔵」「也」字無し、「東洋」は「者也」二字に作る
62 「東洋」「者」一字無し、但、「一人不」字間に小圏を施し左旁に「者」字を加筆しその左旁に青筆で「才无」と傍記する、尚、「東活」は「者」字左旁に「才ナ」の校記有り
63 「治要」「善人」二字無し
64 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・六地・陽Ⅱ・治要・天理」「也」字有り

65 [道蔵]「則」字に作る
66 [弘文]「人」字無し
67 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・道蔵・治要・天理]は「也」字、[東洋]は「者也」二字有り
68 「人」字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・六地・陽Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・治要・天理]「之」字有り、[慶Ⅱ]は「之之」二字有り
69 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・六地・陽Ⅱ・天理]「也」字有り
70 「善」字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理]「者」字有り
71 [道蔵]「聖人」二字無し
72 [治要]「猶」字無し、[活Ⅰ・陽Ⅰ]「獨」字に作る、尚、[東活]は「獨」字左旁に「猶イ」の書入れ有り
73 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理]「導」字に作る
74 [活Ⅰ・陽Ⅰ・龍門・書陵・慶Ⅱ・東急・宋版・世徳・道蔵]「為」字無し
75 [道蔵・治要]「也」字無し
76 [治要]此の経文句及び注文句無し
77 [陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・斯Ⅱ・東洋]「无」字に作る
78 [足利]「輔也」二字無く「獨無」二字を大字経文として書写、但、右旁に小圏を施す、見消ちか
79 [陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・東洋・治要]「无」字に作る
80 [道蔵]「知」字に作る
81 [龍門・書陵]「乃」字無し
82 [足利]「或」字に作る
83 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・道蔵・天理]「也」字有り、[東洋]は「者也」二字有り
84 [道蔵]「道」字に作る
85 [東大]「智」字に作る
86 [治要]「也」字無し

訓読文補注

1 もと送り仮名は「ヲ」、墨で消し線を施し、左に「ニ」と訂正する

上44ウ5 反朴第二十八

知其雄守其雌爲天下谿[2]

雄以喻尊雌以喻卑人雖自[5]知其尊顯當復守之以卑[7]

微去雄之強梁就雌之柔和如是則天下皈[11]之如水流[12][13]

入深谿[14][15]也

反朴第二十八

其ノ雄[1]ヲ知(リ)テ其ノ雌[1]ヲ守(ルトキ)ハ・天下ノ谿爲(リ)

雄ハ・以テ尊キニ喻(フ)。雌ハ・以テ卑キニ喻フ。人自(ラ)

其ノ尊顯ヲ知(ル)ト雖・當ニ復守ルニ〔之〕・卑微ヲ以テス

「當」シ。雄ノ〔之〕強梁ヲ去〈上〉(テ)・雌ノ〔之〕柔和ニ就ク・

爲天下谿常德不離[16]
人能謙下如深谿則德常在不復離於已[17][18][19][20]

復歸於嬰兒[21]
復常歸志於嬰兒惷然而無所知也[22][23][24][25][26][27][28][29]

知其白守其黑爲天下式
白以喻昭〻黑以喻黙〻人雖自知昭〻明達當復守之以黙〻如闇昧无所見如是則可以爲天下法式也[30][31][32][33][34][35][36][37][38][39][40][41]
則德常在[42]

爲天下式常德不忒[43]
人能為天下法則德常在於已不復差忒也[44][45][46][47][48]

復歸於無極[49]
德不差忒則長生久壽歸身於无窮極也[50][51][52][53][54][55][56][57]

是(ク)ノ如キハ・〔則〕天-下ノ皈スルコト〔之〕・水ノ流レテ深-谿ニ入(ル)カ如(シ)〔也〕
天-下ノ谿爲(ル)トキハ・常ノ_德アリテ離レ不
人_能(ク)謙-下〈去〉スルコト・深-谿ノ如(クナル)トキハ・〔則〕德常ニ在(リ)テ復〔於〕己ヲ離レ不
〔於〕嬰-兒ニ復〈入〉-歸ス
復〈去〉常ニ志ヲ〔於〕嬰-兒ニ歸シテ・惷-然トソ〔而〕・知(ル)所無(シ)〔也〕
其ノ_白ヲ知(リ)テ・其ノ_黑ヲ守ルトキハ・天-下ノ式(ノリ)爲(リ)
白ヲハ・以テ昭-々ニ喩フ・黑ヲハ・以テ黙-々ニ喩(フ)。人自(ラ)昭-々トソ明-達ヲ知(ル)ト雖(補注一)・當ニ復〈去〉之(ヲ)守ルニ黙-々ヲ以テ・闇-昧ニソ見(ル)所无(キ)カ如(ク)ナル「當」シ。是(ク)ノ如(ク)ナルトキハ・〔則〕以テ天-下ノ法-式ト爲ソ〔也〕・〔則〕德常ニ_在(ル)可(シ)
天-下ノ式爲(ル)トキハ・常ノ德アリテ忒(タカ)ハ不
人能(ク)天-下ノ法為(ル)トキハ・〔則〕德常ニ〔於〕己ニ在(リ)テ・復〈去〉差(タカ)ヒ_忒ハ不〔也〕
〔於〕無-極ニ復〈入〉-歸ス
德差ヒ_忒ハ不(ル)トキハ・〔則〕長-生久-壽ニソ・身ヲ〔於〕

知其榮守其辱為天下谷
榮以喻尊貴[58]辱以喻汚濁[59]知已之有榮貴當守之[60]以
汚濁[61]如是則天下歸之[62]如水流入深谷也[63]

爲天下谷常德乃足
足止也人能爲天下谷德乃常止於已[64]

復[65]歸[66]於朴[67]
復當[68]歸身於質朴[69]不復[70]為文飾[71]

朴[72]散則爲器
万物之朴[73]散則為器用也[74]若道散則為神明流[75]為日月
分為五行也[76]

聖人用之則[77]爲官長
聖人外用則為百官之元長也[78]

窮極无(キ)ニ歸ス〔也〕
其ノ榮ヲ知(リ)テ・其ノ辱ヲ守ルトキハ・天下ノ谷為(リ)
榮ヲハ・以テ尊貴ニ喩(ヘ)・辱ヲハ・以テ汚濁(六ウ)ニ喩フ。己
カ〔之〕榮貴有(ル)コトヲ知(レ)トモ・當ニ守ルニ〔之〕汚濁
ヲ以テス。是(ク)ノ如(キ)トキハ・〔則〕天下歸(ト)スルコト〔之〕・
水ノ流(レ)テ深谷ニ入(ル)カ如(シ)〔也〕
天下ノ谷爲(ルトキハ)。常ノ德アリテ乃(チ)足(ト)マル
足ハ・止〔也〕。人能(ク)天下ノ谷爲(ル)トキハ・德乃(チ)
常ニ〔於〕己ニ止(マ)ル
〔於〕朴〈入〉ニ復〈入〉歸ス
復〈去〉當ニ身ヲ〔於〕質朴〈入〉ニ歸ソ・復〈去〉文飾ヲ為不
(ル)「當」(シ)
朴〈入〉散(ト)ソハ・〔則〕器ト爲ル
万物ノ〔之〕朴〈入〉散(ト)スルトキハ・〔則〕器用ト為(ル)〔也〕。
道散(ト)ソハ〔則〕神明ト為(ル)。流レテ日月ト為ル。分レテ
五行ト為ルカ若シ〔也〕
聖人用(ヰ)ルトキハ〔之〕・〔則〕官長爲(タ)リ(丁丈反)
聖人・外ニ用(ヰ)ルトキハ・〔則〕百官ノ〔之〕元長為(リ)
〔也〕

故大制不割

聖人用之則以大道制[90]御天下无復[91]割[92]治身則以天道制[93]情欲不害[94]精神也[95][96][97]

校異

1 [無窮・龍門・書陵・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ] 章題無し、[梅沢] は「反朴弟廿八」に、[武内・東大・東洋] は「反朴章第廿八」に、[筑波] は「反朴章第二十八」に、[慶Ⅱ・弘文] は「知其雄章第廿八」に作る
2 [東急・治要] [溪] 字に作る
3 [武内・東大・筑波・東洋・梅沢・東急] [諭] 字に作る
4 [武内・東大・筑波・東洋・梅沢・東急] [諭] 字に作る
5 [自知]、[宋版・世徳] [知自] に作る、[弘文] は [自] 字無し
6 [梅沢・東急・宋版・世徳・治要] [其] 字無し
7 [之以]、[道蔵] [其] 一字に作る
8 [宋版] [雄] 字無し、譌脱か
9 [雌] 字上、[道蔵] [其] 字有り
10 [治要] [如] 字無し
11 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・治要] [歸] 字に作る
12 [水] 字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・治要・天理] [之] 字が有る、[慶Ⅱ] は [水之] 二字有り、[水] 一字衍か
13 [流入]、[道蔵] [游] 一字に作る
14 [筑波・東急] [溪] 字に作る
15 [東大・道蔵・治要] は [也] 字無し、[東洋] は [者也] 二字に作る
16 [東急・治要] [溪] 字に作る
17 [弘文・東急・治要] [溪] 字に作る
18 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理] [復] 字無し、但、[梅沢] は [不離] 字間に [復] 字を加筆し、[慶Ⅱ] は [不離] 字間に小圏を施し右旁に [復] 字を加筆、[道蔵] は [能] 字に作る
19 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理] [於] 字無し
20 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・東急・道蔵・天理] [也] 字有り、[梅沢] は [也之] 二字有り
21 [慶Ⅱ・大東・筑波・天理] [皈] 字に作る
22 [活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅱ・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・六地・陽Ⅱ・天理] は [嬰] 字に、[陽Ⅰ・宋版] は [瓔] 字に作る
23 [復常]、[宋版・世徳] は [常復] に、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・天理] は [復當] に作る
24 [武内・東大・慶Ⅱ・大東・筑波・弘文・東洋・天理] は [皈] 字に、[道蔵] は [復] 字に作る
25 [陽Ⅰ・宋版] は [瓔] 字に、[世徳] は [瓔] 字に作る
26 [世徳・道蔵] [巷] 字に作る
27 [梅沢・東急・道蔵] [而] 字無し
28 [陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・斯Ⅱ・東洋] [无] 字に作る
29 [東急] は [也] 字無し
30 [武内・東大・筑波・東洋・梅沢・東急] [諭] 字に作る
31 [昭々]、[龍門] [照照] に作る
32 [武内・東大・筑波・梅沢・東急] [諭] 字に作る

故ニ大制ハ割セ不

聖人ノ用(ヰル)トキハ〔之〕・〔則〕大道ヲ以テ・天下ヲ制御ソ・復〈去〉割スルコト无(シ。)身ヲ治(ム)ルトキハ・〔則〕天道ヲ以テ・情欲ヲ制ソ・精神ヲ害セ不〔也〕

33 「默々」、[慶Ⅱ]「點々」に作る
34 「昭々」、[龍門]「照照」に作る
35 宋版・世德「白」字に作る
36 道藏「復」字無し
37 弘文「之」字無し
38 「默々」、[道藏]畳字無く「默」一字に作る、譌脱か、[慶Ⅱ]は「點々」に作る
39 [活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世德・道藏・天理]「無」字に作る
40 [東急・宋版・世德・道藏・治要]「以」字無し
41 [宋版・世德・道藏]「也」字無し
42 「則德常在」[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・治要・天理]此の四字無し、[道藏]「則」を「其」字に、[宋版]は「德」を「得」字に作る
43 [宋版・世德・道藏]は「忒」に、[梅沢]は「彧」に、[東洋]は「式」に、[東大]は「咸」に、[活Ⅰ・活Ⅱ・足利・天理]は「惑」に作る
44 [法]字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道藏・治要・天理]「式」字有り
45 [武内・東大・筑波・足利・東洋・東急・道藏]「於」字無し
46 [東急]「復」字無し、[道藏]は「復」字下に「有」字有り
47 [宋版・世德・道藏]は「忒」に、[梅沢]は「彧」に、[東洋]は「式」に、[東大]は「咸」に、[活Ⅰ・活Ⅱ・足利・天理]は「惑」に作る
48 [東洋・宋版・世德・道藏]「也」字無し、尚、[東洋]は「忒」字下に青筆で「也」字を加筆しその左旁に「才ナ」と、また[東活]「也」字に「才ナ」との校異書入れが見られる
49 [慶Ⅱ・大東・筑波・天理]「皈」字に作る、[六地]は此の「歸」字より本章末部の「故大制」迄の四十二字欠
50 [陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・大東]「无」に作る
51 [德]字上、[弘文]「復」字有り
52 [宋版・世德・道藏]は「忒」に、[梅沢]は「彧」に、[東洋]は「忒」に、[東大]は「咸」に、[慶Ⅱ]は「彧」に、[活Ⅰ・活Ⅱ・足利・天理]は「惑」に作る
53 「長生久壽」、[道藏]「久壽長生」に作る
54 [壽]字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・慶Ⅰ・足利・東大・慶Ⅱ・大東・筑波・弘文・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理・[復]字有り
55 [書陵・東大・慶Ⅱ・大東・筑波・弘文・斯Ⅱ・東洋・天理]「皈」字に作る
56 [活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・慶Ⅱ・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世德・天理]「無」字に作る、[道藏]は此の字無し
57 [道藏]「也」字無し
58 [武内・東大・筑波・東洋・梅沢・東急]「諭」字に作る
59 「貴辱以喻汚濁」[治要]此の六字無し
60 [武内・東大・梅沢・東急]「諭」字に作る
61 「濁」字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・武内・東大・東洋・梅沢・東急・道藏・天理]「也」字有り
62 「知」字上、[東大・東洋]は「能」字、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理]は「人能」二字有り
63 [武内・東大・慶Ⅱ・大東・筑波・弘文・斯Ⅱ・東洋・天理]「皈」字に作る
64 治要「入」字無し
65 「深」字上、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・斯Ⅱ・足利・東洋・梅沢・天理]「於」字有り
66 [弘文・斯Ⅱ]「焉」字に作る、[東洋]は「者也」二字に作る
67 [宋版・世德・道藏]「常」字無し
68 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理]「也」字あり
69 [復]字上、[東大]「德」字有り
70 [書陵・東大・大東・慶Ⅱ・筑波・天理]「皈」字に作る
71 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・陽Ⅱ・東急・道藏・天理]「樸」字に作る、但、[梅沢]は右旁に校字「朴」の書入れ有り、尚、[東洋(青)]は「朴」字左旁に見消ちを付し眉上に「樸本作朴」と、また[東活]「樸」字左旁に「本乍朴」との校異書入れが有る
72 「當」字下、[東急]「常」字有り
73 [書陵・大東・慶Ⅱ・筑波・斯Ⅱ・東洋・天理]「皈」字に作る

74 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・道蔵・天理］「樸」字に作る、但、［梅沢］は右旁に校字「朴」の書入れ有り

75 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・道蔵・天理］「无」字に誤る

76 ［不］字上、［慶Ⅱ］「散則」二字有り、但、右旁に見消ちを施す

77 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・東急・天理］「也」字有り、［梅沢］は「飾」下の字間に「也」字を加筆する

78 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・道蔵・陽Ⅱ・天理］「樸」字に作る、但、［梅沢］は右旁に「朴」字を加筆する

79 ［弘文］「之」字無し

80 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・道蔵・天理］「樸」字に作る

81 ［道蔵］「也」字無し

82 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理］「則」字無し

83 ［道蔵］［流］字無し

84 ［武内・梅沢・道蔵］「也」字無し、［東洋］「者也」二字に作る

85 ［弘文・東洋・梅沢・陽Ⅱ］「則」字無し、但、［梅沢］は「之爲」字間に挿入符の小圏を施し右旁に「則」字を加筆する

86 諸本「升」字に作る、此の本伝写の譌か

87 ［為］字下、［弘文］「散」字有り

88 ［斯Ⅱ］「无」字に誤る

89 ［天理］「也」字無し

90 ［制御］、［武内・東大・東洋・東急］「御制」に作る、［梅沢］は移行符を以て「御制」に訂正する

91 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・慶Ⅱ・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道蔵・天理］「無」字に作る

92 ［復］、諸本「所傷」二字に作る、但、［足利］は元「所復」に作り「復」字を墨消して下に「傷」字を加筆している

93 ［道蔵］「害」字に作る

94 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・天理］「大」字に作る

95 ［制］字下、［道蔵］［御］字有り

96 ［害］字下、［道蔵］［於］字有り

97 ［道蔵］「也」字無し、尚、［東洋（青）・東活］は字旁に「才ナ」の校異記有り

訓読文補注

1 「ト」、元の仮名は「ハ」、擦り消して「ト」に改める

2 「大ニ道ヲ以テ」、原文は「以大ニ道」で返り点が無い。このままでは文脈通ぜず、下句「天ニ道ヲ以テ」（以テ天ニ道ヲ）の例により、返り点「一」「二」の脱落或いは省筆と見做す

上46ウ3　無爲第二十九

[1]

[2]

将欲取天下

[3]

欲爲天下主也

而爲之

無ニ爲第二十九

〔補注1〕

将ニ天ニ下ヲ取(リ)テ而テ爲(オサ)メント欲スルヲ〔之〕

天ニ下ノ主爲(ラ)ンコトヲ欲スルソ〔也〕

欲以有為治民[4]

吾見其不得已

我見其不得天道人心已明矣天道[5]惡煩溷人心惡多欲[6]

天下神器不可為也[7]

器物也人乃天下之神物也[8]神[9]物好安静不可以有為治[10]

爲者[11]敗之

以有為治之則敗[12]其質性也[13]

執者失之

強執教[14]之人[15]則失其[16]情[17]實[18]生[19]於[20]奸[21]偽[22]也[23]

夫[24]物或行或隨

上所行[25]下必隨之也[26]

或呴[27]或吹

呴[28]温[29]也吹[30]寒也有所温[31]必有所寒也[32]

或強或羸

有ニ為ヲ以テ民ヲ治メント欲スルソ

吾其ノ得不(ラ)ンコトヲ見(ル)已(ノミ)

我其ノ天道・人ニ心ヲ得不(ラ)ンコトヲ見ルコト・已ニ明ナリ〔矣〕。天ニ道ハ・煩ニ濁ヲ惡ム・人ノ心ハ多ニ欲ヲ惡〈去〉ム

天ニ下ノ神ニ器ハ・為(オサ)ム可(カラ)不〔也〕

器ハ・物〔也〕。人ハ・乃(チ)天ニ下(ノ)〔之〕神ニ物ナリ〔也〕・神ニ物ハ・安ニ静ヲ好〈去〉ム。以テ治ヲ為(ル)コト有(ル)可(カラ)不

爲ムル者(ノ)ハ・敗ル〔之〕

有ニ為ヲ以テ治(ム)ルトキハ〔之〕・〔則〕其ノ質ニ性ヲ敗ル〔也〕

執(ル)ニ者(ノ)ハ・失フ〔之〕

強(シ)ヒテ執(リ)ニ教フル〔之〕人ハ・〔則〕其ノ情ニ實ヲ失(ヒ)テ・〔於〕奸ニ偽ヲ生(ス)〔也〕

夫〈平〉物・行フコト或(ア)レハ隨フコト或(リ)

上ノ行(フ)所ニハ・下必(ス)ニ隨フ〔之也〕

呴(アタ)カナルコト或レハ吹(サム)キコト或(リ)六虎

呴ハ・温〔也〕。吹ハ・寒〔也〕。温ナル所有(ル)トキハ・必(ス)寒スル所有(リ)〔也〕

強キコト或(レ)ハ羸(ヨハ)キコト或(リ)力爲反

有所強大必有所羸弱也[34]
或載或隳[35]
載安也隳[36]危也有所安必有所危[37]明人君不可以有為
治國与治身也[38][39]

是以聖人去甚去奢去泰

甚謂貪淫声色奢謂服飾飲食也[40][41][42]泰謂宮室臺[43]榭[44]去此
三者処中和行無為則天下自化[45][46][47][48]

強-大ナル所有(レ)ハ・必ス-羸-弱ナル所有(リ)〔也〕
載(ヤス)キコト或レハ隳(アヤフ)〈平〉キコト或(リ)
載ハ・安〔也〕。隳(キ)ハ・危〔也〕。安(ン)スル所有(レ)ハ・必ス
危キ所有(リ)。人-君ノ有-為ヲ以テ・國ヲ治(ム)ルト身(ヲ)
治(メ)ン与(ト)スルニ可(ナラ)不(ル)コトヲ明ス〔也〕
是(ヲ)-以テ・聖-人ハ・甚ヲ去(ス)〈上〉テ奢ヲ去〈上〉(テ)泰ヲ去
(ツ)
甚ト云ハ・貪-淫声-色ヲ謂(フ)。奢ト云ハ・服-飾飲-食〈去〉
ヲ謂(フ)〔也〕。泰ト云ハ・宮-室臺-榭ヲ謂(フ)。此ノ三ノ-
者ヲ去テ・中-和ニ処〈上〉ソ・無-為ヲ行(フ)トキハ・〔則〕
天-下自(ツカラ)-化(ス)

校異

1 〔無窮・龍門・書陵・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ〕章題無し、〔梅沢〕は「無為第廿九」に、〔武内・東大・東洋〕は「無為章第廿九」に、〔慶Ⅰ・筑波〕は「將欲章第二十九」に、〔天東・慶Ⅱ・弘文〕は「將欲章第廿九」に作る

2 〔道蔵〕此の経文句直下に次経文句有り、即ち「將欲取天下而爲之」と連続一文となす。

3 〔道蔵〕経文両句を連続させたのにともない、此の注文は次の注文の直前に置き、両文頭に各々経文句を配す、即ち経文「將欲取天下而爲之」下の注を「將欲取天下欲爲天下主也而爲之欲以有爲泛民」とする

4 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・治要・天理〕「也」字有り

5 「道」字下、〔無窮〕「已」字有り

6 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・道蔵・天理〕「也」字有り、尚、〔東活〕の「也」字下旁に「才ナ」の校異書入れ有り

7 〔龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・六地〕「也」字無し

8 〔武内・東大・斯Ⅱ・東洋〕「也」字無し

9 〔斯Ⅱ〕「神物」二字無し

10 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・治要・天理〕は「也」字、〔武内〕は「之」字、〔東大・東洋〕は「之也」二字有り

11 〔者〕字下、〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・六地・天理〕「則」

12 字有り
13 「敗」字下、[治要]「則」字有り、但、左旁に見消ちを付す、[梅沢]は「敗」字右旁に「イ失」の校異書入れ有り
14 [宋版・世徳・道蔵]「也」字無し、[東洋]は「者也」二字に作る、尚、[東活]の「也」字下旁に「オナ」の校異書入れ有り
15 [天理]「取」字に作る
16 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・道蔵・治要・天理]は「人」字無し、但、[梅沢]は「之則」字間に「人」字を加筆
17 [道蔵]「其」字無し
18 [陽Ⅰ・龍門・書陵]「情」字無し、[道蔵]は「精」字に、[宋版]は「倩」字に作る
19 「實」字上、[東急]「欲」字有り、但、右旁に見消ちを付す
20 「生」字上、[慶Ⅱ]「是」字有り
21 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・慶Ⅱ・梅沢・東急・天理]「於」字無し
22 [東洋]は「姦」字に、[活Ⅰ・活Ⅱ・宋版・世徳・道蔵・治要・天理]は「詐」字に作る、尚、[東活]の「詐」字左旁に「奸イ」の校異書入れ有り
23 [治要]「譌」字に作る
24 [道蔵]は「也」字無し、[東洋]は「者也」二字に作る、尚、[東活]の「也」字下旁に「オナ」の校異書入れ有り
25 諸本「故」字に作る
26 「行」字下、[道蔵]「之」字有り
27 [道蔵]「也」字無し
28 [無窮・武内・東大・東洋・梅沢]「㕣」字に作る
29 [無窮・武内・東大・東洋・梅沢]「㕣」字に作る
30 [東大]「湿」字に作る
31 [東急]は「也」字無し
32 [東大]「湿」字に作る
33 [道蔵]「也」字無し
34 [慶Ⅱ]「所」字無し
35 [道蔵]「也」字無し
36 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・東大・梅沢・六地・宋版・世徳・道蔵・天理]は「隳」字に、[書陵]は「隳」字に、[武内・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ]は「隳」字に、[慶Ⅰ・大東・東洋・東急・陽Ⅱ]は「墮」字に作る、尚、[書陵]の「隳」字左旁に「隋イ」の校異書入れ有り
37 [活Ⅰ・活Ⅱ・東大・梅沢・宋版・世徳・道蔵・天理]は「隳」字に、[書陵]は「隳」字に、[陽Ⅰ・無窮・武内・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ]は「隳」字に、[慶Ⅰ・大東・東洋]は「墮」字に、[東急]は「墮」字に作り、[龍門]は「隨」字に誤る
38 「危」字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理]「也」字有り
39 [道蔵]「与」字無し
40 [道蔵]「也」字無し
41 「色」字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・治要・天理]「也」字有り
42 [慶Ⅱ]「飯」字に作る
43 [宋版・世徳・道蔵]「也」字無し
44 [無窮]「臺」字無し
45 [活Ⅰ・活Ⅱ]は「謝」字に、[慶Ⅱ]「揲」字に作る
46 「去」字上、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・治要・天理]「也」字有り
47 [武内]「得」字に作る
48 [東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・龍門・東洋・治要]は「无」に作り、[武内]は「天」字に誤る
[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・治要・天理]「也」字有り、[東洋]は「者也」二字有り

訓読文補注

1 「將ニ天ノ下ヲ取(リ)テ而テ爲(オサ)メント欲スルヲ〔之〕」、本文は「將(ニ)欲(スルヲ)下取(テ)天ノ下(ヲ)」と「而(テ)爲(オサメント)上之」の二句に分断し各句下に注を分配す

上47ウ6

儉武第三十

以道佐人主者

謂人主能以道自輔佐也

不以兵強於天下

以道自佐之主不以兵革順天任德敵人自服

其事好還

其舉事好還自責不怨於人也

歸之所処荆棘生焉

農事癈田不修也

大軍之後必有凶年

天應之以惡氣即害五穀〻盡傷人也

善者果而已

行善者當果敢而已不休

不敢以取強焉

不以果敢取強大之名也

果而勿矜

儉ニ武第三十

道ヲ以テ人ニ主ヲ佐クル者ハ〔佐トスル人ニ主ハ〔者〕〕

人ニ主ノ能〈ク〉道ヲ以テ・自(ラ)輔ニ佐スルコトヲ謂(フ)〔也〕

兵ヲ以テ〔於〕天ニ下ニ強カラ不

道ヲ以テ自(ラ)佐クル〔之〕主ハ・兵ニ革ヲ以テセ不・天ニ順

ヒ德ニ任セテ・敵ニ人自(ツカラ)服ス

其ノ事ハ還ルヲ好〈去〉ム

其(ノ)事ヲ舉メ還ルコトヲ好〈去〉ム・自(ラ)責メテ〔於〕人ヲ

怨ミ不〔也〕

歸ノ〔之〕処〈上〉(ル)所ハ・荆棘生(ル)〔焉〕

農ニ事癈レテ・田修マラ不〔也〕

大軍ノ〔之〕後ニハ・必ス凶ニ年有リ

天應〈去〉スルコト〔之〕・惡ニ氣ヲ以(テ)ソ・即(チ)五ニ穀ヲ害

ス・々(穀)ニ盡ルトキハ人ヲ傷ル〔也〕

善ニ者ハ・果ナラン而已ハミナリ

善ヲ行フ者ハ・當ニ果ニ敢ナル而已ハミヲニソ休セ不ル「當」シ

敢テ以テ強ヲ取(ラ)不〔焉〕

果ニ敢ヲ以テ強ニ大ノ〔之〕名ヲ取ラ不〔也〕

果ニソ〔而〕矜ルコト勿(レ)

當果敢謙[41]卑勿[42][43]自矜大也[44]

果而勿伐[45]

當果敢推讓勿自伐取[46][47]甚[48]美[49]也[50]

果而勿驕

驕欺也[51]果敢勿以驕欺人[52][53]

果而不得已

當果[54]敢至誠不當迫[55][56]不得已也[57]

果而勿強

果敢勿以為[58]強兵[59]堅甲[60]以[61]侵[62]陵[63]人也[64][65]

物壯則老[66]

草[67]木壯極則枯落人壯極則衰老也[68]言強者不可以久[69]也[70]

是謂不道[71]

枯老者坐[72]不行道也[73]

當ニ果ニ敢謙ニ卑ニヲ・自(ラ)矜ニ大ナリトスルコト勿(ル)「當」シ〔也〕

果ニヲ〔而〕伐(ト)ルコト勿(レ)

當ニ果ニ敢推ニ讓ニヲ・自(ラ)甚ニ美ヲ伐(リ)(補注2)取ルコト〔伐ニ取(ス)ルコト〕勿ル「當」シ〔也〕

果ニヲ〔而〕驕(アサム)クコト勿(レ)

驕ハ・欺(キ)〔也〕。果ニ敢ニヲ・以テ人ヲ驕キ欺クコト勿(レ)

果ニヲ〔而〕已(ヤ)ムコトヲ得不(レ)

當ニ果ニ敢至ニ誠ナル「當」シ・當ニ已(ム)コトヲ得不(ル)ニ迫ル「當(ヘ)」カラ不〔也〕

果ニヲ〔而〕強(シ)〈平〉フルコト勿(レ)

果ニ敢ニヲ以テ為〈去〉ニ兵ヲ強(ク)シ甲ヲ堅(ク)ヲ・以テ人ヲ侵ニ陵スルコト勿(レ)〔也〕

物壯ナルトキハ〔則〕老(ス)

草ニ木壯ナルコト極(ル)トキハ・〔則〕枯(レ)落(ツ)・人壯ナルコト極(ル)トキハ・〔則〕衰ニ老ス〔也〕。言ハ強キ者(ノ)ハ・以テ久カル可(カラ)不〔也〕

是ヲ不ニ道ト謂(フ)

枯(レ)老ヌルハ〔者〕・道ヲ行ハ不(ルニ)坐(ツミ)セラル〔也〕

不道早亡[74][75]
不行道者早死[76][77]

校異

1 [無窮・龍門・書陵・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ] 章題無し、[武内・東大・東洋] は「儉武章第三十」に、[慶Ⅰ・大東] は「以道佐章第三十」に、[慶Ⅱ・筑波・弘文] は「以道佐人主章第三十」に作る
2 [治要] [者] 字無し
3 [東大・東洋] [能] 字無し
4 [龍門] [陷] 字に作る
5 [筑波] [化] 字に誤る
6 [治要] [也] 字無し、[道蔵] [之矣] 二字に作る
7 [宋版・世徳] [於] 字無し
8 [治要] [以道自佐之主不以兵革] 十字無し
9 [筑波] [韋] 字に作る
10 [斯Ⅱ] [服] 字無し
11 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理] [也] 字有り
12 [大東・道蔵] [也] 字無し
13 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・六地・陽Ⅱ・東急・宋版・世徳・道蔵・治要・天理] は「師」字に、[慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ] は「帥」字に作る、此の本恐らくは伝写の譌
14 [農] 字上、[道蔵] [謂] 字有り
15 [弘文] [而] 字に作る
16 [宋版・世徳・道蔵・治要] [也] 字無し、[梅沢] [也之] 二字に作る、尚、[東洋（青）・東适] は「也」字左旁に「オナ」の校異書入れが有る
17 [武内・東大・東洋] [之] 字無し
18 [慶Ⅱ] [后] に作る、[龍門] [復] に誤る
19 [慶Ⅱ] [奉] 字に作り、[弘文] は「叉」字に作る
20 [道蔵] [殺] 字に作る
21 [筑波] [鬼] 字に作る
22 [道蔵] [傷] 字に作る
23 [穀] 字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理] [五] 字有り、[足利] は「穀々」の字間に「々（五）」を加筆
24 [く（穀）盡傷人]、[治要] 此の四字無し
25 [盡] 字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理] は「則」字、[道蔵] は「即」字が有る
26 [龍門] [傷] 字無し、恐らくは譌脱
27 [東洋] [者也] 二字に作る
28 [善] 字上、[無窮・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・陽Ⅱ・東急・天理] には「故」字が有る、尚、[東洋] の「故」字右旁に「无」と、左旁に青筆で「イナ唐ナ」との書入れが有り、また [東适] にも同意の校記を見る
29 [陽Ⅰ・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・六地] [矣] 字有り、[梅沢] は「已」字下字間に「矣」字を加筆
30 [宋版・世徳・道蔵] は「行」字無し
31 [善] 字下、[宋版・世徳] は「兵」一字、[道蔵] は「用兵」二字有り
32 [道蔵] [果] 字無し
33 [弘文] [体] に作り、[道蔵] は「美」字に作る
34 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・筑波・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・治要・天理] は「也」字、[道蔵] は「之」字、[無窮] は「之也」二字有り
35 [不敢]、[慶Ⅰ・大東] [敢不] に作る
36 [東急] [敢] 字無し
37 [宋版・世徳・道蔵・治要] [焉] 字無し
38 [不] 字下、[武内・東大・東洋・治要] [敢] 字有り、[梅沢] は「不以」字間に挿入符の小圏を施し右旁に「敢」字を加筆

不一道ナルトキハ早ク亡ヌ
道ヲ行ハ不(ル)者ハ・早ク死(ヌ)

39 治要・[也]字無し、[東洋]「者也」二字に作る
40 「勿矜」、[東大]「矜勿」に作る
41 斯Ⅱ・[謹]字に作る、恐らくは譌
42 「勿」字上、[足利]「忽」字有り、但、下傍に見消ちを付す
43 慶Ⅱ・[自]字無し
44 治要・[也]字無し
45 活Ⅱ・[代]字に誤る
46 宋版・[乃]字に作る
47 「取甚美」、治要・此の三字無し
48 諸本「其」字に作る、此の本伝写の譌か
49 龍門・書陵・東大・東洋・梅沢「義」字に作る
50 東急・[也]字無し
51 「也果敢」、治要・此の三字無し
52 筑波・[欺]字無し
53 諸本「也」字に作る、此の本伝写の譌か
54 慶Ⅱ・[果]字無し
55 「當」字下、[道蔵]「偪」字有り
56 此本、旁部分に加墨して「迫」字に訂正、且つ眉上に「迫」字を標記、元の字は或は「追」か、[無窮]「道」字に作る、伝写の譌か
57 書陵・道蔵「也」字無し
58 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理「為」字無し
59 「兵堅甲」、治要・此の三字無し
60 大東「用」字に作り、[無窮]は「牢」字に作る
61 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・慶Ⅱ・東急・天理「以」字無し、但、[慶Ⅱ]は「甲侵」両字間に小圏を施し、右旁に「以」と加筆
62 「侵」字上、[足利]「侵」字有り、但、下傍に見消ちを付す
63 足利は「清」字に作る、但、下傍に見消ちを付し、「陵（或いは淩）」字を加筆、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・慶Ⅱ・筑波・弘文・斯Ⅱ・東洋・東急・宋版・道蔵・治要・天理]は「凌」字に作る、尚、[梅沢]は同字左偏部分に加筆訂正が施されているが「陵」「凌」或いは「凌」か判別できない
64 「人」字上、[東洋]「於」字有り、但、左旁に見消ち（青筆）を付す
65 東洋（青）・東活　は「也」字旁に「才ナ」の校異書入れが有る
66 慶Ⅰ・大東「則」字無し
67 武内・慶Ⅰ・大東「中」字に作る
68 道蔵・[也]字無し
69 宋版・世徳・は「壮」に、[武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・無窮・東洋・梅沢]は「長久」二字に作る、尚、[慶Ⅱ]は「以久」字間に小圏を施し右旁に「長」字を加筆
70 足利・宋版・世徳「也」字無し、[東洋]は「者也」二字に作る
71 東洋（青）・東活　左旁に「非才」の校異書入れ有り
72 世徳「生」字に作る
73 東急・道蔵「也」字無し
74 書陵「杲」字に作る、但、左旁に「早」字加筆（合点付）
75 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・六地・陽Ⅱ・東急・宋版・世徳・道蔵・天理「已」字に作る、但、[足利]は左旁に「亡」の校字有り
76 活Ⅱ「甲」字に誤る
77 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・天理「也」字有り

訓読文補注

1　左旁訓「ハ」「トスル」に墨合点有り
2　別に音合符有り、それに従えば「伐-取（ス）ルコト」の別訓を認める

夫佳[2]兵者[3]不祥之器
祥善[4]也兵者驚精神濁和氣不善人[5]之器也不當修飾之[6]
物或[7]惡之
兵動則有所害故万物无[8]有[9]不惡之[10]
故有道者不処
有[11]道之人不処其國[12]
是[13]以君子居則貴左
貴柔弱也
用兵則貴右
貴剛[14]強[15]也此言兵道与君子[17]道反所貴者[18]異也[19]
兵[20]者不祥之器
兵革[21]者不善[22]人[23]之器也[24]
非君子之器
非[25]君子[26]所貴重[27]器也[28]
不得已[29]而用之[30]

夫〈平〉兵(ヲ)佳(カサ)ル者ハ・不-祥ノ〔之〕器ナリ
祥ハ・善〔也〕。兵ハ_〔者〕・精-神ヲ驚(カ)シ・和-氣ヲ濁(ニコ)ラス・不-善-人ノ〔之〕器ナリ〔也〕。當ニ修メ_飾ル「當(ヘ)」カラ不〔之〕
物惡(ク)〈去〉ムコト或(リ)〔之〕
烏路反
兵_動(ク)トキハ〔則〕害スル所有(リ)。故ニ万-物惡〈去〉ミ不ト云コト有(ル)コト无(シ)〔之〕
故ニ有-道ノ者ハ処(オ)〈上〉ラ不
有-道ノ〔之〕人ハ・其ノ_國ニ処〈上〉ラ不
是(ヲ)_以テ・君-子居(ル)トキハ・〔則〕左ヲ貴フ
柔-弱ヲ貴(フ)〔也〕
兵ヲ用(ヰル)トキハ・〔則〕右ヲ貴フ
剛-強ヲ貴(フ)〔也〕。此ハ言ハ兵ノ_道君-子ノ道与(ト)反ス・貴フ所ノ者異(ノ)ナリ〔也〕
兵ハ_〔者〕・不-祥ノ〔之〕器ナリ
兵-革ハ_〔者〕・不-善-人ノ〔之〕器ナリ〔也〕
君-子ノ〔之〕器ニ非ス
君-子貴-重スル所ノ器ニ非ス〔也〕
已(ム)コトヲ得不ヽ〔而〕用(ヰ)ル〔之〕

謂遭衰逢乱禍欲加万民乃用之以自守[31][32][33][34][35]

恬惔為上[36]

不貪土地利人財寶[37][38][39]

勝而不美[40]

雖得勝而不以為利美也[41][42][43][44]

而美之者是樂殺人[45][46]

美得勝者是為喜樂殺人者也[47][48][49][50][51]

夫樂殺人者則不可以得志於天下矣[52][53][54]

樂殺人此不可使得志於天下為人主必專制人命妄[55][56][57][58][59][60][61]

行刑誅[62][63][64]

吉事上左[65][66]

左生位也[67][68]

凶事上右[69]

陰道殺人[70][71][72]

衰ニ遭ヒ乱ニ逢(ヒ)テ・禍万-民ニ加ラ㆜ト欲(スル)トキハ・

乃(チ)之ヲ用(ヰ)テ以テ自(ラ)-守ルヲ謂(フ)

恬-惔(テンエンタン)ヲ上ト為(ス)

土-地ヲ貪(ムサホ)リ・人ノ財-寶ヲ利トセ不

勝(テ)トモ〔而〕美(ヨ)シトセ不

勝(ツ)コトヲ得タリ雖・〔而〕以テ利-美ト為不〔也〕

而テ美(シト)スルハ〔之者〕・是人ヲ殺スコトヲ樂(ネカフ)〈去・入〉フナリ

勝(ツ)コトヲ得ンコトヲ美(シト)スルハ〔者〕・是人ヲ殺スコトヲ喜ヒ-樂〈去・入〉(フ)コトヲ為ス者(ノ)ナリ〔也〕

夫〈平〉人ヲ殺サンコトヲ樂〈去〉フ者(ノ)ハ・〔則〕以テ志ヲ〔於〕天-下ニ得可(カラ)不〔矣〕

人ヲ殺(サ)ンコトヲ樂〈去〉(フ)ハ・此志ヲ〔於〕天-下ニ得使(ム)可(カラ)不・人-主ト為テ必ス専ラ人ノ-命ヲ制(ヰ)メ・妄リニ刑-誅ヲ行フ

吉-事ヲハ左ヲ上(タフト)フ

左(ハ)・生(ヰ)ノ-位ナリ〔也〕

凶-事ヲハ右ヲ上フ

陰-道ハ・人ヲ殺ス

是以偏將軍處左[73][74]
偏將軍卑而居左者陽者以其不專殺也[75][76][77][78][79][80]

上將軍處右[81]
上將軍尊而居右者以其主殺也[82][83][84][85][86][87][88]

言以喪礼處之[89]
上[90]將軍於[91]右[92]喪礼尚右死人貴隍也[93][94]

殺人之衆[95]哀[96]泣[97]之[98]
傷已德薄不能以道化人[99]而害无辜之民[100][101][102][103][104]

戰勝[105]以喪礼處之
古者戰勝將軍居喪[106]礼之位素服而哭[107]之明君子貴德
而賤兵不得已誅[108]不祥心不樂之比於喪[109][110][111][112]

校異

是ヲ以テ・偏將〈去〉軍ハ・左ニ處〈上〉(ル)
偏將〈去〉軍ハ卑(シク)ヲ・〔而〕左ニ居(ル)コトハ〔者〕・陽ハ〔者〕・其ノ殺ヲ專(ラ)ニセ不(ル)ヲ以テナリ〔也〕

上將〈去〉軍ハ・右ニ處〈上〉(ル)
上將〈去〉軍ハ・尊(ク)ヲ〔而〕右ニ居(ル)コトハ〔者〕・其ノ殺ヲ主(ト)ルヲ以テナリ〔也〕

言(心)ハ喪礼(ヲ)以テ處(コトハ)〈上〉ル〔之〕
上將〈去〉軍ノ右ニ於(ス)ルコトハ・喪礼ハ右ヲ尚フ・死人ハ・陰ヲ貴フ〔也〕

人ヲ殺スコトノ〔之〕衆(イ)トキハ・哀ヒ泣(ナ)ク〔之〕
己(レ)カ德ノ薄(ク)ヲ・道ヲ以テ人ヲ化スルコト能(ハ)不シテ〔而〕辜(ツミ)无(キ)〔之〕民ヲ害スルコ下ヲ傷ム

戰(ヒ)勝(チ)ヌルトキハ・喪礼ヲ以テ處〈上〉(ル)〔之〕
古ノ〔者〕戰(ヒ)勝(チヌル)トキハ・將軍喪礼ノ〔之〕位ニ居テ・素服ヲ〔而〕哭ス〔之〕。君子德ヲ貴(ヒ)テ〔而〕兵ヲ賤(シク)ヲ・已(ム)コトヲ得不ヲ・不祥ヲ誅スレトモ・心ニ樂〈入〉ハ不ヲ〔之〕〔於〕喪ニ比スルコトヲ明ス

1 ［無窮・龍門・書陵・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ］章題無し、

1 [梅沢] は「偃武第卅一」に、[東大] は「偃武章第三十一」に、
[武内・東洋] は「偃武章第卅一」に、[慶Ⅰ・大東・筑波] は「夫
飾章第三十一」に、[弘文] は「夫佳章第卅一」に、[慶Ⅱ] は「夫
2 佳兵章第卅一」に作る
[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大
東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・六地・陽Ⅱ・天
理] 或いは「飾」字に作る、但、[梅沢] は「餝」字に作り右
旁に「佳」字を加筆する、尚、[東洋（青）・東活] は同字左旁に
「佳ㄔ」と、また [東洋] 眉上には「述云飾作佳」の書入れが見え、
同義の書入れは [武内・慶Ⅱ・大東] にも認められる
3 [宋版・世徳] [喜] 字無し
4 [世徳] [人] 字に作る
5 [斯Ⅱ] [人] 字無し
6 [東急・道蔵] [之] 字無し、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・
書陵・東大・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・天理]
は [也] 字に、[慶Ⅰ] は [而] 字に作る
7 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑
波・弘文・足利・斯Ⅱ・六地・陽Ⅱ・東急・天理] [有] 字に作る、
[梅沢] は「或」字に作るが右旁に「有」字を加筆、また [東洋]
は「或」字左旁に見消ちを付し右旁に「有」字を加筆する（共に青
8 筆）
[活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・慶Ⅱ・大東・弘文・足利・武内・梅
沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理] [無] 字に作る
9 [武内] [无] 字に作る
10 [活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶
Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・天理] は [也] 字、[東洋・
11 東急] は [者也] 二字有り
[有] 字上、[無窮・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・
12 足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢] [言] 字有り
[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大
東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・天理] [也] 字有り、
13 [梅沢] は [也之] 二字を書し [之] 字を朱斜線で抹消
[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・梅沢・六地・陽Ⅱ・東
急・宋版・世徳・道蔵・天理] は [是以] 二字無し、[斯Ⅱ] は此
14 の経文句八字及び句下注四字無し、譌脱か
15 [剛強]、[筑波] [強剛] に作る
[慶Ⅱ] [族] 字に作る
16 [梅沢] 右旁に「イ无」の校異記有り
17 [子] 字下、[道蔵] [之] 字有り
18 [武内] [者異] 二字無し
19 [道蔵] [之] に作る、[東大・東洋] は [之也] 二字に作る、但、
[東洋] は [之] 左旁に見消ちを付す（青筆）、[梅沢] は [異] 字
下字間余白に [之] 字を加筆、尚、[東洋（青）・東活] は [也] 字
20 左旁に「オナ」の校異書入れ有り
[兵] 字上、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・武内・慶Ⅰ・大東・
慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・六地・天理] [故] 字有り、
21 [梅沢] は [兵] 字上字間余白に小字 [故] を加筆しその左旁に
「イ无」と付記す
22 [道蔵] [兵革者] 以下注文九字無し
23 [書陵] [事] 字に作る、但、見消ちを付し右旁に [革] 字を加筆
24 [筑波・梅沢・宋版・世徳・治要] [人] 字無し、但、[梅沢] は
25 [善之] 字間に [人] 字を加筆
26 [東急] [也矣] 二字に作る
27 [治要] [非君子] 以下注文八字無し
[子] 字下、[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・
慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・天理] は [之] 字有り
28 [道蔵] [也] 字無し
29 [慶Ⅱ] [而] 字重複、衍
30 [斯Ⅱ] [之] 字無し
31 [宋版・世徳] [逆] 字に作る
32 [大東] [見] に作る
33 [乱禍]、[道蔵] [禍亂] に作る
34 [道蔵] [以] 字無し
35 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘
文・足利・斯Ⅱ・梅沢・治要・天理] は [也] 字、[武内] は [之]
36 字、[東大・東洋] は [之也] 二字有り
[活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘
文・斯Ⅱ・梅沢・六地・陽Ⅱ・東急・天理] は [憺] 字に、[足利・
書陵] は [憺] に、[道蔵] [淡] に作る、但、[梅沢] は左旁
37 に [淡] 字を、[足利] は右旁に [憺] 字を加筆する
[道蔵] 此の経文句下注 [雖得勝不以爲美利] の八字に作る、経
38 文次句下注と同文、譌
[人] 字下、[東洋] [之] 字有り

39 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東大・東洋・東急・天理］は「也」字、［梅沢］は「也之」二字有り

40 ［陽Ⅰ・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・六地］［也］字有り、［梅沢］は「美」字下字間余白に［也］字を加筆、尚、［東洋（青）・東活］に「也才」の校異書入れを認める

41 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・東急・梅沢・道蔵・治要・天理］［而］字無し

42 「利美」、［道蔵］「美利」に作る

43 ［宋版・世徳］「已」字に作る

44 ［梅沢・道蔵・治要］［也］字無し、［東洋］「也矣」二字に作る、但、［矣］字左旁に見消ちを付す、尚、［東洋（青）・東活］は「也」字に「才ナ」の校異書入れ有り

45 ［武内・東大・東洋］「毀」字に作る

46 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・武内・東大・東洋・梅沢・六地・陽Ⅱ・東急・治要・天理］［也］字有り

47 ［世徳］「若」字に作る

48 ［道蔵］「謂」字に作る

49 「喜樂」、［治要］「樂美」に作る

50 ［武内・東大・東洋］「毀」字に作る

51 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・武内・東大・東洋・梅沢・東急・治要・天理］は［者］字無し、［道蔵］は「者也」二字無し

52 ［武内・東大・東洋］［毀］字に作る

53 ［慶Ⅰ・大東・天理］［以］字無し、尚、［慶Ⅰ・大東］「可得」の左旁に「或可字ノ下ニ以字アリ」との書入れ、また、［杏Ⅰ］（佐藤道生氏蔵佐保切断簡）の「以」字左旁には「才无」と校異の書入れが見える

54 ［東洋］「矣」字無し

55 ［樂］字上、［東急・宋版・世徳・道蔵］「爲人君而」四字有り、［治要］は此の注文無く前後経文連続す、尚、［慶Ⅱ］の眉上に「河公楽字上為人君而四字然而本无仍不存之」の書入れを認める、また、［杏Ⅰ］（同上）にも同文の書入れを見るが前半十一字を欠いている

56 ［活Ⅰ］［教］字に誤る

57 「人」字下、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・杏Ⅰ・東洋・梅沢・天理］［者］字有り

58 ［此］字下、［道蔵］［則］字有り

59 ［足利］［側］字に作る

60 ［人命］、［筑波］は「人人」、［道蔵］は「人性命」に作る

61 「妄」字下、［東洋］「不」字有り

62 ［東急］「則」字に作る

63 ［刑誅］、［道蔵］［誅戮］に作る

64 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・杏Ⅰ・梅沢・道蔵・天理］は［也］字有り、［東洋］は「者也」二字有り

65 ［吉］字上、［武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋］［故］字有り、［梅沢］は前注末の余白に「故」字を加筆し朱乎古止点「に」を付す、尚、［杏Ⅰ］（同上）の「吉」字の左旁に「故才ナ」の書入れ有り

66 ［宋版・世徳・道蔵］「尚」字に作る、尚、［杏Ⅰ］（同上）の「上」字左旁に「才尚」と校異の書入れ有り、また［書陵］にも同義の校記を認める

67 弘文「住」字に作る

68 治要［也］字無し

69 ［宋版・世徳・道蔵］［尚］に作る、尚、［杏Ⅰ］（同上）の「上」字左旁に「才尚」と校異の書入れ有り

70 ［武内・東大・東洋］［毀］字に作る、「殺人」、［道蔵］「主殺」に作る

71 治要「人」字無し

72 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・杏Ⅰ・治要・天理］は［也］一字、［梅沢］は「之也」、［東洋］は「者也」二字有り、尚、［杏Ⅰ］（同上）の「也」字左旁に「中ナ」と、また［東活］字旁に「才ナ」と校異の書入れ有り、［慶Ⅱ］は「也」字下、「是以」小字二字衍

73 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・杏Ⅰ・東洋・梅沢・六地・陽Ⅱ・東急・宋版・世徳・道蔵・治要・天理］［是以］二字無し、但、［梅沢］は「偏」字上字間に挿入符の小圏を施し右旁に「是以（乎古止点「て」付）二字を加筆、尚、［杏Ⅰ］（同上）の「偏」字左旁に「是以才ナ」の書入れ有り

74 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅱ・筑

上51オ4　聖德第三十二[1]

道常無名[2]

波・弘文・足利・斯Ⅱ・杏Ⅰ・東洋・梅沢・六地・陽Ⅱ・宋版・世
德・天理「居」字に作る、尚、「杏Ⅰ」（同上）の「居」字左旁に
「處述乍」の書入れ有り
75 宋版・世德・道藏・治要「左者」二字無し
76 「陽者」、活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・
慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・
天理　此の二字無し
77 道藏「位」字に作る
78 道藏「以其」以下注文六字無し
79 武内・東大・東洋「敔」字に作る
80 慶Ⅱ・筑波「也」字無し
81 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大
東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・六地・陽Ⅱ・宋
版・世德・天理「居」字に作る
82 筑波「專」字に誤る
83 治要「而」字無し
84 「者」、治要　此の字無し、道藏　は「位」字に作る
85 宋版・世德「言」字に作る、「以其主殺也」、東急「主其殺也」
に作る
86 治要「主」字無し
87 武内・東大・東洋「敔」字に作る
88 道藏　は「矣」字に、東洋　は「也矣」二字に作る
89 梅沢「書入れ、右旁に「述无」と
90 「上將軍於右」、治要　此の注文五字無し
91 道藏「居」字に作る
92 「右」字下、道藏「主喪禮」の三字有り
93 活Ⅰ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶
Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・治要・天理
「上」字に作る、活Ⅱ　は譌脱

94 「死人貴陰也」、治要　此の注文五字無し
95 東大「敔」字に作る、「殺人之」、治要「殺之人」に作る
96 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅱ・筑波・慶Ⅰ・大
東・弘文・足利・斯Ⅱ・六地・天理「之」字無し
97 「衆」字下、筑波・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・武内・道藏
「多」字有り、梅沢　は「衆」下の字間に「多」字を加筆
98 「哀」字上、諸本「以悲」二字有り
99 「足利」「位」字に誤る、但、見消ちを付し、眉上に「泣」字を加
筆（本文とは別筆の如し）
100 龍門・道藏「民」字に作る
101 活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東
急・世德・道藏・天理「無」字に作る
102 陽Ⅰ・東大「事」字に作る
103 治要「臣」に作る
104 活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・東大・大東・弘文・足
利・斯Ⅱ・武内・慶Ⅰ・慶Ⅱ・筑波・東洋・梅沢・東急・天理
「也」字有り
105 「勝」字下、慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・陽Ⅱ・
道藏・治要　は「則」字、「無窮」は「利」字有り
106 「喪礼」、活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・
筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・治要・天理　は「喪主」に、「宋
版・世德・道藏　は「喪主禮」に作る
107 筑波「器」字に誤る
108 「誅」字上、道藏「而」字有り
109 「祥」字下、道藏「也」字有り
110 陽Ⅰ「於」字無し
111 「喪」字下、諸本「也」字有り
112 「宋版・世德・道藏「知後世用兵不已故悲而痛之矣」の一文有り、
但、「宋版・世德」は「而」「矣」の両字無し

聖-德第三十二

道ハ常ニ名無(シ)

道能隂能陽能弛能張能存能亡故无常名也

朴雖小天下不敢臣

道朴雖小微妙无形天下不敢有臣使道者也

侯王若能守之萬物將自賓

侯王若能守道无為万物將自賓服從於德化也

天地相合以降甘露

侯王動作能与天地相應合則下甘露善瑞也

民莫之令而自均

天降善瑞則万物莫有教令之者皆自均調若一也

始制有名

始道也有名万物也道无名能制於有名无形能制於

有形也

道ハ・能(ク)_隂能(ク)_陽ニメ・能(ク)_弛(ハツ)シ能(ク)_張(レ

リ)・能(ク)_存(シ)能(ク)_亡(ユルヘ)ス・故ニ常ノ_名无(シ)〔也〕

朴〈入〉小ナリト雖・天-下・敢テ臣トセ不

道-朴〈入〉小ナリト雖・微-妙ニメ形无(シ)。天-下・敢テ道

ヲ臣トシ_使フ者(ノ)有(ラ)不〔也〕

侯-王・若(シ)能(ク)守ラハ〔之〕・萬-物・將ニ自(ツカラ)賓(ヿ)タ

ラント「將(ス)」

侯王・若(シ)能(ク)道ノ无-為ヲ守ラハ・万-物・將ニ自(ツ

カラ)賓-服メ・〔於〕德-化ニ從(ハ)ント「將(ス)」〔也〕

天-地相_合(フ)テ・以(テ)甘-露ヲ降(ス)

侯王動-作スルコト・能(ク)天-地与(ト)・相_應〈去〉-合スルトキ

ハ・〔則〕甘-露ノ善-瑞ヲ下〈去〉ス〔也〕

民・〔之〕令(ヿ)スルコト莫(ケレ)トモ・〔而〕自(ツカラ)均(ヒト)シカラン

トス

天善-瑞ヲ降ストキハ・〔則〕万-物教-令スル〔之〕者(ノ)有(ル)コ

ト莫(ケレ)トモ・皆自(ツカラ)均-調ニメ一ノ若(シ)ケン〔也〕

始(ミチ)ハ有-名ヲ制(ヿ)ス

始ハ・道〔也〕。有-名ハ・万-物ナリ〔也〕。道ハ・名无(ク)シ

テ・能(ク)〔於〕有-名ヲ制(ヿ)ス・无-形ハ・能(ク)〔於〕有-形ヲ

名亦既有
既盡也有名之物盡[43]有情欲叛[44]道離德故身毀辱也[45]
天亦將知之
人能法[46]道行德天亦將自知之[47]
知之所以不殆
天知之則神霊祐助[48]不復危殆[49]
譬道之在天下猶[50]川谷之與[51]江海[52]
譬言道之在天下与人相應和如川谷与江海流相通也[53]

制ス[也]
名アルハ亦既クニ有(リ)
既ハ・盡[也]。有ノ[之]物・盡クニ情欲有(リ)・道ヲ叛キ德ヲ離〈去〉ル・故ニ身毀辱セラル[也]
天・亦將ニ知(ラ)ント「將」[之]
人・能(ク)道ニ法(リ)テ德ヲ行(フトキ)ハ・天・亦將ニ自(ツカラ)知(ラン)ト「將」[之]
知(リ)ヌルトキハ[之]・殆カラ不(ル)所以ナリ
天知(リヌル)トキハ[之]・[則]神霊祐(ケ)助(ケ)テ・復〈去〉危殆ナラ不
譬ヘハ道ノ[之]天下ニ在ル。猶川谷ト[之]江海與ノ「猶」シ
譬ヘハ道ノ[之]天下ニ在(リ)テ・人与相應〈去〉和スルコト・川谷ト江海与ノ・流レテ相通スルカ如キノコトヲ言(フ)[也]

校異

1 [無窮・龍門・書陵・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ]章題無し、[梅沢]は「聖德第卅二」に、[東大]は「聖德章三十二」に、[武内・東洋]は「聖德章第卅二」に、[慶Ⅰ]は「道常章第三十二」に、[天東]は「道常章第卅二」に、[筑波]は「道常無名章第三十二」に、[慶Ⅱ・弘文]は「道常無名章第卅二」に作る
2 [武内・東大・六地]「无」字に作る
3 [武内・弘文・宋版]「施」字に作る
4 「能張能存」、此四字、[足利]次経文句の上に大字にて書写
5 [足利]「已」字に作る
6 [活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世德・道蔵・天理]「無」字に作る
7 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・東急・道蔵・天理]「樸」字に作る
8 [龍門]「不」字無し、誤脱か

9 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・東大・筑波・東急・道蔵・天理］は［樸］字に作る
10 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・大東・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理］［無］字に作る
11 ［道蔵］［天］字無し
12 ［大東］［伎］字に作る、伝写の譌か
13 ［道蔵］［也］字無し
14 ［慶Ⅰ・大東］［之］字無し、但、［大東］は「守万」の字間に挿入符の小圏を施し、右旁に「之」字を加筆
15 ［道无為］、［道蔵］此の三字無し
16 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・世徳・天理］［無］字に作る
17 ［宋版・世徳］［化］字無し
18 ［弘文・道蔵］［也］字無し、［東洋］［者也］、［梅沢］［也之］の二字に作る、但、［之］字に抹消符朱線を施す
19 ［宋版・世徳］［地］字無し
20 ［道蔵］［應］字無し
21 ［合］字下、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世徳・天理］［天］字有り
22 ［宋版・世徳］［即］字に作る
23 ［道蔵］［天降］二字に作る
24 ［露］字下、［武内・東洋］［之］字有り
25 ［足利］［也］字無し、［慶陵］は［之］字に作る
26 ［梅沢・陽Ⅱ］［人］字に作る、［梅沢］は右旁に校異「民イ」の書入れ有り、尚、［東活］書入れに「述乍人」と
27 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・陽Ⅱ・東急・天理］［焉］字有り
28 ［降］字下、［道蔵］［甘露］二字有り
29 ［足利］［殺］字に誤る、但、右旁に「教」字を加筆（朱カ）し訂正さる
30 ［者］字下、［道蔵］［而］字有り
31 ［足利］［坩］に作り、下旁に「キン」と字音を付し、右上旁に［均］字を加筆する
32 ［道蔵］［如］字に作る
33 ［道蔵］［也］字無し
34 ［龍門］［有］字無し
35 ［道蔵］［也］字無し
36 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理］［無］字に作る
37 ［武内・東大・東洋・無窮・梅沢・東急］「於」字無し
38 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理］は［無］字に作る
39 ［東急］［能］字無し
40 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅱ・筑波・弘文・慶Ⅰ・大東・足利・斯Ⅱ・武内・東大・東洋・梅沢・東急・天理］［於］字無し
41 ［慶Ⅰ・大東・龍門］［刑］字に作る
42 ［道蔵］［也］字無し、［武内・東大・東洋］「之也」二字に作る、［梅沢］は［形也］字間に「之」字を加筆
43 ［慶Ⅱ］［物］字無し
44 ［筑波］［益］字に作る
45 ［慶Ⅱ］［類］字に作る
46 ［東洋・道蔵］［也］字無し
47 ［宋版・世徳］［去］字に作る
48 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・龍門・書陵・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・天理］は「之也」の二字に、［東洋］は［之者也］三字に作る、［梅沢］は［也］字に作り、直上の字間に［之］字を加筆する
49 ［道蔵］［明］字に作る
50 ［助］字下、［慶Ⅰ・大東・筑波・足利・斯Ⅱ・東急］は［則］字有り
51 ［東大］［下］字に作る
52 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・杏Ⅰ・慶Ⅱ・弘文・慶Ⅰ・大東・筑波・足利・斯Ⅱ・天理］は［也］字、［東急］は［之也］二字有り
53 ［杏Ⅰ］書入れ［述无］と
54 ［梅沢・陽Ⅱ・東急］［之］字無し
55 ［杏Ⅰ（青）・東活］書入れ［由ヵ］と
56 ［梅沢・陽Ⅱ］［之］字無し
57 ［與］字下、［弘文］［於］字有り、尚、［杏Ⅰ・東洋（青）］書入れ［於ヵ］と
58 ［江海］、［東大］［海江］に作る

59 〔陽Ⅰ・龍門・書陵・武内・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・六地〕「也」字有り、尚、〔杏Ⅰ・東活〕書入れ「也才」と
60 〔世徳〕「譬」字無し、〔大東〕は「辟」字に、〔宋版〕は「言」字に作る
61 〔武内・道蔵〕「言」字無し
62 〔東急・道蔵〕「之」字無し
63 〔谷〕字下、〔活Ⅱ・無窮・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・天理〕「之」字有り、尚、〔杏Ⅰ〕書入れ「中ナ」と「海」字下、〔道蔵〕「之」字有り
64 〔東急〕「流」字無し
65 「流相」〔宋版・世徳・道蔵〕「相流」に作る
66 〔足利・道蔵〕「也」字無し、〔梅沢〕「之也」二字に作り、「之」字を朱斜線で抹消する
67

上52ウ2

辯德三十三[1]

知人者智[2]

能知人好惡是智[3][4]

自知者明

人能自知賢与不肖是為反聽无声内視无形故為明[5][6][7][8][9][10][11][12]

勝人者有力

能勝人者不過以威力也[13][14][15]

自勝者強

人能自勝已情欲則天下无有能与已争者故為強[16][17][18][19][20]

知足者富

人能知足之則長保福禄故為富也[21][22][23][24][25]

辯-德三十三

人ヲ知(ル)ハ〔者〕・智ナリ

能(ク)人ノ好〈去〉-悪〈去〉ヲ知(ル)ハ・是智ナリ

自(ラ)-知(ル)ハ〔者〕・明ナリ

人能(ク)自(ラ)賢ト不-肖与ヲ知(ル)・是ヲ反(シ)テ无-声ヲ聽(キ)・内ニ无-形ヲ視(ル)コトヲ為ス。故ニ明ト為

人ニ勝ツ者ハ・有-力ナリ

能(ク)人ニ勝(ツ)者ハ・威-力ヲ以(テ)スルニ過(キ)不〔也〕

自(ラ)-勝ツ〔補注2〕者ハ・強セリ

人能(ク)自(ラ)己カ情-欲ニ勝(ツ)トキハ・〔則〕天-下・能(ク)己与争(フ)者有(ル)コト无(シ)・故ニ強ト為

足レルコト(ヲ)知ル〔補注3〕者ハ・富ナリ

人能(ク)足(レル)コトヲ知(リ)ヌル卜キ八〔之〕・〔則〕長ク

強行者有志[26]
人能強力行善則為有意於道〈亦有意於人也[27][28][29][30][31][32]
不失其所者久
人能自茹養不失其所受天之精氣則可以長久[33][34][35][36][37]
死而不亡者壽[38]
目不妄視耳不妄聽口不妄語則无怨惡於天下故長
壽[39][40][41][42][43][44]

福=禄ヲ保ツ・故ニ冨ト為〔也〕
強(ツト)メテ行(フ)(補注4)_者ハ・志有(リ)
人能(ク)強〈上〉(メ)_力(メ)テ善ヲ行(フ)トキハ・〔則〕〔於〕
道ニ意有(リ)ト為・々(道)亦〔於〕人ニ意有(リ)〔也〕
其ノ_所ヲ失(ハ)不(ル)トキハ〔者〕・久シ
人能(ク)自(ラ)節=養ノ・其ノ天ニ受(ク)ル所ノ〔之〕精=氣ヲ
失(ハ)不(ル)トキハ・〔則〕以テ長=久ナル可(シ)
死スルマテニ〔而〕亡ナラ不ル(補注5)者ハ・壽ナリ
目妄リニ_視不。耳妄リニ_聽(カ)不。口妄リニ_語ラ不。〔則〕
〔於〕天=下ニ怨=惡〈去〉无(シ)。故ニ長=壽ナリ

校異

1 ［無窮・龍門・書陵・足利・斯Ⅱ・杏Ⅰ・東急・六地・陽Ⅱ］章題無し、［宋版・世徳・道蔵］は［辯徳第三十三］に、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・天理］は［辨徳第三十三］に、［梅沢］は［辨徳弟卅三］に、［東大］は［辨徳章第三十三］に、［武内・東洋］は［辨徳章第卅三］に、［慶Ⅰ］は［知人章第三十三］に、［天東］は［知人章第卅三］に、［慶Ⅱ］は［知人智章第卅三］に、［弘文］は［知人者章第卅三］に、［筑波］は［知人者智章第三十三］に作る

2 ［書陵］書入れ「知イ」と、また［梅沢］は字下字間に挿入符の小圏を施し、右旁に「可レ尋?」を加筆

3 ［是］字下、［宋版・世徳］「爲」字有り

4 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・天理］「也」字有り、尚、同字傍書入れに［杏Ⅰ］は「中ナ」、［東洋］（青）・東活］は「才ナ」とある

5 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世徳・治要・杏Ⅰ・天理］「与」字無し

6 ［道蔵］「謂」字に作る、「為」字下、［慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波］「智」字有り

7 ［東洋・書陵］は「外」字に、［弘文］は「外反」に、［足利］は「反外」に作る

8 ［弘文］「听」字に作る

9 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・杏Ⅰ・天理］「無」字に作る

10 ［東急］「視」字無し

11 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・大東・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・杏Ⅰ・天理］「無」字に作る

12 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・道蔵・治要・杏

13 Ⅰ・天理」は「也」一字、「東洋」は「者也」二字有り
14 「道蔵」「有」字に作る
「活Ⅱ・天理」「威」字無し、「活Ⅰ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・杏Ⅰ」「盛」字に作る、但、「杏Ⅰ・書陵・東活」の左旁に「威」本」「威イ」「威本」の書入れが有る、また「東洋」「威」字左旁には「一本／盛」（青筆）とある
15 「筑波」「道蔵」「也」字無し
16 「道蔵」「除去」二字に作る
17 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・大東・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・杏Ⅰ・天理」「無」字に作る
18 「道蔵」「已」字無し
19 「道蔵」「為」字無し
20 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急・道蔵・治要・天理」「也」字有り、「梅沢」は「也矣也」の三字有り、尚、「杏Ⅰ」書入れに「也中ナ」と、「東洋（青）・東活」の「也」字傍には「才ナ」とある
21 「治要」「足」字無し
22 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅱ・筑波・斯Ⅱ・梅沢・東急・道蔵・杏Ⅰ・天理」「之」字無し
23 「則」字上、「慶Ⅰ・大東・弘文・足利・宋版・世徳・治要」「爲足」二字有り、尚、「慶Ⅱ・大東」の眉上書入れに「之為足三字異本也今案述義不見也」と
24 「治要」「長」字無し
25 「道蔵」「也」字無し、「東洋」「者也」二字に作る
26 「者」字下、「治要」「則」字有り
27 「道蔵」「立」字に作る、「弘文」は「人」に作り見消ちを付し右旁「力」字加筆
28 「斯Ⅱ」は此の字無く空格とす、「道蔵」は「志」字に作る
29 「道亦有意於人也」、「治要」此の七字無し
30 「梅沢」は「亦有」両字の間に「為」字を加筆
31 「道蔵」「志」字に作る
32 「武内・東大・東洋・宋版・世徳・道蔵」「也」字無し、「梅沢」は「之也」二字に作り「之」字を朱線で抹消
33 「東大」「其」字無し
34 「道蔵」「愛」字に作る
35 「受天之精氣」「治要」此の五字無し
36 「宋版・世徳・道蔵・治要」「長」字無し
37 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・治要・天理」「也」字有り
38 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・陽Ⅱ・東急・杏Ⅰ・天理」「妄」字に作る、尚、「杏Ⅰ」の眉上に「才述同／亡」の校異書入れ有り
39 「陽Ⅰ」は「日」に、「斯Ⅱ」は「自」字に誤る
40 「弘文」は「听」字に作る
41 「東急・宋版・世徳・道蔵」「言」字に作る
42 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・世徳・道蔵・杏雨・天理」「無」字に作る
43 「故」字下、「道蔵」「得」字有り
44 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・梅沢・東急・治要・杏Ⅰ・道蔵・天理」「也」字有り、「斯Ⅱ」は「也矣」、「東洋」は「者也」二字に作り「者」に見消ち（青筆）を付す、尚、「也」字旁に「杏Ⅰ」は「中ナ」、「東洋（青）・東活」は「才ナ」の書入れ有り

訓読文補注

1 「勝ツ者（ツ）ハ」、送り仮名「ツ」は、もと「ハ」の上に重書き、「ノハ」はそれに応じての後筆
2 「勝ツ者（ツ）ハ」、送り仮名「ツ」は、もと「ハ」の上に重書き、「ノハ」はそれに応じての後筆
3 「知ル者（ツ）ハ」、送り仮名「ル」は、もと「ハ」の上に重書き、「ノハ」はそれに応じての後筆
4 「行者（ツ）ハ」、もと「行」に送り仮名「ハ」を付す、それを擦り消し、「ノハ」を加筆
5 「不ル者（ツ）ハ」、送り仮名「ル」は、もと「ハ」の上に重書き、「ノハ」はそれに応じての後筆

上53ウ1　任成第三十四

道汜兮

言道汜若沈若浮若有若无視之不見説之難殊

其可左右

道可左可右无所不宜

萬物恃之而生

恃待也万物皆待道而生

而不辭

道不辞謝而逆止也

功成不名有

有道不名其有功也

愛養萬物而不爲主

道雖愛養万物不如人主有所収取

常無欲可名於小

道匿德蔵名怕然无為似若微小者也

任成第三十四

道ハ汜(ハン)トヽ〔兮〕

言ハ道ノ汜(六泛)タルコト・沈メルカ若(ク)浮ヘルカ若(ク)・有(ル)カ若(ク)无(キカ)若シ・視(レ)トモ〔之〕見(ヘ)不説〈去〉(ク)コト(トモ)〔之〕殊ニシ難シ

其(レ)左-右ニス可(シ)

道ハ・左ニス可(シ)右ニス可(シ)・宜(シ)カラ不ト云所无(シ)

萬-物・之ヲ恃(マ)チテ而(シ)テ生ス

恃(シ)ハ・待〔也〕。万-物・皆道ヲ待(チ)テ而(シテ)生〔ス〕

而(シテ)辭セ不

道ハ辞-謝セ不ヽ・〔而〕逆(ケキ)-止ス〔也〕

功-成(リ)テ・有(ナ)〔ニ〕名ツケ不

有-道・其ノ有-功ニ名(ツ)ケ不〔也〕

萬-物ヲ愛-養ヽ・而(シテ)主ト爲不

道ハ・万-物ヲ愛-養スト雖・人-主ノ・収メ-取(ル)所有(ル)カ如(ク)ニ(アラ)不

常ニ無-欲ニヽ・〔於〕小ニ名(ツ)ク可(シ)

道ハ・德ヲ匿シ名ヲ蔵ヽ・怕-然トヽ无-為ナリ。微-小ナル

萬物歸焉[45][46]而不為主

万物皆歸道受氣道非如人主有所禁止也[47][48][49][50][51][52]

可名為大[53][54]

万物横来横去使各自在故可名於大也[55][56][57][58]

是以聖人終不為大

聖人法道匿德藏名不為蒲大[59][60]

故能成其大[61][62]

聖人以身師道導不言而化万事修治故成其大[63][64][65][66][67][68]

者ノ若キニ似(タリ)〔也〕

萬-物歸(レトモ)ス〔焉〕・而ノ主ト為不

万-物・皆道ニ歸ノ氣ヲ受(ク)・道ハ人-主ノ禁-止スル所有(ル)カ如(ク)ニ非ス〔也〕

名(ツ)ケテ大ト為可(シ)

万-物・横ニ_来リ横ニ_去(リ)テ・各ヲノ(使)自-在ナラ〔使〕ム。故ニ〔於〕大ニ名(ツ)ク可(シ)〔也〕

是ヲ_以テ・聖-人ハ・終ニ大ヲ為不

聖-人ハ・道ニ法(ノト)リテ・德ヲ匿シ名ヲ藏ノ・滿(チテ)_大ナリト為不

故ニ能(ク)其ノ大ヲ成ス

聖-人ハ・身ヲ以テ師トシ_道〈上・去〉(補注1)導ク。言(ハ)不ノ〔而〕化ス。万-事修(マ)リ_治〈去〉(マ)ル・故ニ其ノ_大ヲ成ス

校異

1 〔無窮・龍門・書陵・足利・斯Ⅱ・東急・杏Ⅰ・六地・陽Ⅱ〕章題無し、〔梅沢〕は〔任成第卅四〕に、〔東大〕は〔任成章第三十四〕に、〔武内・東洋〕は〔任成章第卅四〕に、〔大東〕は〔大道章第卅四〕に、〔慶Ⅰ〕は〔大道氾章第三十四〕に、〔慶Ⅱ〕は〔大道氾章第卅四〕に、〔筑波〕は〔大道氾章第卅四〕作る、〔弘文〕は〔大道汎章第卅四〕作る

2 〔道〕字上、〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・杏Ⅰ・六地・陽Ⅱ・宋版・世德・道蔵・天理〕「大」字有り

3 〔弘文・道蔵〕「汎」字に作る、尚、〔慶Ⅱ〕眉上に「汜陸本作汎」と、〔東洋〕眉上に「陸本汜作派」との書入れ有り

4 〔東洋〕小字右寄せに書写、但その右旁に「大字」と書入れ（青筆）有り

5 〔道〕字上、〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・天理〕「大」字有り

6 〔活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶

Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・宋版・世徳・天理」は「汜汜」に、「道蔵」は「汎汎」に作る、尚、「梅沢」は「々（氾）若」字間に「者」字を加筆

7 「若沈若浮」、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・宋版・世徳・天理」「若浮若沈」に作る

8 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・宋版・世徳・道蔵・天理」「無」字に作る

9 「道蔵」は「有」字に作る

10 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・天理」「也」字有り、尚、「杏Ⅰ」の「也」字右旁に「中ナ」の書入れ有り

11 「宋版・世徳」「可」字無し

12 「右」字下、「慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ」「而」字有り

13 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・世徳・道蔵・天理」「無」字に作る

14 「書陵・弘文」「宣」字に作る

15 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・天理」「也」字有り、尚、「東洋（青）・東活」の「也」字旁に「才ナ」の書入れ有り

16 「筑波」は「特」、「陽Ⅱ」は「持」字に作る

17 「梅沢」「以」字に作る

18 「慶Ⅱ・筑波」「特」字に、「弘文・斯Ⅱ」は「得」字に作る

19 「宋版・世徳」は「恃」字に作る

20 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・東急・天理」は「也」字、「杏Ⅰ」は「焉」字、「東洋」は「者也」、「梅沢」は「之也」の二字有り、但、「東洋」「者」字左旁には見消ち（青筆）有り

21 「謝」字下、「無窮」「功」字有り

22 「梅沢・東急」「而」字無し、但、「梅沢」は「謝」字下の字間に「而」字を加筆、また、「逆」字上の字間に「不」字を加える

23 「道蔵」「逆」字無し

24 「龍門」「上」字に作る

25 「道蔵」「也」字無し、「慶Ⅱ」は「之」字に、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・天理」は「之也」二字に作る、尚、「東洋」は「止也」両字の間に挿入符の小圏を施し、右旁に「之」字を加筆（青筆）

26 「成」字下、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・陽Ⅱ・東急・杏Ⅰ・大東・慶Ⅱ・道蔵・天理」「而」字有り、尚、「杏Ⅰ」「而」字左旁に「才无」の書入れ有り

27 「名有」、「杏Ⅰ」眉上に「名有才作居」の校異書入れ有り

28 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・天理」は「有」字無し

29 「其有」、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・慶Ⅱ・足利・斯Ⅱ・東洋・梅沢・東急・杏Ⅰ・天理」「有其」に作る

30 「筑波・慶Ⅱ・道蔵」「也」字無し、「梅沢」は「也之」、「東洋」は「者也」に作る、但、「梅沢」「之」字は朱斜線を施し抹消され、「東洋」「者」字は左旁に見消ち（青筆）を付す、尚、「東洋（青）・東活」は「也」字旁に「才ナ」の書入れ有り

31 「書陵・龍門・慶Ⅱ・筑波」「而」字無し

32 「如」字下、「無窮」「常」字有り

33 「人主」、「天理」「主人」に作る

34 「宋版・世徳」「放」字に作る

35 「陽Ⅰ・慶Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・大東・慶Ⅱ・弘文・斯Ⅱ・東洋・東急」「聚」字に、「梅沢」は「集」字に作る、尚、「杏Ⅰ」「取」字左旁に「集中本乍聚」、眉上に「本乍聚」と、また、「梅沢」「集」字左旁に「聚ィ」との書入れ有り

36 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・斯Ⅱ・筑波・足利・東急・杏Ⅰ・天理」「也」字有り

37 「陽Ⅰ・龍門・東大・慶Ⅰ・大東・六地・陽Ⅱ」「无」字に作る

38 「小」字下、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・陽Ⅱ・東急・杏Ⅰ・道蔵・天理」は「矣」字有り

39 「道」字上、「慶Ⅱ」「怕然静形」四字有り

40 「道蔵」「跡」字に作る

41 「東急」は「泊」字に、「宋版・世徳」は「恒」字に作る

42 「活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・宋版・世徳・道蔵・天理」「無」字に作る

43 「筑波・梅沢」「少」字に作る

44 「道蔵」は「者也」二字、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・

武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・宋版・世徳・天理 は「者」一字無し、尚、[杏Ⅰ]「也」字上の字間余白に朱小圏を付し左旁に「者（左に小字注記あるも判読出来ず、或は「才ナ」か）」、字左旁に「中ナ」と、また [東洋（青）・東活 の「也」左旁に「才ナ」と校異の書入れが有る

45 [無窮・大東・筑波・慶Ⅱ・天理「皈」字に作る

46 [焉而]、[慶Ⅱ]「而焉」に作る

47 [武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・天理「皈」字に作る

48 [弘文・斯Ⅱ・龍門]「愛」字に作る、尚、[杏Ⅰ]「受」字の右旁に「中」、左旁に「愛」と校異の書入れが有る

49 [氣]字下、[道蔵]「也」字有り

50 [慶Ⅱ]「人主」二字無し、但、「如有」の間右旁に此の二字を加筆し訂正

51 [陽Ⅰ・龍門・書陵・武内・東洋・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ] は「主」一字無し、但、[大東] は「人有」の間に挿入符の小圏を施し左旁に「主」字を加筆する、尚、[杏Ⅰ]「主」字左旁に「本无」の書入れ有り

52 [道蔵]「也」字無し

53 [道蔵]「於」字に作る

54 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・杏Ⅰ・六地・陽Ⅱ・道蔵・天理「矣」字有り

55 [使各]、[道蔵]「各使」に作る

56 [龍門・書陵・大東・東洋・筑波・斯Ⅱ・宋版「名」字に作る

57 [可名]、[宋版・世徳「不若」に作る

58 [弘文]「也」字無し、尚、[杏Ⅰ] 左旁に「中ナ」、[東洋（青）・東活 の同字旁に「才ナ」の校異書入れ有り

59 [為]字下、[無窮]「自」字有り

60 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理 は「也」、[東洋] は「者也」二字有り、但「者」字左旁に見消ち（青筆）有り

61 [其]、此の本本行に脱、字間に挿入符の小圏を施し右旁に補筆する

62 [龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・六地]「也」字有り、尚、[梅沢] は「大」字下の字間余白に「者」字を加筆する

63 [慶Ⅰ・大東] は「帥」、[無窮] は「皈」、[道蔵] は「率」字に作る

64 [道]、此本、字に重ねて墨点を加える（抹消符、或いは見消ちか）

65 [道蔵]「道」字に作る

66 [梅沢] は本行に脱し「言化」の字間に加筆

67 [故]字下、[宋版・世徳・道蔵]「能」字有り

68 [活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理 は「也」字、[東洋] は「者也」二字有り、但、「者」字左旁に見消ちを付す

訓読文補注

1 去声点は後筆の如し

上54ウ3　仁德第三十五

執大象[2]天下往

執守也象道也聖人守大道則天下万民[3]移心歸[4]往之[5]

仁-德第三十五

大-象ヲ執(マホ)ルトキハ・天-下往(ユ)ク

執ハ・守[也]。象ハ・道[也]。聖-人ハ・大-道ヲ守(ル)トキ

也治身則天降神明往来於已也[6]

往而不害安平太[7]

万物歸往而不傷害則國家安寧而致[8][9][10]太平矣治身不害神明則身安而大壽也[11][12][13][14][15][16]

樂與餌過客止

餌美也過客一也人能樂美於道則一留止也一者去盈而処虚忽〻如過客[17][18][19][20][21][22][23][24][25][26][27]

道之出口淡乎其無味

道出入於口淡〻非如五味有酸鹹甘苦辛也[28][29][30][31][32][33][34][35][36][37]

視之不足見

足得也道无形非若五色有青黄白黒赤可得見也[38][39][40][41]

聽之不足聞

道非若五音有宫商角徵羽可得聽聞也[42][43][44][45]

ハ・〔則〕天-下ノ万-民・心ヲ移ヶ歸-往ス〔之也〕。身ヲ治(ムル)トキハ・〔則〕天神-明ヲ降ヶ・〔於〕已ニ往-来ス〔也〕

往(ユ)クニ〔而〕害(セ)不(ル)トキハ・安-平ニヶ太ナリ

万-物歸-往スルニ・〔而〕傷-害セ不(ル)ト㊀ハ・〔則〕國-家安-寧ニヶ・〔而〕太-平ヲ致ス〔矣〕。身ヲ治(ムル)ニ・神-明ヲ害セ不(ル)トキハ・〔則〕身_安(ニ)ヶ〔而〕大ニ_壽(ナガシ)ナリ〔也〕

樂(カク)〈入(ト)〉ト餌(ヨ)キ與(ト)ニハ・過-客止マル 六缶 而志反

餌ハ・美(ヨ)〔也〕。過-客ハ・一(ト)ナリ〔也〕。人能(ク)〔於〕道ヲ樂〈入〉-美スルトキハ・〔則〕一(ト)留(マリ)_止(マ)ル〔也〕。一ハ_〔者〕・盈ヲ去テ〔而〕虚キニ処レハ・忽-タタルコト・過-客ノ如シ

道ヲ〔之〕口ヨリ出〈去〉ストキニ・淡(ト)ヶ〔乎〕・其レ味無(シ)

道ヲ〔於〕口ヨリ出〈去〉-入スルコト・淡-タトヶ・五-味ノ酸(シハヘユ)ク鹹ク甘ク苦ク辛キコト有(ル)カ如(ク)ニハ非(ス)〔也〕

視(レ)トモ〔之〕・見(ル)コトヲ足(ヌ)不

足ハ・得〔也〕。道ハ形无シ・五-色ノ青黄白黒赤有(ル)カ・見(ル)㊁トヲ得可(キ)カ若(ク)ニハ非ス〔也〕

聽(ケ)トモ〔之〕・聞(ク)コトヲ足不

道ハ・五-音ノ宫商角徵羽有(ルカ)・聽(キ)_聞(ク)コトヲ得

用之不可既
用道治國則國安民昌治身則壽命延長无有既盡時[50]
也

可(キカ)若(ク)ニハ非ス〔也〕
用(ヰレ)トモ〔之〕・既(ツク)ス可(カラ)不
道ヲ用(ヰ)テ國ヲ治(ムル)トキハ・〔則〕國_安ク民_昌ナリ・
身ヲ治(ムル)トキハ・〔則〕壽_命延_長ニソ・既(キ)_盡(ク)
ル時有(ル)コト无(シ)〔也〕

校異

1 ―無窮・龍門・書陵・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ― 章題無し、―梅沢― は「仁德第卅五」に、―東大― は「仁德章第三十五」に、―武内・東洋― は「仁德章第卅五」に、―筑波・慶Ⅰ― は「執大象章第三十五」に、―大東・慶Ⅱ・弘文― は「執大象章第卅五」に作る
2 第三十五―に、―東洋― 「於」 字有り
3 ―世德― 「物」 字に作る
4 ―無窮・武内・東大・東洋・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・斯Ⅱ・天理― 「皈」 字に作る
5 「之也」、―活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・龍門・書陵・無窮・慶Ⅰ・足利・梅沢・武内・東大・東洋・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・斯Ⅱ・天理― は「之」、―道蔵― は「也」一字に作る
6 ―梅沢・道蔵― は「也」字無し、但、―梅沢― は「已」字下字間に「也」字を加筆、―東洋― は「者也」二字に作る
7 ―活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅱ・足利・陽Ⅱ・東急― は「大」字に、―道蔵― は「泰」字に作る
8 ―活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理― 「民」 字に作る
9 ―無窮・武内・東大・東洋・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・天理― は「皈」字に作る
10 「國家安寧」、―宋版・世德― 「國安家寧」 に作る
11 ―活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理― 「致」 字無し
12 ―東大・足利― 「大」 字に作る
13 ―活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・梅沢・天理― 「則」 字無し、但、―梅沢― は「明身」の字間に挿入符の小圏を施し、右旁に「則」字を加筆補入する
14 「身」字下、―活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・道蔵・天理― 「躰」 字有り
15 ―龍門・書陵・武内・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・東急― 「太」 字に作る
16 ―道蔵― は「也」字無し、―東洋― は「矣也」、―梅沢― は「之也」二字に作る
17 ―書陵・武内・慶Ⅱ― 「鉗」 字に作る
18 ―梅沢― 「客」 字左旁に「容イ」の校異書入れ有り
19 ―書陵・武内・慶Ⅱ― 「鉗」 字に作る
20 ―梅沢― 「美」 字右旁に「善イ」の校異書入れ有り
21 ―活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・東大・東洋・天理― 「人」 字無し、尚、―東洋(青)・東活― には「人」字の校異書入れが有る
22 ―斯Ⅱ― 「則」 字無し
23 ―道蔵― 「居」 字に作る
24 「也一」、―足利― 「一也」 に作る
25 ―道蔵― 「処」 字無し
26 ―道蔵― 「處」 字に作る
27 ―活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理― 「也」 字有り

28 ［東洋（青）・東活］「口」字左旁に「言才」の校異書入れ有り
29 「淡」字下、［弘文］畳字「々」有り
30 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・六地・陽Ⅱ・天理］は「兮」字に作る
31 ［龍門・武内・東大・筑波・六地・陽Ⅱ］「无」字に作る
32 ［無味］、［弘文］「味無」に転倒
33 ［道］字下、［道蔵］「止」字有り
34 ［慶Ⅱ］畳字無し、［道蔵］「然」字に作る
35 ［無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急］「醎」字に作る
36 ［甘苦］、［宋版・世徳］「苦甘」に作る
37 ［道蔵］「也」字無し
38 ［宋版］「徳」字に作る
39 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・慶Ⅱ・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理］「無」字に作る
40 「白黒赤」、［武内・東大・慶Ⅱ・宋版・世徳・道蔵］は「赤白黒」に作る
41 ［陽Ⅰ・龍門・慶Ⅱ・弘文・斯Ⅱ］は「之」字に、［活Ⅰ・活Ⅱ・天理］は「之也」二字に作る、尚、［足利］は「也」字に見消ちを付し左旁に「之」字を加筆
42 ［慶Ⅱ］「害」字に誤る
43 ［東大・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波］は「微」字に作る
44 ［道蔵］「而」字に作る
45 ［慶Ⅱ］は「之」字に、［梅沢］は「之矣」二字に作る
46 ［用］字上、［道蔵］は「既盡也謂」四字有り
47 ［道］字下、［武内・慶Ⅰ・大東・弘文・足利・斯Ⅱ］「也」字有り、［梅沢］は「道治」の字間に「也」字を加筆
48 ［國安民昌］、［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・斯Ⅱ・梅沢・道蔵・天理］は「國富民昌」に、［弘文］は「富民国昌」に、［陽Ⅰ・龍門・足利・東急］は「國昌」二字に作る、但、［足利］は「昌」字を塗抹し、右旁に「冨民昌」の三字を加筆補入する
49 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・慶Ⅱ・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世徳・道蔵・天理］「無」字に作る、但、［梅沢］は本行に無く「長有」字間に挿入符の小圏を施し右旁に「無」字を加筆補入する
50 ［盡］字下、［道蔵］「之」字有り

上55ウ4

1 微明第三十六
2 将欲噏之必固張之
3
4 先開張之者欲極其奢淫
5
6
7 将欲弱之必固強之
8
9 先強大之者欲使遇禍患
10
11
12

微-明第三十六

将ニ噏（ヒラ）カント欲（スル）トキハ〔之〕・必ス固ニ張（ハ）ル〔之〕
許及反

先（ツ）開キ_張ルハ〔之者〕・其ノ奢-淫ヲ極メント欲（シ）テナリ

将ニ弱（カラ）シメント欲（スル）トキハ〔之〕・必ス固ニ強クス〔之〕

先（ツ）強-大ニスルハ〔之者〕・禍-患ニ遇（ハ）使メント欲（シ）

將欲廢之必固興之[13][14]
先興之者欲使其驕[15]危[16]也[17]
將欲奪之必固與之
先与之者欲㪅其貪心也[18][19][20]
是謂微明[21]
此四事其道微[22]其効明也
柔弱勝剛強
柔弱者久[23]長剛強者先亡也[24]
魚不可[25]脫於[26]淵
魚脫入於淵為去剛得柔不可復制也[27][28][29]
國之利器不可以示人
利器[30]謂[31]權道也治國權者不可以示[32]執事之臣也治身[33]
道者不可以示非其人也[34]

テナリ
將ニ廢レント欲(スル)トキハ(ステント〔補注1〕)〔之〕・必ス固ニ興(オコ)ス〔之〕
先(ツ)興(ス)ルハ〔之者〕・其(ノ)驕リ_危カラ使(メ)ント欲(シ)
テナリ〔也〕
將ニ奪ハント欲(スル)トキハ〔之〕・必ス固ニ與(アタ)フ〔之〕
先(ツ)与(フ)ルハ〔之者〕・其ノ貪(タン)心ヲ極(メ)ント欲(シテ)
ナリ〔也〕
是ヲ微_明ト謂(フ)
此ノ四_事ハ・其ノ_道微ニシテ・其ノ_効(シルシ)明ナリ〔也〕
柔_弱ハ・剛_強ニ勝(カ)ツ
柔_弱ハ_〔者〕・久(シ)ク_長シ・剛_強_者(ハ)・先(ツ)_亡フ〔也〕
魚ヲ・〔於〕淵ニ脫(ハナ)ツ可(カラ)不
魚ヲ〔於〕淵ニ脫(チ)_入(ルル)トキハ・剛ヲ去テ柔ヲ得(ル)
コトヲ為・復〈去〉制(シ)ス可(カラ)不〔也〕
國ノ〔之〕利_器〈入〉ヲハ以テ人ニ示ス可(カラ)不
利_器ト云ハ・權道ヲ謂(フ)〔也〕。國ヲ治(ム)ル權ヲハ_〔者〕・
以テ執_事ノ〔之〕臣ニ示ス可(カラ)不〔也〕。身ヲ治(ム)ル道
ヲハ_〔者〕・以テ其ノ人ニ非(サ)ルニ示ス可(カラ)不〔也〕

校異

1 ［無窮・龍門・書陵・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ］章題無し、［梅沢］は「微明第卅六」に、［東大］は「微明章第三十六」に、［武内・東洋］は「微明章第卅六」に、［慶Ⅰ］は「將欲章第三十六」に、［慶Ⅱ］は「將欲翕章第卅六」に、［天東］は「將欲章第卅六」に、［筑波］は「將欲嗡之章第三十六」に作る

2 ［無窮・龍門・書陵・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・陽Ⅱ・道蔵・天理］「翕」字に作る、尚、［慶Ⅰ・大東］の眉上に「王作歙顧作嗡陸作喻一本乍給簡文乍歙河上乍翕也」の校異の書入れが有る、［慶Ⅱ］眉上の書入れも此れとほぼ同文

3 ［足利］「悵」字に作る

4 ［道蔵］「者」字無し

5 ［天理］「欲」字無し

6 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・天理］「也」字有り

7 ［宋版・世徳］「使」字に作る

8 ［梅沢］「之」字無し

9 「之者」、［道蔵］は「之」一字、［東洋］は「也之者」三字に作る

10 ［道蔵］「過」字に作る

11 ［筑波］「志」字に誤る、［道蔵］は「害」字に作る

12 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理］「也」字有り

13 ［書陵］は「與」字、［筑波・足利］は「与」字に作る、尚、［書陵］「與」字の左旁に「興イ」の書入れ有り

14 ［梅沢］「之」字無し

15 ［書陵］は「與」字、［足利］は「与」字に作る

16 ［驕危］、［道蔵］は「驕奢至危」四字句に作る

17 ［道蔵］「也」字無し

18 ［弘文］「欲」字無し、譌脱か

19 ［天理］「使」字に作る

20 ［筑波］［道蔵］「也」字無し

21 ［梅沢］「徴」字に作る

22 ［梅沢］「徴」字に作る

23 ［久長］、［天理］「長久」に作る

24 ［道蔵］「也」字無し

25 ［道蔵］「可」字無し

26 ［活Ⅰ・活Ⅱ・天理］「於」字無し

27 ［宋版・世徳・道蔵］「入」字無し

28 ［世徳・道蔵］「謂」字に作る

29 ［東洋］「者也」二字に作る、但、「者」字左旁に見消ちを付す（青筆）

30 「器」字下、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・道蔵・天理］「者」字有り

31 ［宋版・世徳］「謂」字無し

32 ［示］字下、［東大・筑波］「非」字有り

33 「身」字下、［武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ］「之」有り、但、［東洋］は同字左旁に見消ちを付す（青筆）

34 ［東洋］「者也」二字に作る、但「者」字左旁に見消ちを付す（青筆）

訓読文補注

1 「ステント」、墨合点を付す

上56ウ4　爲政第三十七

道常無爲而無不為

爲政第三十七

道ハ常ニ無爲ニシテ・〔而〕為不ト云コト無（シ）

道以无[6]為為常也[7]
侯王若[8]能守[9]萬物將自化
言侯王若能守道万物將自化効於已也[10][11][12]
化而欲作吾將鎮之以無名之朴[13][14]
吾身也[15]無名之朴道也[16][17][18]万物已化効於已也[19][20][21][22]効已復欲
作巧[23]偽[24]者侯王當身[25]鎮撫以道德[26][27][28]
無名之朴亦將不欲不欲以静[29][30]
言侯王鎮撫之以道德民亦將不欲改[31]改[32]當以清浄導[33][34][35][36]
化之也[37]
天下將自正[38]
能如是者天下將自正安定也[39][40][41]

道ハ・无-為ヲ以テ常ト為〔也〕
侯-王・若(シ)能(ク)守(ラ)ハ・萬-物將ニ自(ツカ)ラ_化セン
ト「將ス」
言ハ侯-王・若(シ)能(ク)道ヲ守ラハ・万-物・將ニ自(ツカ
ラ)_化ソ・〔於〕已ニ効ナラハント「將ス」〔也〕
化ソ〔而〕作(サン)ト欲ス・吾將ニ鎮スルニ〔之〕・無-名ノ〔之〕
朴ヲ以(テ)セント「將ス」
吾ハ・身〔也〕。無-名ノ〔之〕朴ハ・道ナリ〔也〕。万-物已ニ_
化ソ・〔於〕已ニ効フ〔也〕。已(ニ)効(ヒ)テ・復〈去〉巧-偽ヲ
作〈去〉(サン)ト欲ス〔者〕・侯-王・當ニ身ヲ鎮-撫スルニ道-
德ヲ以(テス)「當」シ
無-名ノ〔之〕朴〈入〉・亦將ニ欲セ不(ラ)ント「將ス」・欲セ不(ル)
ニ静ヲ以テス
言ハ侯-王・鎮-撫スルニ〔之〕道-德ヲ以(テ)セハ・民亦將ニ
改メンコトヲ欲セ不(ラン)ト「將ス」・改(メ)テ當ニ清-浄ヲ以
テ・導-化ス「當」シ〔之也〕
天-下・將ニ自(ツカラ)_正(シ)カラント「將ス」
能(ク)是ノ如(ク)ナレハ〔者〕・天-下・將ニ自(ツカラ)_正
(シク)ソ安-定ナラント「將ス」〔也〕

老子經道德上[42]

校異

1 ［無窮・龍門・書陵・足利・斯Ⅱ・東急・六地・陽Ⅱ］章題無し、［梅沢］は「爲政第卅七」に、［東大］は「爲政章第三十七」に、［武内・東洋］は「爲政章第卅七」に、［慶Ⅰ］は「道常章第三十七」に、［天東］は「道常章第卅七」に、［弘文］は「道常無章第卅七」に、［慶Ⅱ］は「道常無為章第卅七」に、［筑波］は「道常無為章第三十七」に作る

2 ［東大・慶Ⅰ・六地・陽Ⅱ］「无」字に作る

3 ［宋版・世德］経文句「道常無爲」下に次注「道以無爲爲常也」を配し、以下、経文「而無不爲」と次経文は連続する

4 ［治要］「而」字無し

5 ［陽Ⅰ・武内・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・六地・陽Ⅱ・治要］「无」字に作る

6 ［活Ⅰ・活Ⅱ・無窮・書陵・大東・東洋・弘文・足利・梅沢・東急・宋版・世德・道蔵・天理］「無」字に作る

7 ［弘文・道蔵］「也」字無し

8 ［治要］「而」字に作る

9 ［守］字下、［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・六地・陽Ⅱ・東急・道蔵・治要・天理］は「之」字有り

10 ［活Ⅰ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・弘文・斯Ⅱ・道蔵・治要］「而」字に作る、但、［慶Ⅱ］は［而能］字間に［若］字を加筆、また、［東洋］は［若］字左旁に見消ちを付し右旁に［而］字を加筆（共に青筆）

11 ［陽Ⅰ］は［於］一字、［龍門・書陵］は［於己］二字無し、尚、［東洋］は［於己］両字左旁に見消ちを付す（青筆）

12 ［弘文］「也」字無し

13 ［東大・慶Ⅰ・六地］は「无」字に作る

14 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・東急・道蔵・天理］「樸」字に作る

15 ［東急］「也」字無し

16 ［陽Ⅰ・龍門・武内・東大・慶Ⅰ・筑波］「无」字に作る

17 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・東急・道蔵・天理］「樸」字に作る

18 ［道］字下、［武内・慶Ⅰ・大東・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ］「德」字有り、［慶Ⅱ］は［道也］間の右旁に［德］字を加筆

19 ［宋版・世德・道蔵］「以」字に作る

20 ［慶Ⅱ］「已化」二字無し

21 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理］「於」字無し

22 ［活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理］「也」字無し

23 ［無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・宋版・世德・道蔵］「効己」二字無し

24 ［筑波・足利・龍門・書陵］「功」字に作る、但、［足利］は見消ちを付し下旁に「巧」字を加筆

25 ［侯王］、［無窮・龍門・書陵・武内・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・道蔵］「王侯」に作る

26 ［武内・東大・慶Ⅰ・大東・東急・道蔵］「身」字無し、尚、［梅

老子經道德上

康應二年正月十九日施入之聖山
不可出寺中
本云
丁酉之歳仲夏十八日一見了
丫　弍　判

沢」は「身」字右旁に「イ无」の校異書入れ有り

27 「撫」字下、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・道蔵・天理」「之」字有り

28 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・武内・東大・東洋・慶Ⅰ・大東・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・東急・天理」「也」字有り

29 「六地」「无」字に作る、「大東」此の経文「無名之朴亦將不欲不欲以静」及び注文「言侯王鎮撫之以道德民亦將不欲改改當」までの同本一行分を錯脱

30 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・道蔵・天理」「樸」字に作る

31 「侯王」、「道蔵」「王侯」に作る、尚、「梅沢」の「侯」字右旁に「王◇イ」の書入れを認める、虫損字は「侯」字であろう

32 「徳」字下、「道蔵」「化」字有り

33 「足利」は「攻」、「龍門」は「政」、「書陵・道蔵」は「故」字に作る、但、「足利」は「攻」字に見消ちを付し眉上に「改」字を標記（朱カ）、尚、「東洋」は「改」字左旁に見消ちを付し「政故イ」（青筆）と、また「東活」同字右旁に「故イ」との校異の書入れを見る

34 諸本、此の「改」字無し

35 「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・龍門・書陵・東洋・慶Ⅱ・筑波・弘文・足利・斯Ⅱ・梅沢・宋版・世徳・道蔵・天理」「静」字に作る

36 「無窮・龍門・書陵・筑波・斯Ⅱ・道蔵」「道」字に作る、尚、此本はもと「道」に作り、後に下部に「寸」を加筆、且つ眉上に「導」字と標記する

37 「之也」、「道蔵」は此の二字無し、「無窮・東急」は「之」一字に作る

38 「宋版・世徳」「定」字に作る

39 「梅沢」「自安」字間に「正」字加筆、本文と同筆の如し

40 「宋版・世徳・道蔵」「安」字無し

41 「梅沢」は「也之」二字に作る、但、「之」字に見消ちを付す

42 尾題「老子經道德上」、「活Ⅰ・活Ⅱ・陽Ⅰ・無窮・書陵・龍門・筑波・慶Ⅰ・大東・斯Ⅱ・六地・東急」は「老子道經上」に、「杏Ⅰ・梅沢・陽Ⅱ」は「老子道經」に、「慶Ⅱ」は「老子道經上終」に、「東洋」は「老子道經之終」に、「世徳」は「老子道經卷終」に、「弘文」は「老子經上」に、「足利」は「老子經上終」に、「東大」は「老子經卷之上」に、「武内」は「老子道德經卷上」に、「宋版」は「河上公老子道經卷上」に、「道蔵」は「道德眞經註卷之二」に作る